

好古雜抄

二

チ 1
824
2





多田海仲

人王五十一代
清和天皇後胤
鎮守府將軍
經基長子

且

重盛長子中
亮三位中將

義為

義家四男
第六條
判官

為

維盛

時政長子
北條陸奥守

有

滿仲四男征
夷將軍賴
信次男

清賴

賴義長子八幡
大郎三男式部
大夫入道

希義

如

純盛

從理大夫

義朝五男土佐冠者

盛

平忠盛

平忠盛
重衡
清盛
五男
本三
位中將

忠盛長子太
政大臣
平清盛

敦盛
正二位參議
經盛三男無官大夫

小平重盛
小松内大臣
平相國嫡子

清盛三男八
寫内大臣右
大将宗盛

清盛四男
新中納言
知盛

清經

知度

清盛六男
参河守

重盛三男
左中將

平義盛

義盛
長子
和相模守

平義盛

賴仲

為義五男
男五郎
掃部助

能登守

教經

教盛四男

義隆

為義次男

爲義長子
左馬頭
源義朝

爲朝 爲義八男 治五
八郎

平道
盛
教威
長子
越前守

義朝三男
右馬頭

元治長子
三郎 爲義

信 繼

義朝九男 侍豫大夫
九郎判官
源義經

源賴朝
義朝
三郎

日
義經

絶賴
志衡
三男
和泉三郎

信

依藤元治
二男 忠
信

秀
衡

依藤太 秀乃七代孫 鎮守府
軍將

鎌倉 源太
義衡

朝日將軍 木曾元百頭

義仲

祐親長
子 曾 我
十郎

時
宗

祐康二男
曾 我 五
郎

義威三男
朝子三郎
恭

友綱

桓武天皇後胤
四郎大夫 時家
一男 治 其位下
遠江守 北條

時政

義道

義助

義助

字津宮
弥三郎

義澄

里見太良義後五男
新田左中將

夫部別當号三浦
野荒次郎

義貞
義光

波多次郎筑後守

朝氏二男義貞
舍弟賜屋右京
阿佐形

兵庫頭仲政二男源三位

賴政

小山判官

賴季

相信三男
掃部助

時賴

時氏二男正五位下相模守
寂明寺殿卜部人

熊谷治郎

實忠

三河礪紀次大夫

盛師直
高武藏守

武彦坊

家忠
○平山
武者所

慶兵衛
未重

景時

金子十郎
各介下書下

猿尾十郎
兼房

佐々木四郎

梶原大平

景季

足利五代
未孫征夷
大將軍

忠綱

宗高

那須与市

景時二男源太

尊氏

足利義照

子氏舎弟号
錦七郎

正義

信長長子
勝頼

了俊

今川因氏三子今川了俊
守貞世

光秀

明知日向守

光秀

箭前
研須

藤九郎

象

季

豊臣関白大政大臣
大岡秀吉

贈大相国

信長

武田信玄

長尾

禪流

新七兵衛

景清

武田

信

長

宗

武田

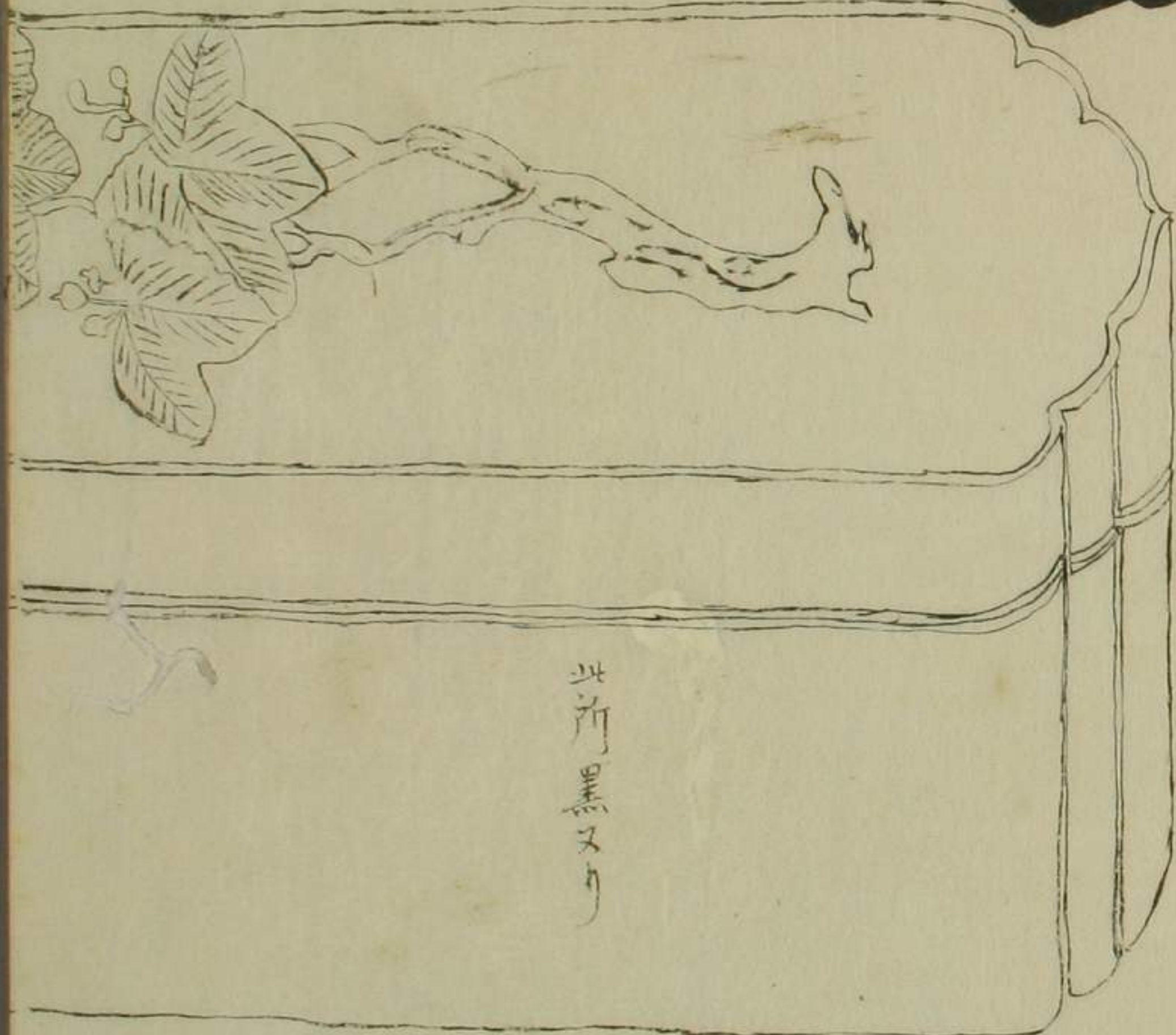
信玄

橘諸兄公末孫楠判官
为門之系 正成

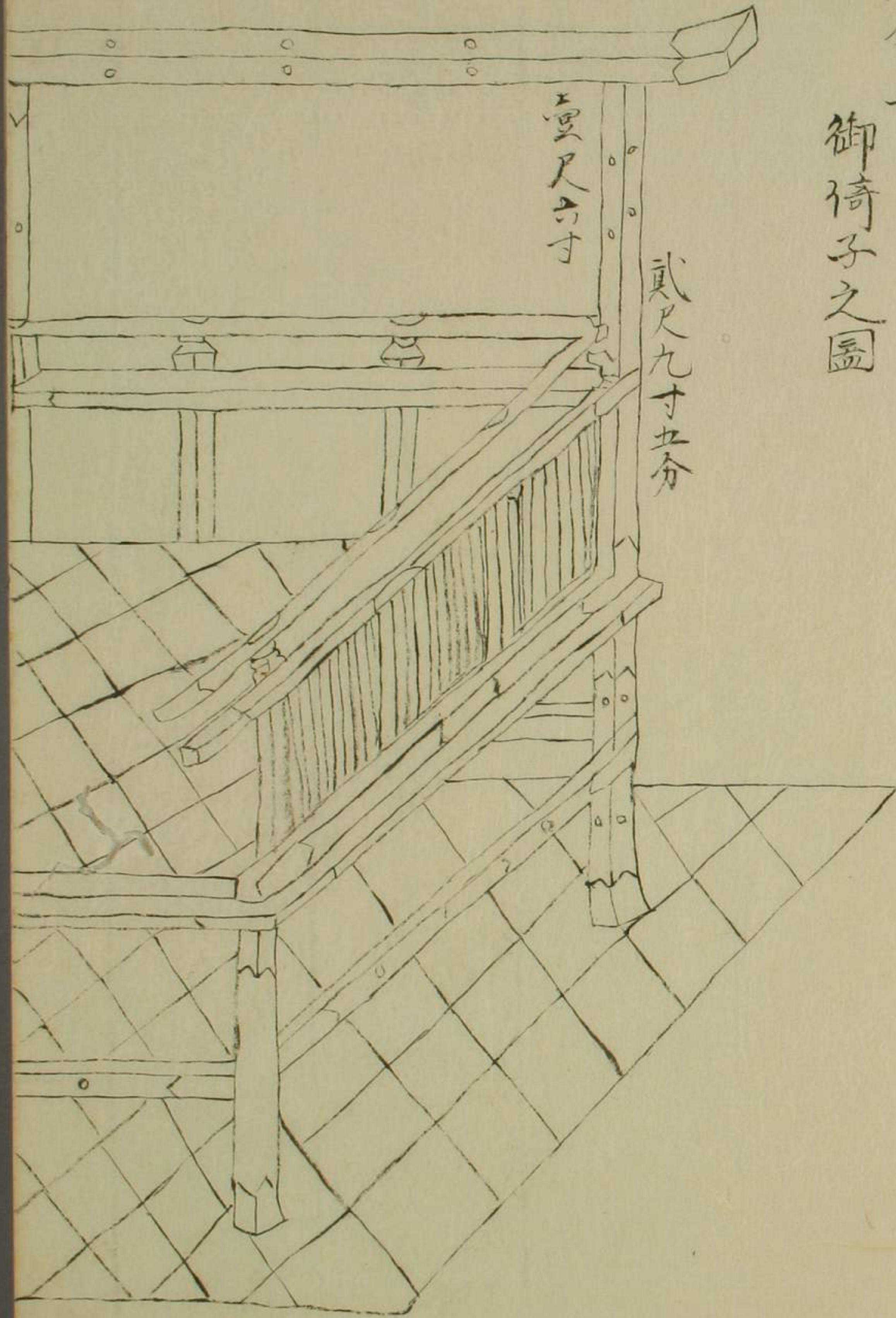
楠

天子御笏笠

高橋家
所圖ナリ



此所黒ナリ



今上
御椅子之圖

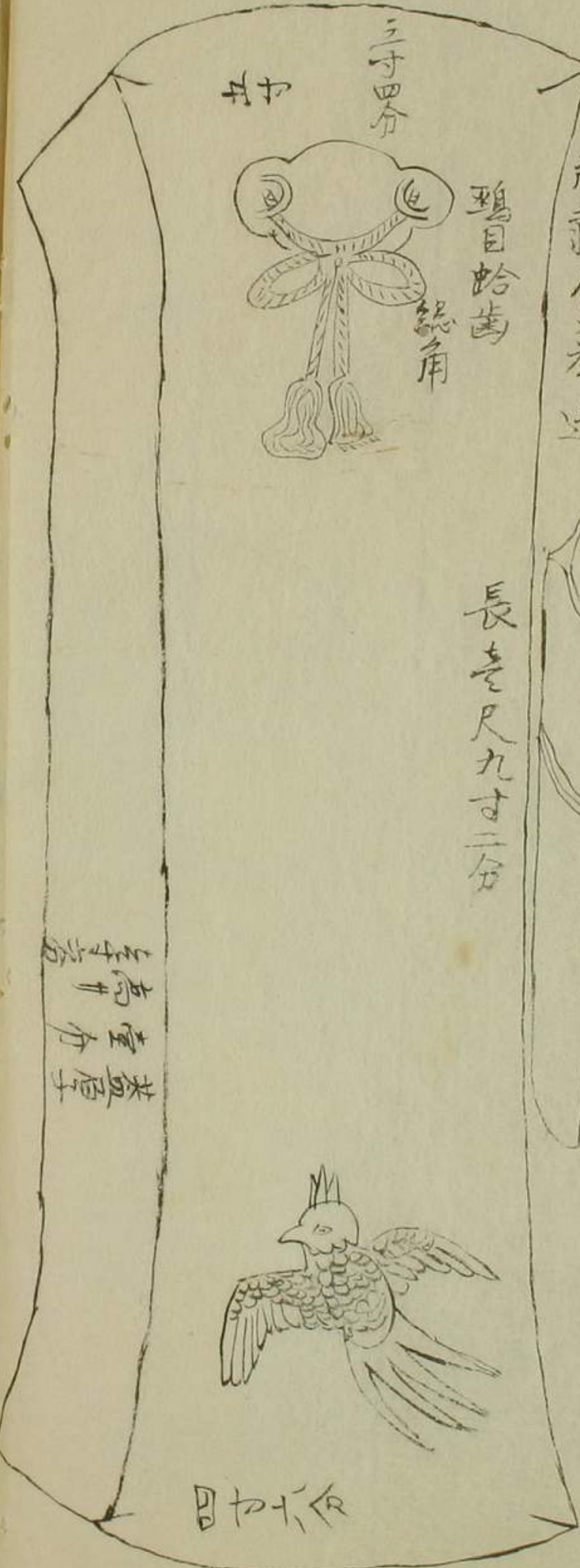
壹尺六寸

貳尺九寸五分

袋笏

田山潘之臣源清良以

所藏全奉造



卅

三寸四分

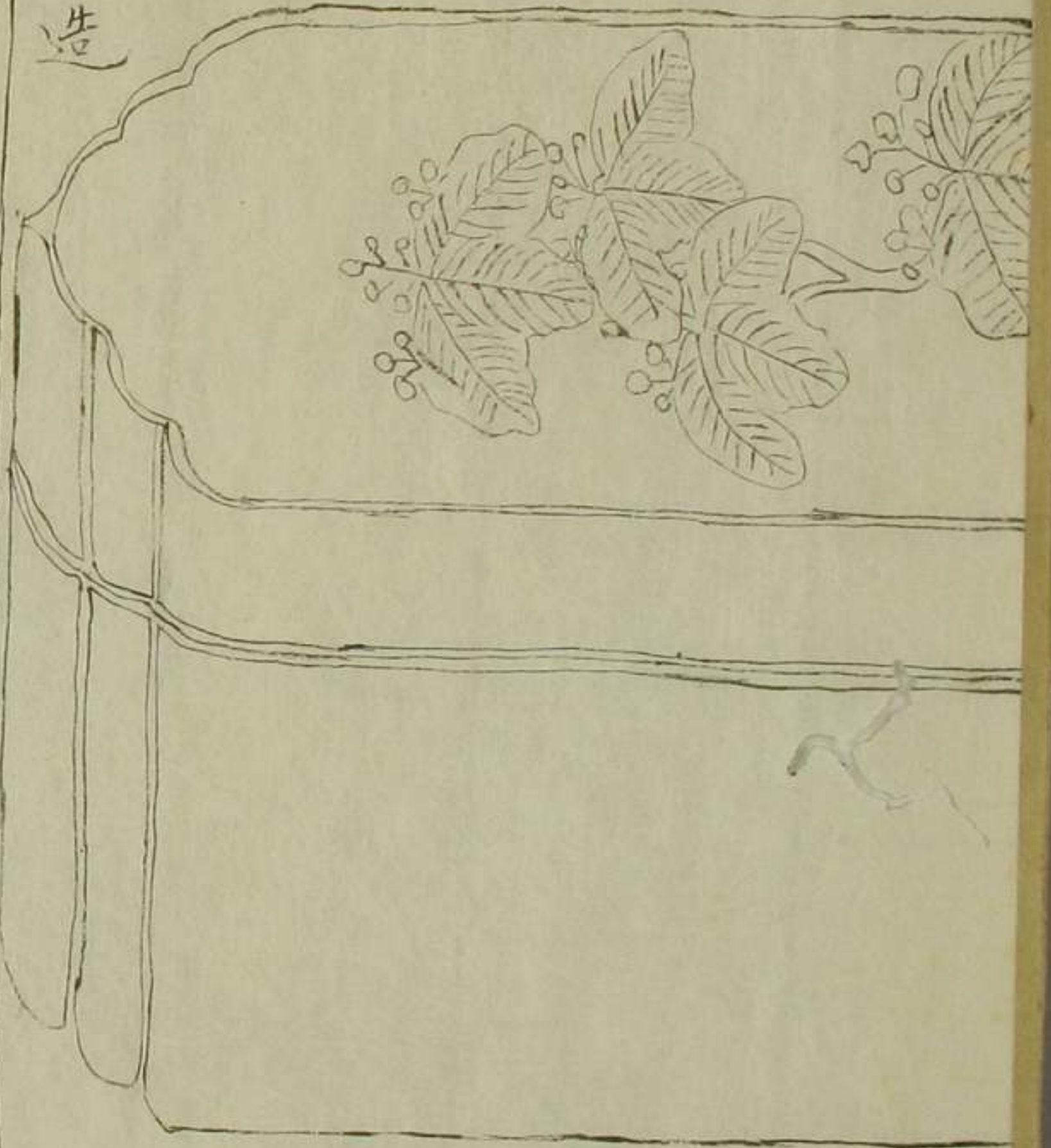
鴉目蛤齒

銀角

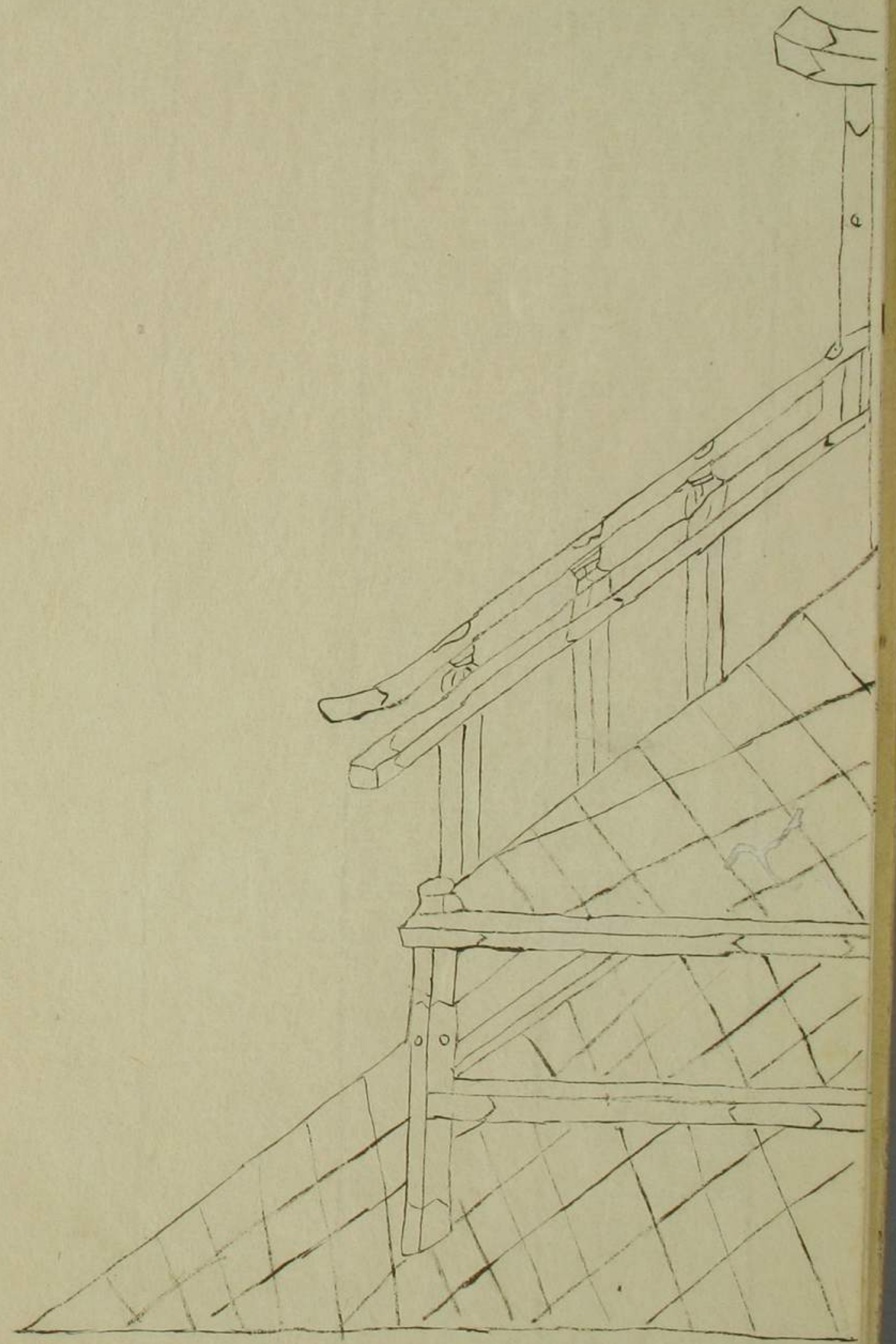
長壹尺九寸二分

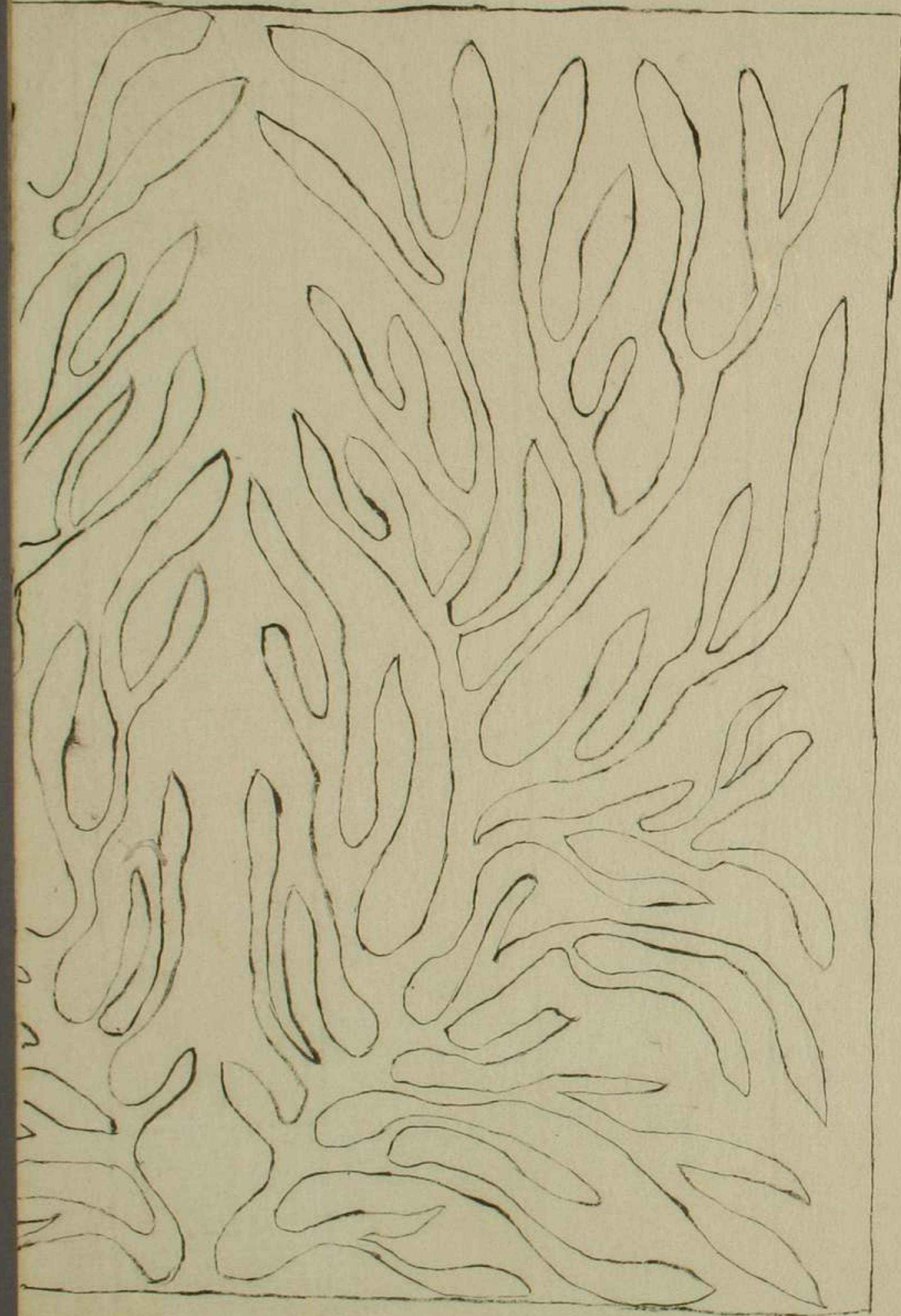
長壹尺九寸二分

卅

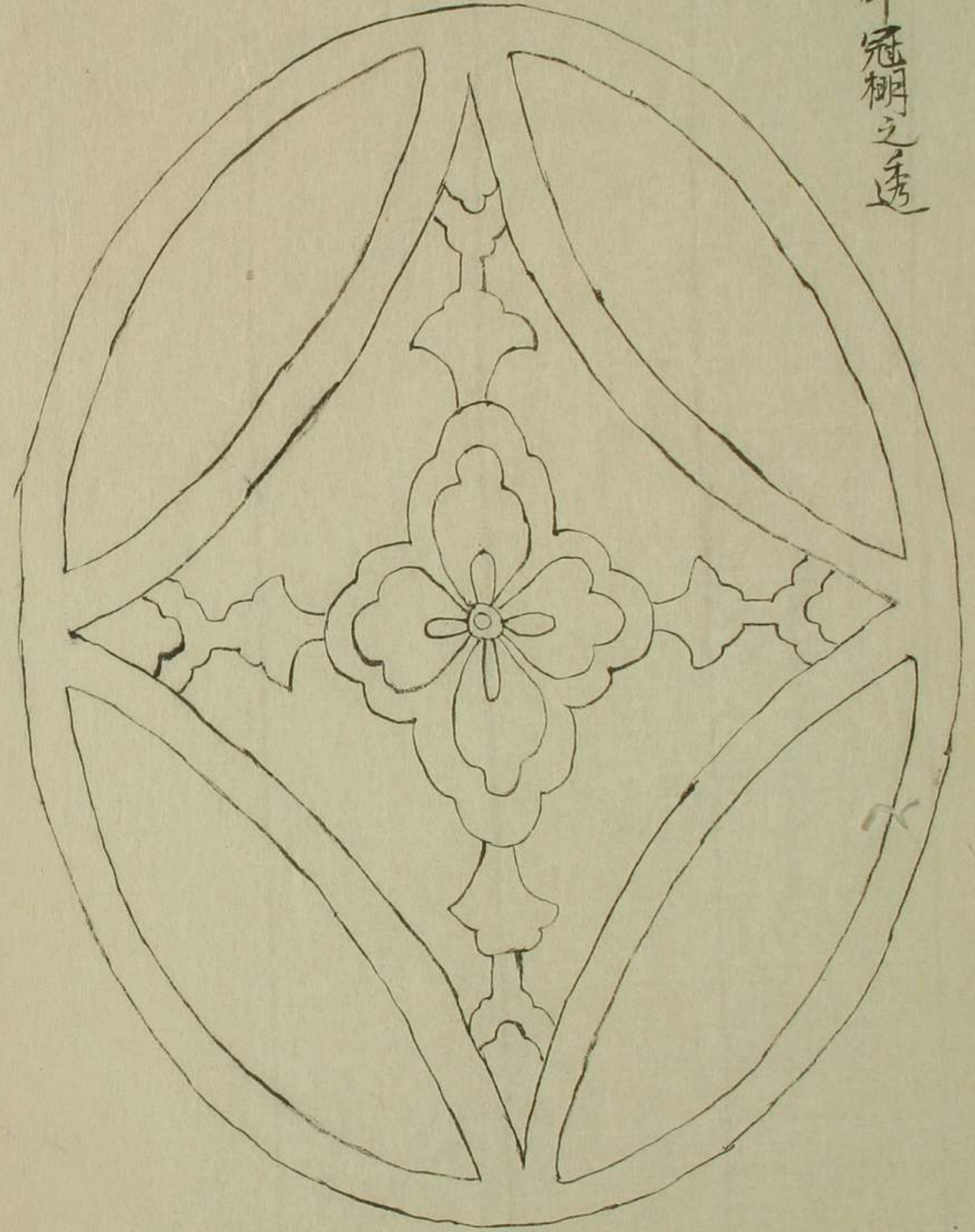


御衣之紋

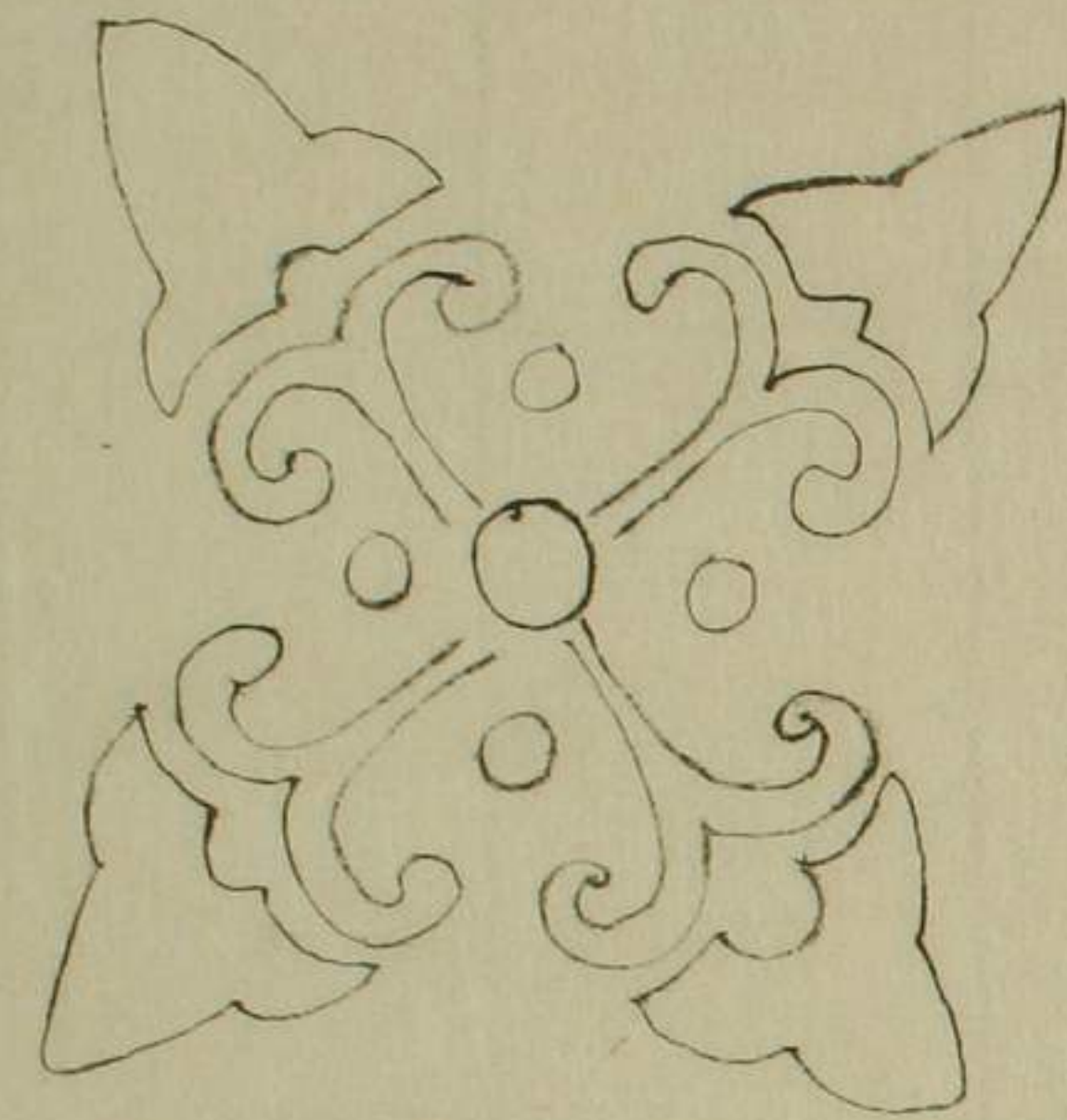
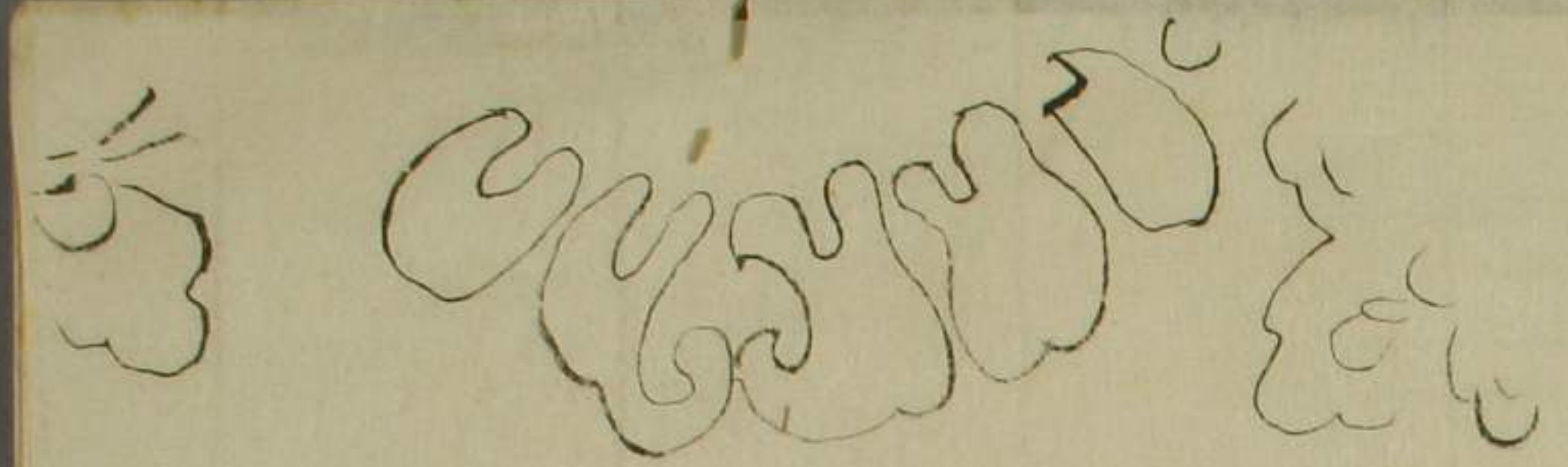




笠形海松御紋



御冠棚之透



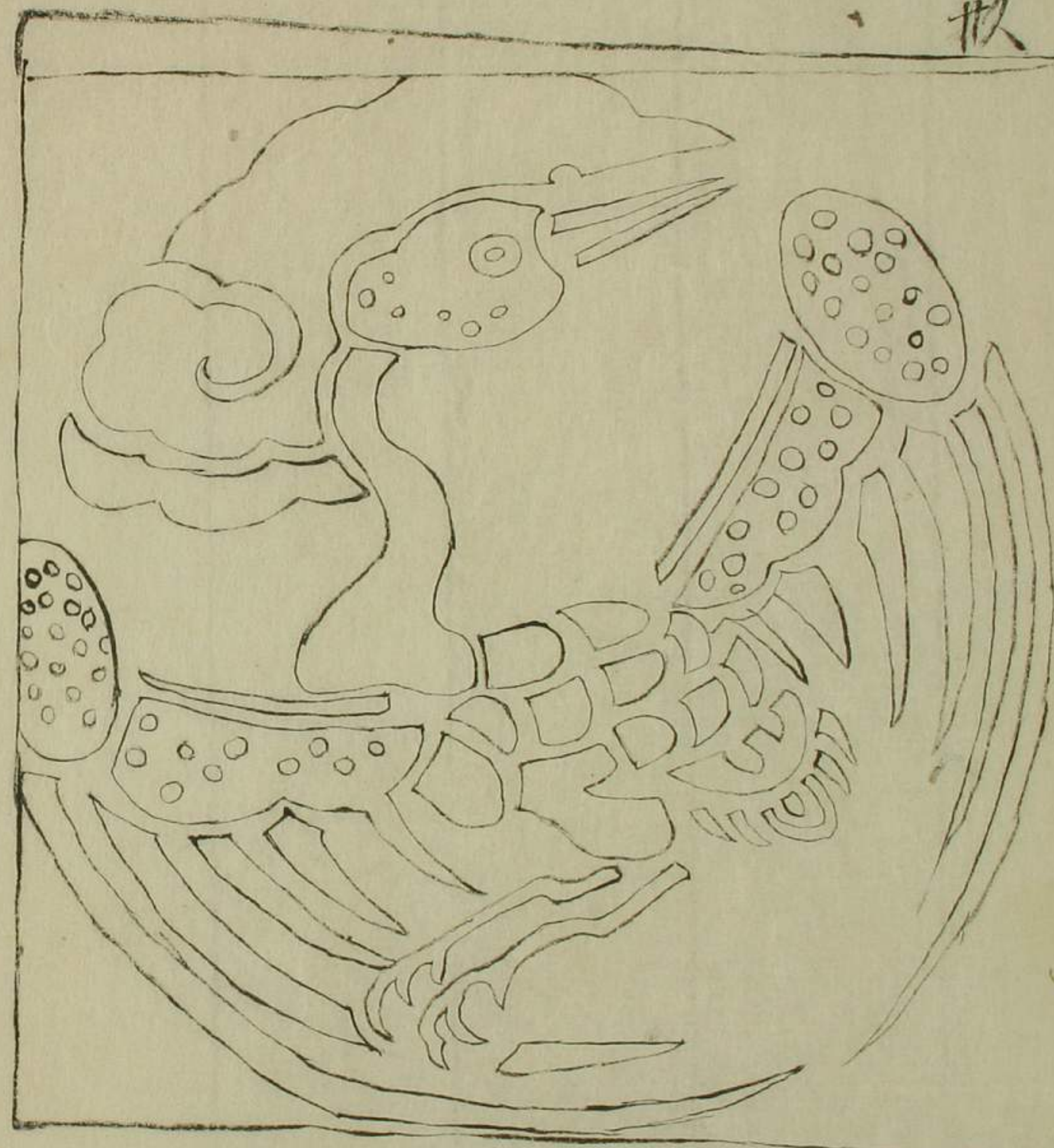
殿上御唐紙之形

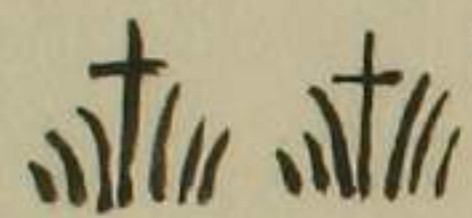
難波象

此之之故



古
歌





真杉立



草立
草枝立



豹形

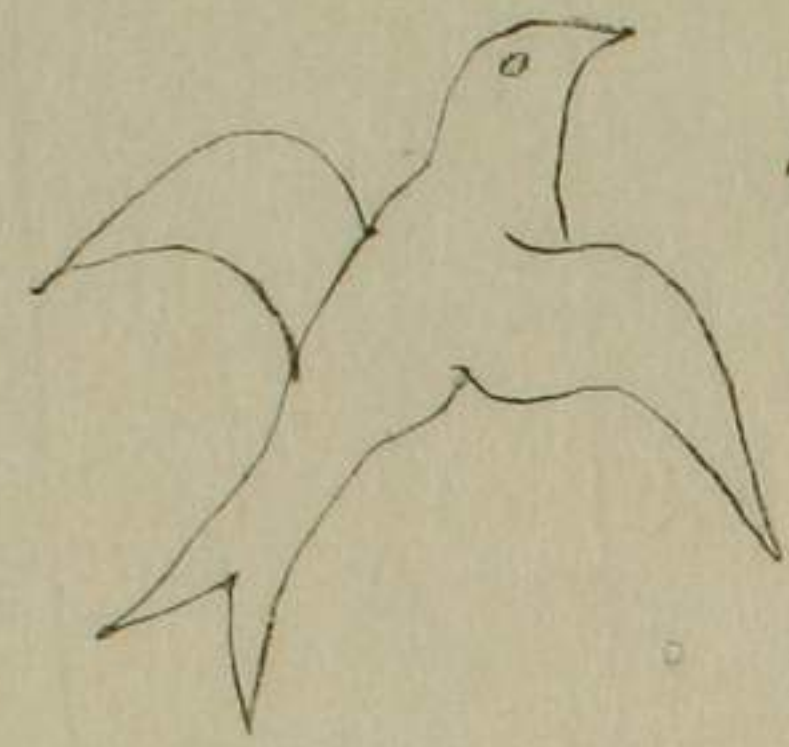
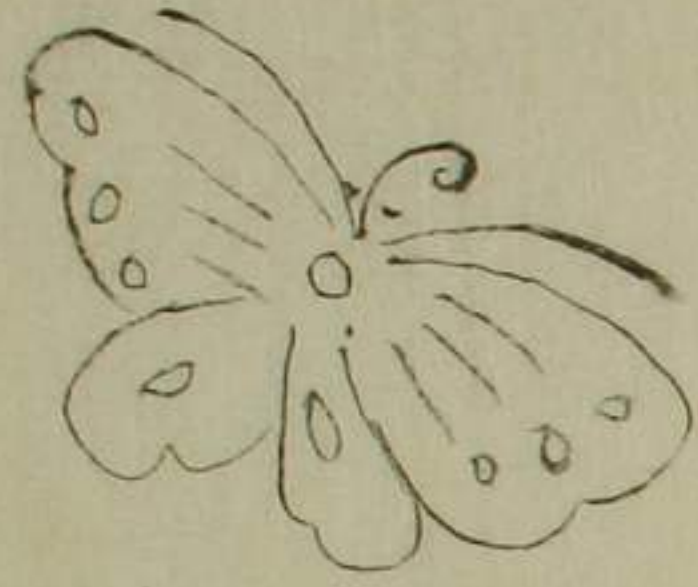
八幡大谷村一類染之昔曰蒲草寫



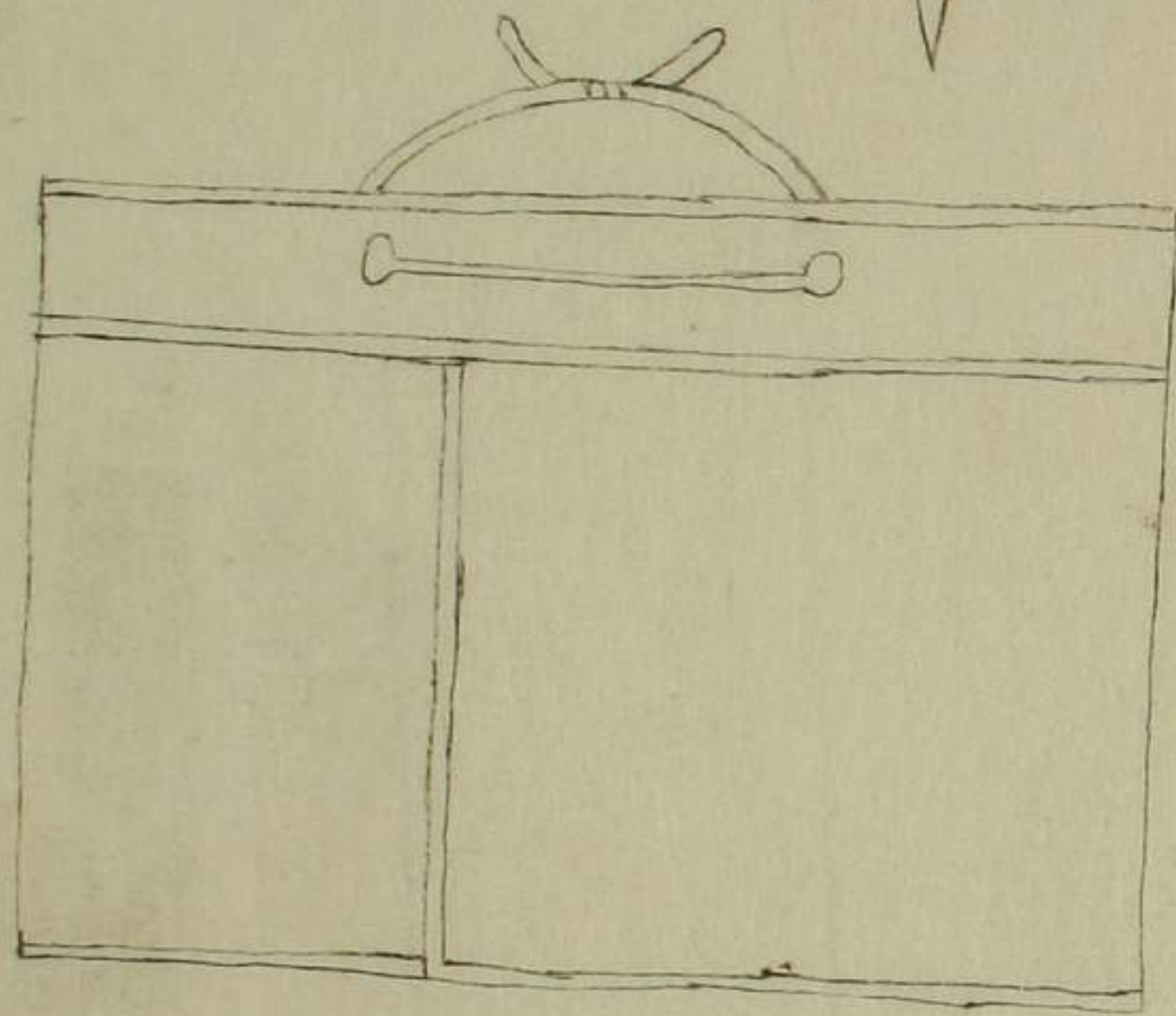
小忌主月相形



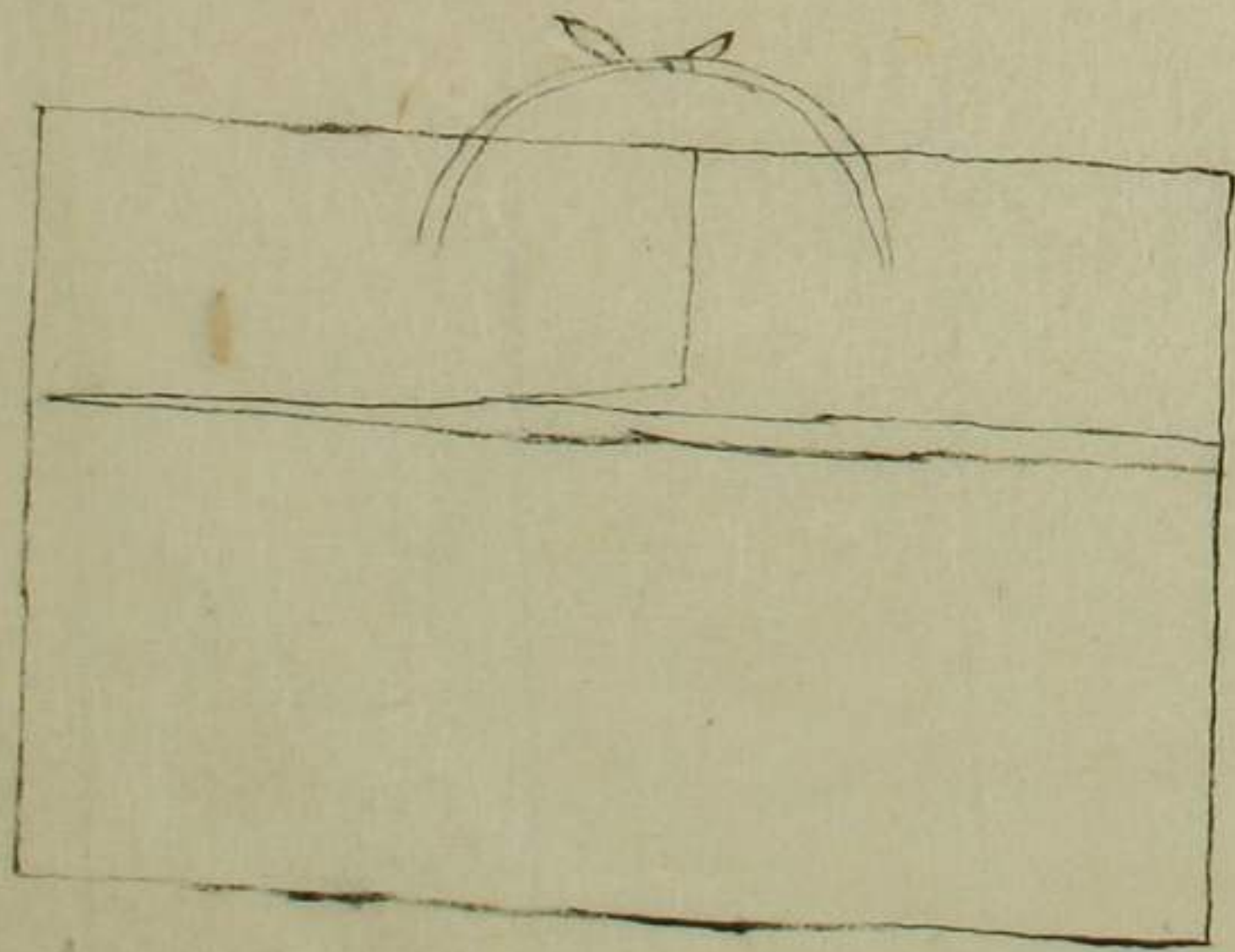
大内御屏風形



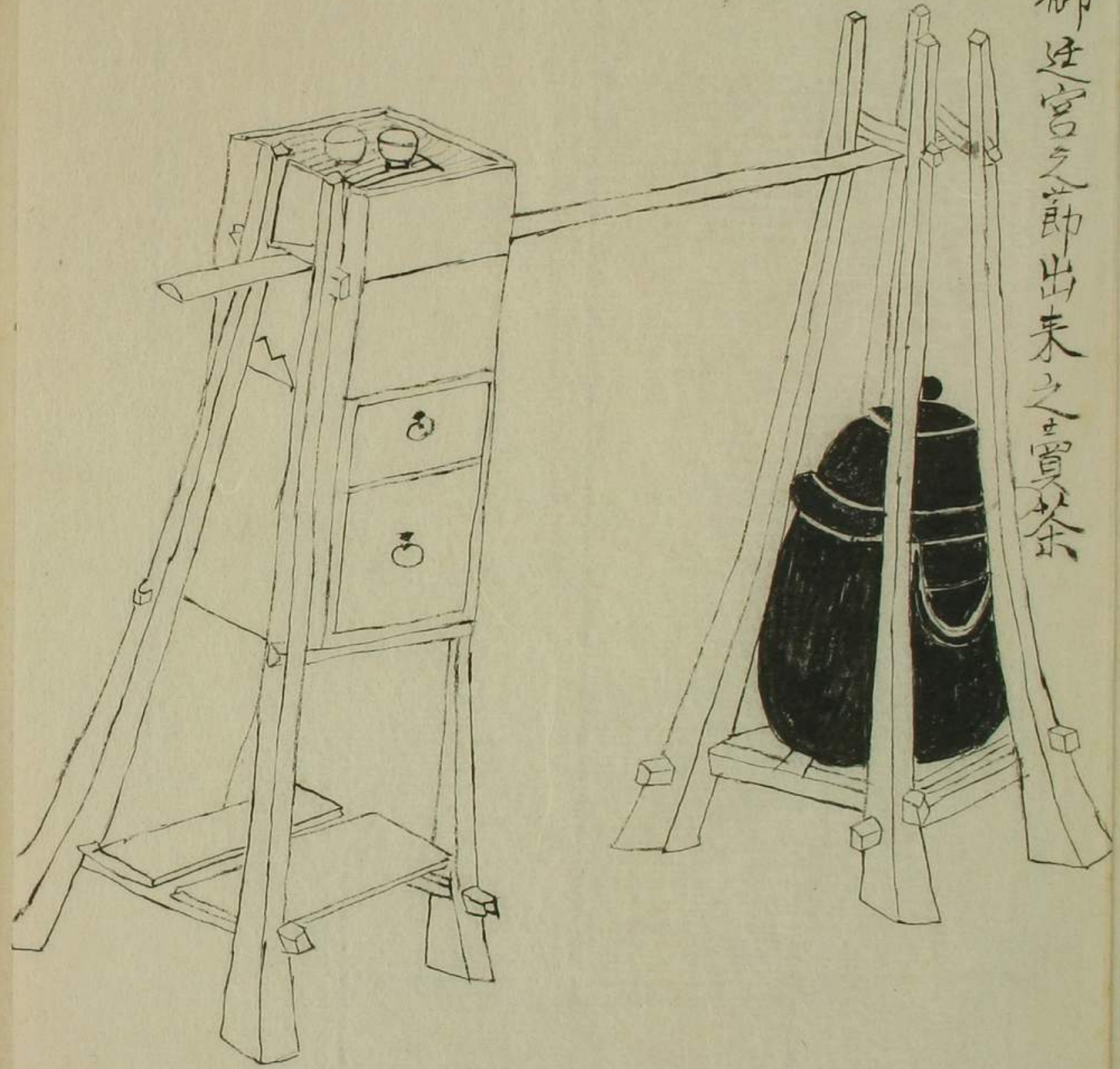
南殿賢聖障子
緑繡蝶鳥模様



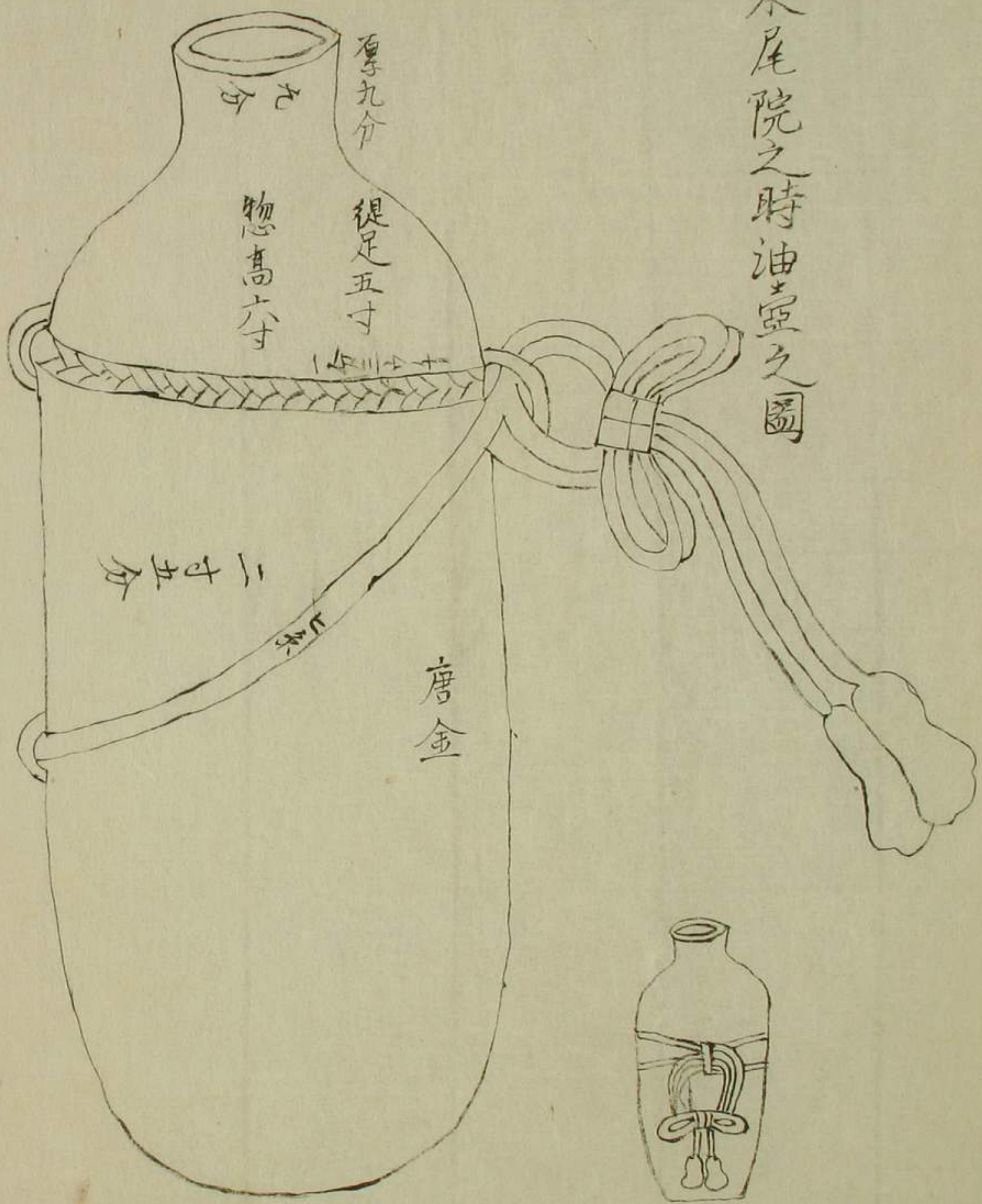
幣袋



南都御廷宮之節出来之賣茶

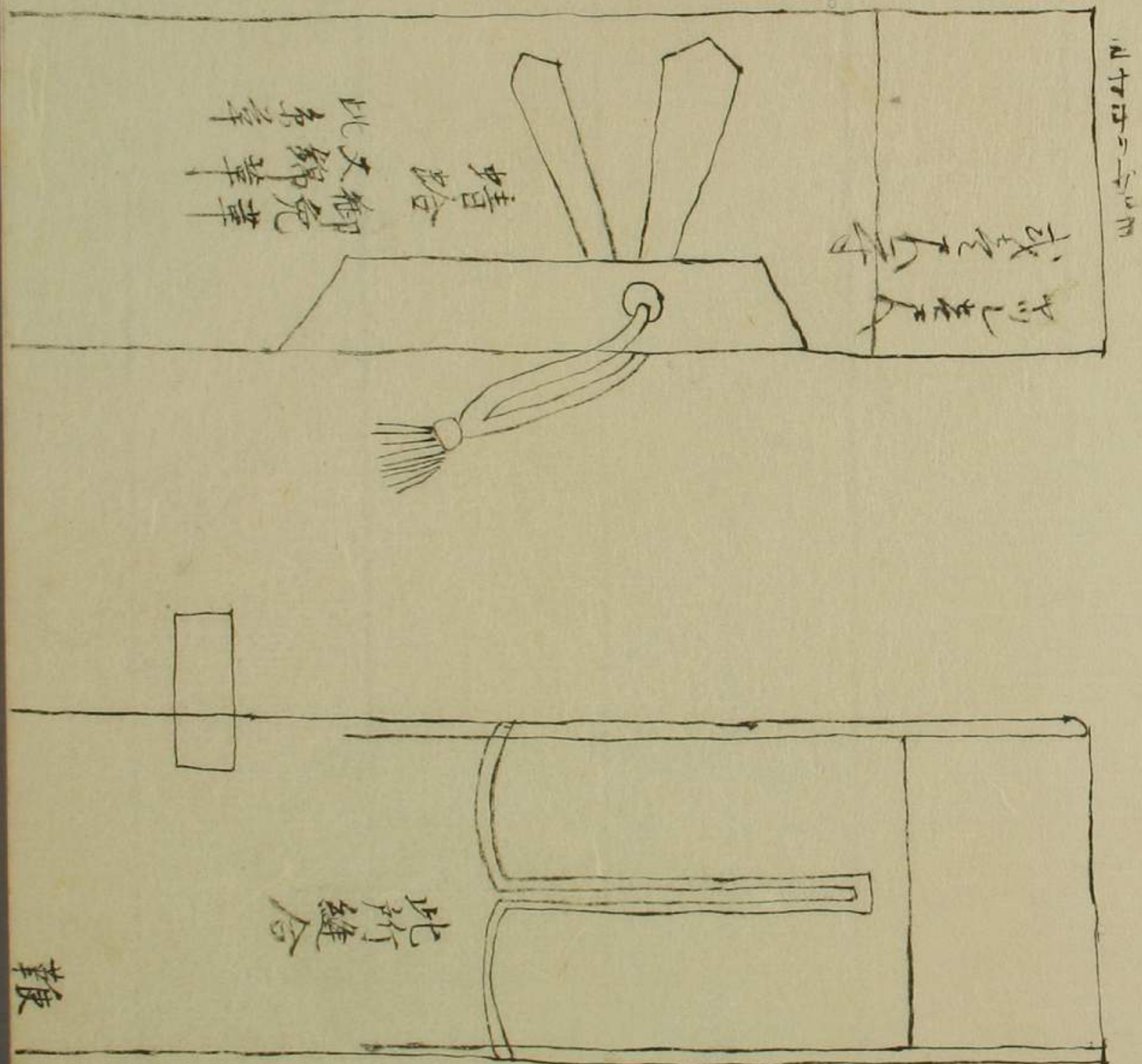


後水尾院之時油壺之圖

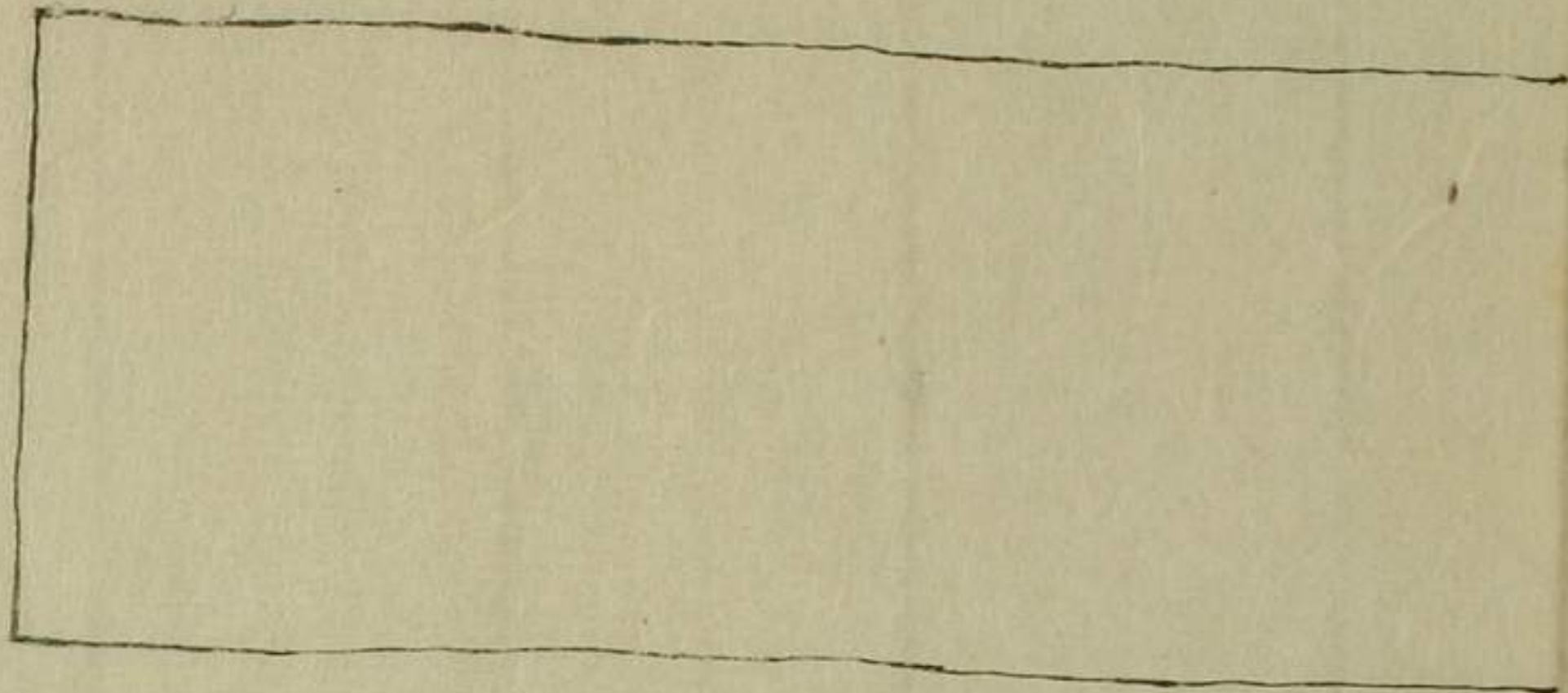


菜帛

後小松院
嘉慶二年
義滿將軍
八幡宮
又後花園院
永享二年
義教將軍
宜下之後
八幡加茂松尾
社參時調度
櫛二被附久
圖如此
物心帛長三尺五寸
七寸五分三寸但菜帛長短
ニヨルハ
表大和錦或金襴
ニ毛入ル赤紅精好
又元色也



續三寸四分
紫或紅此紫



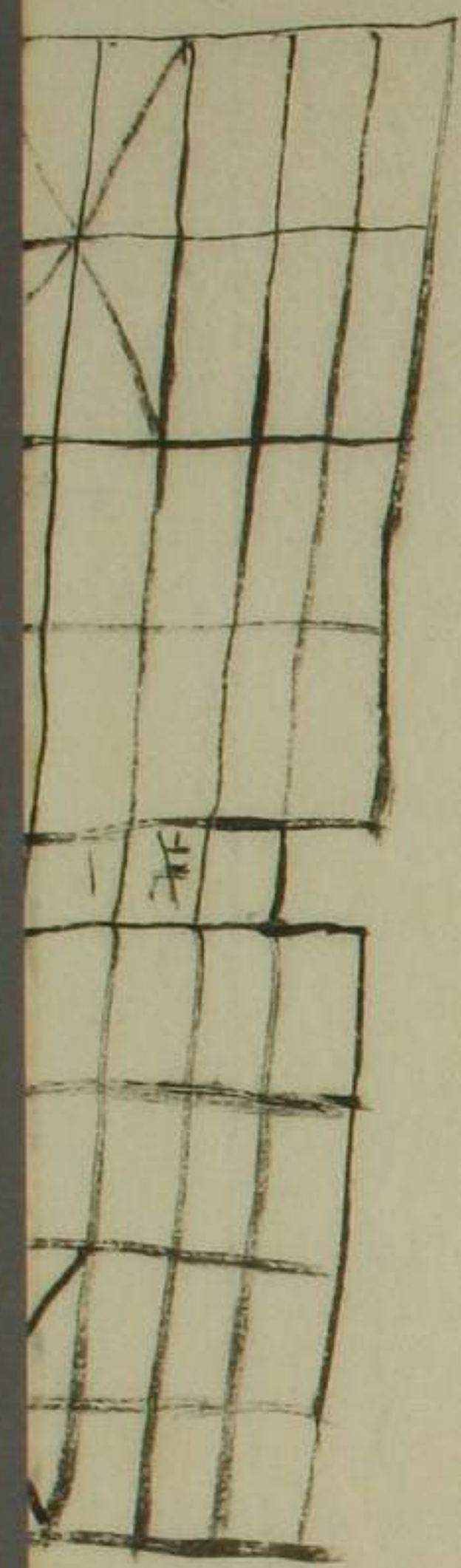
袋圖表金入輝
哀帝九祖百布 三毛
紐長四尺四寸五分 但釐尺
西志 十廿長二千五名
名目六外五名月 地張江中秀之

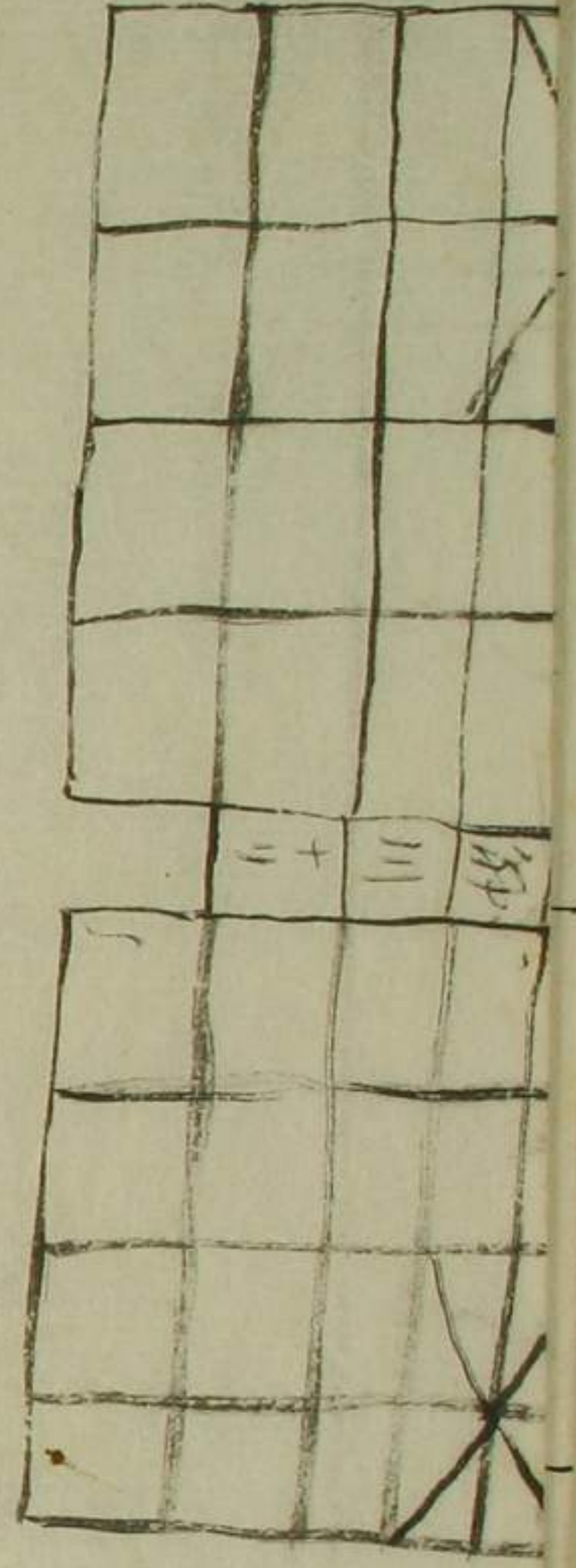
尚書部
治部尚書
風
城
東
福
禪
寺
重
寶

度牒 我國之唐學了僧戶牒者
正和三年四月八日左大史小槻 宿祢清持 給此

唐將棊之圖

- 師
- 炮
- 車
- 馬
- 相
- 士
- 兵
- 將
- 象
- 砲
- 馬
- 車
- 士
- 卒





室町殿日記
午形

一御借用料只二百貫文者

六郎殿御内方御借用被也渡来九秋十七日所ノ内三文字利ヲ加
急度御返辨可之有候假被行徳世行共此借錢ニ於テハ無相違
御返辨可古候仍状如件

天文十二年十一月廿日

猶村市古傳門 長高

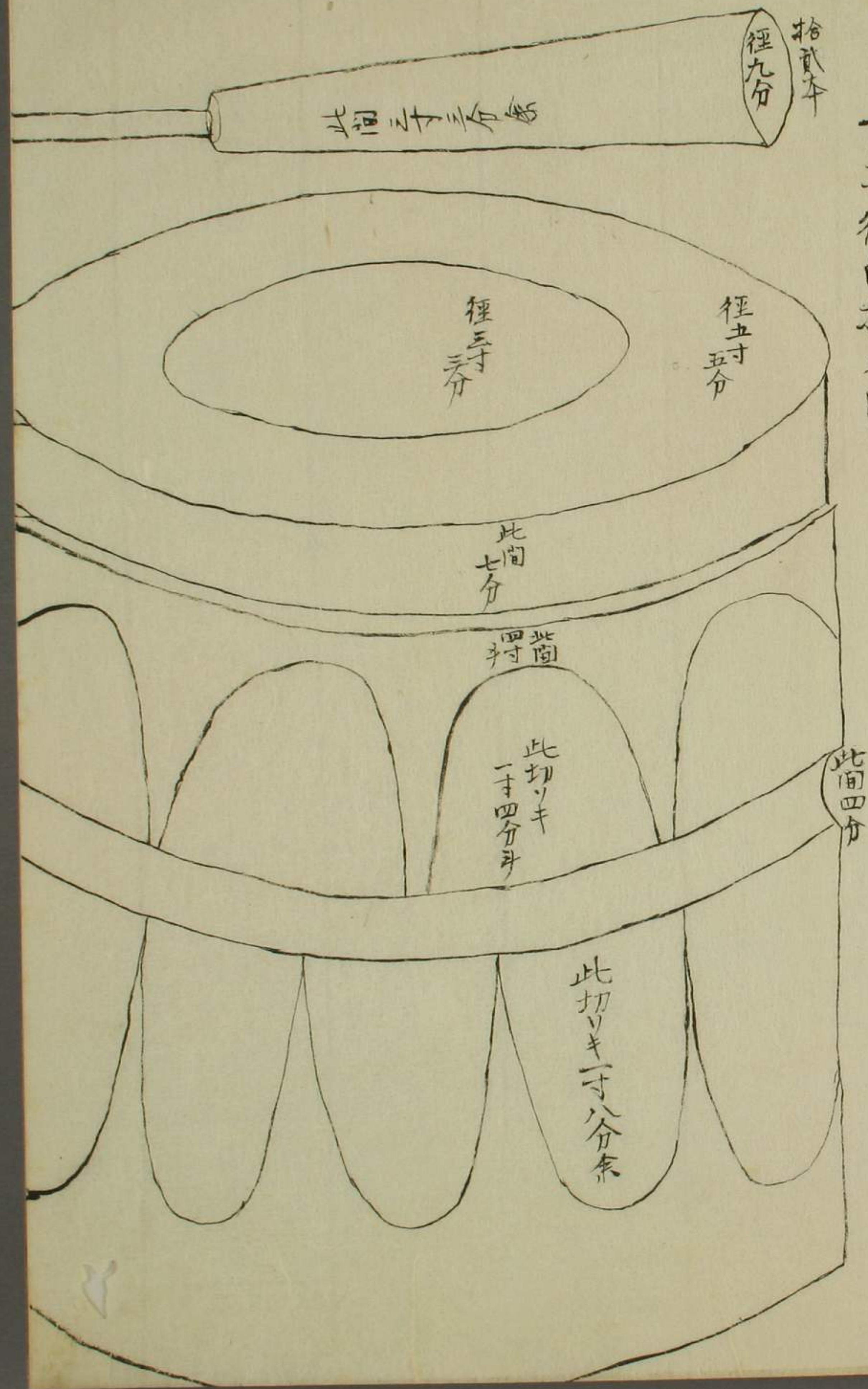
十秋日向守左列

坂大山路天満屋

博多屋宗借

長延

亥子御白拵之圖



拾貳寸
徑九分

此間三寸五分

徑五寸五分

徑三寸三分

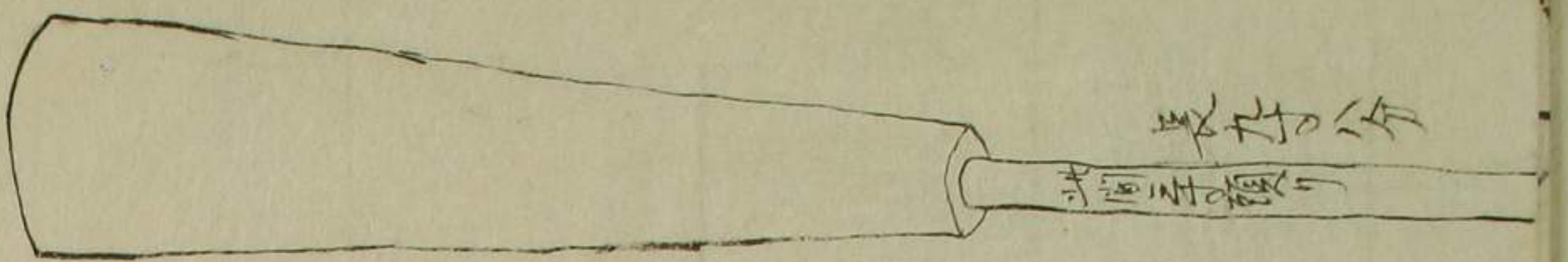
此間七分

此間四寸

此切ソキ
一寸四分斗

此間四分

此切ソキ一寸八分糸



長金尺一尺二寸五分

并賞對

御上様
右に申上

神皇正統記の御代に
ついでに
ついでに

ついでに
ついでに

ついでに
ついでに

ついでに
ついでに

ついでに
ついでに

長金尺一尺二寸五分
江田氏傳來歌袋

寸法
宛

青紙	長一尺二寸五分
反古紙	長一尺二寸五分



経七寸五分

縁
茶
茶
茶

廿三寸六分

深廿五寸四分

長

六寸

七寸五分

紫
四
七
筋

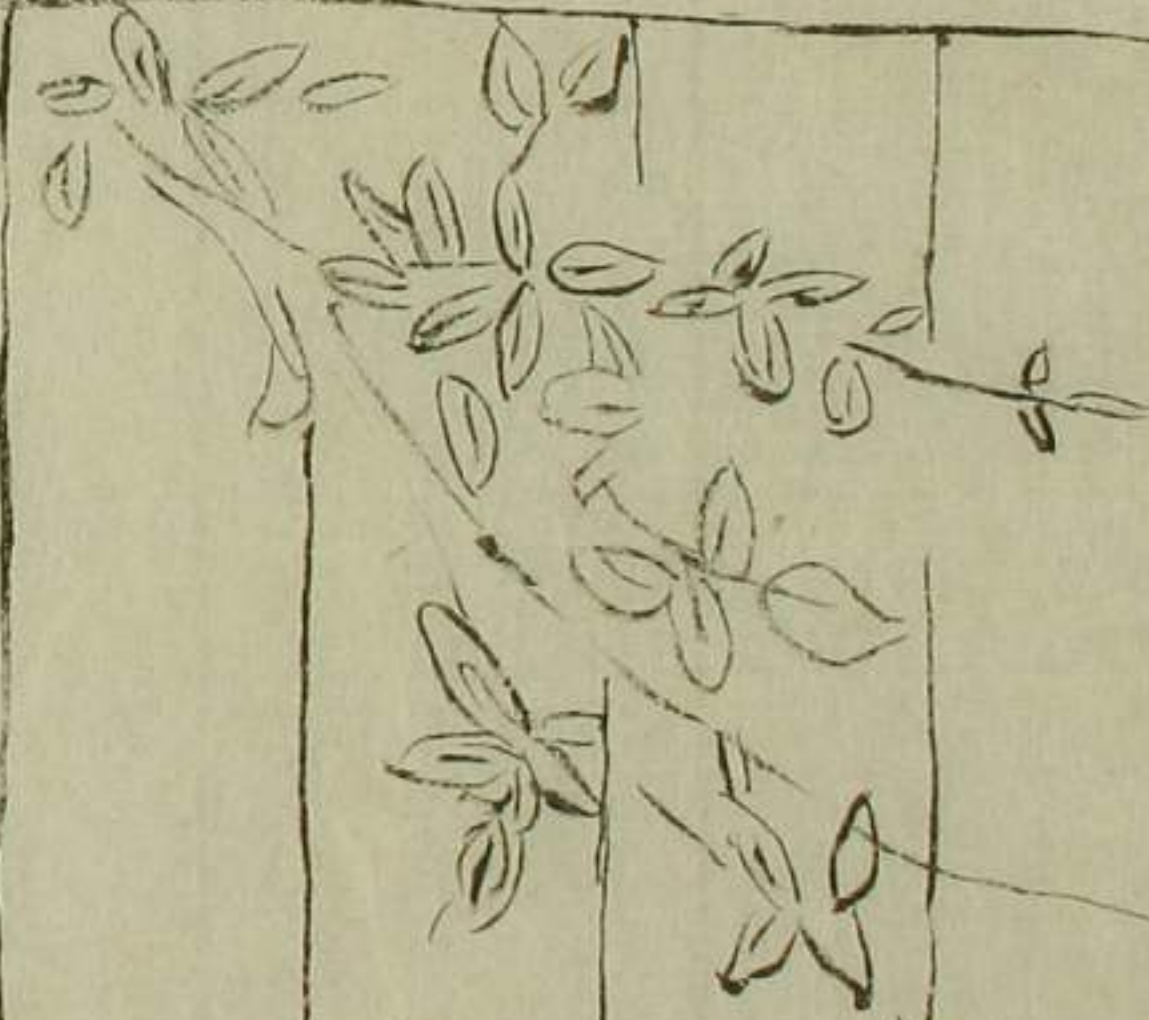
鉄
二
寸
五分

九月節 御行器

黑田勘解由孝高後如水卜号又筑前守治之代々
重宝 云云

天明七_未 五月於勢南各亭騰寫畢

上野介重名

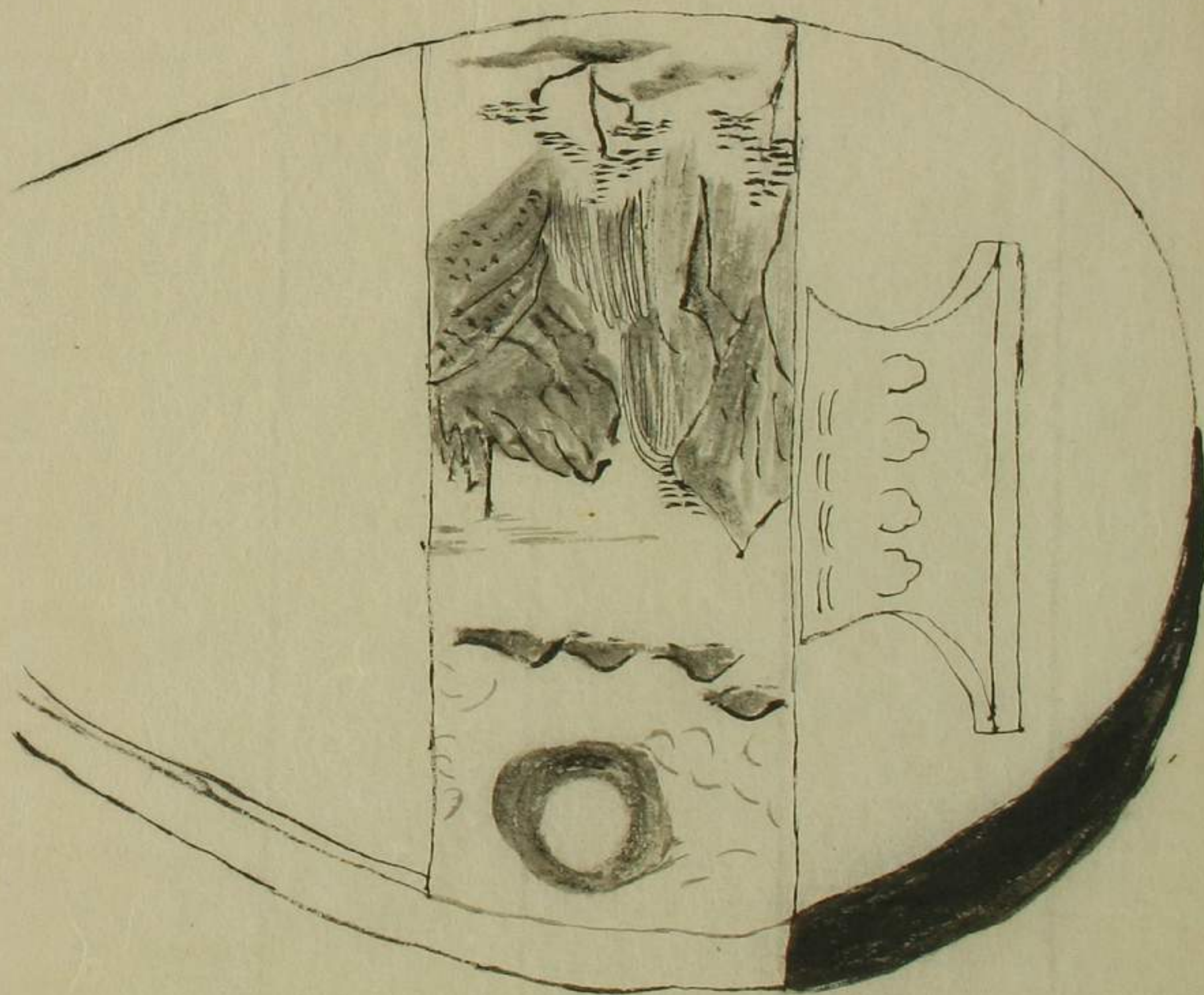


十二調子圖竹

羽衣袋の浴衣

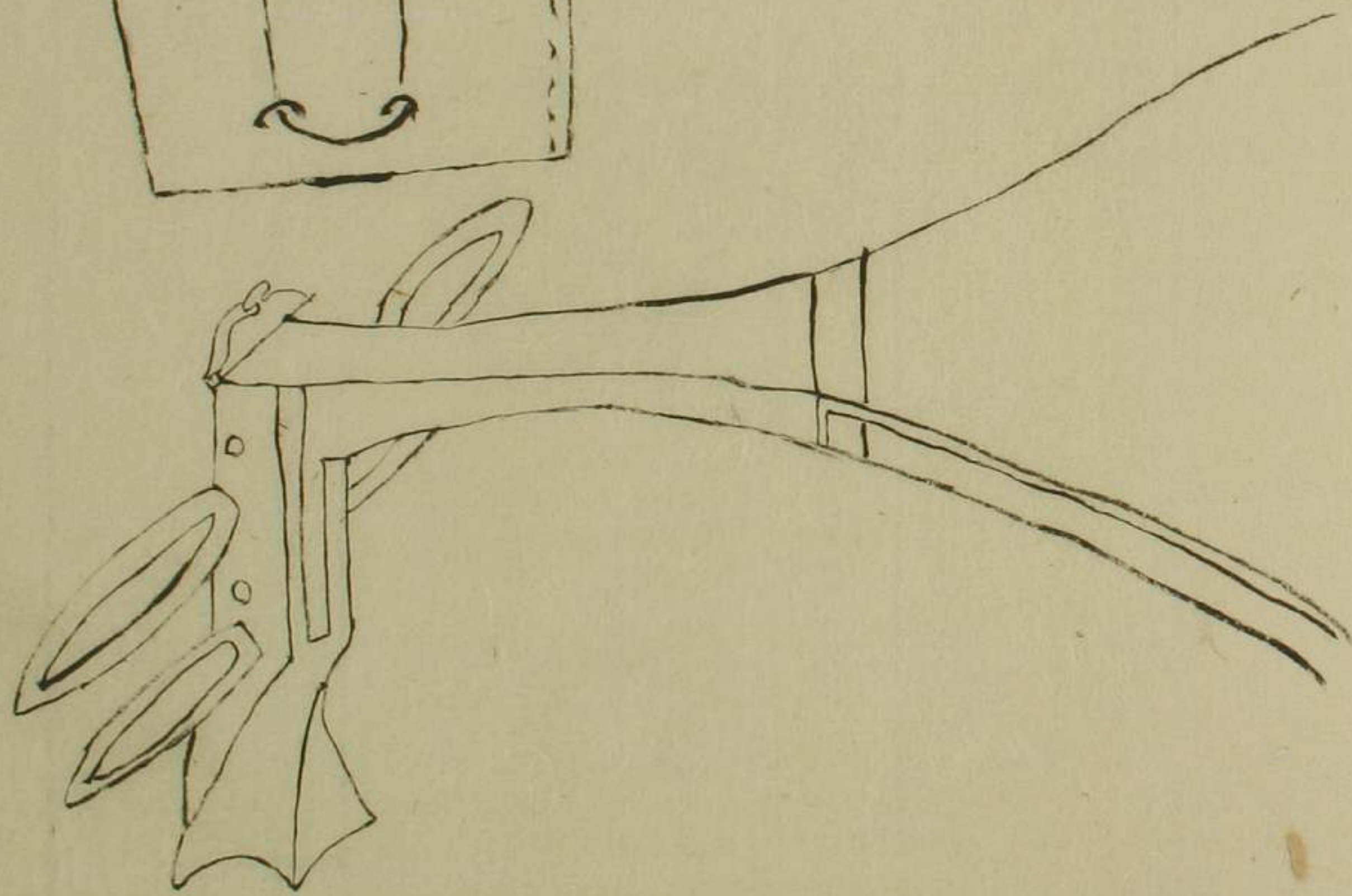
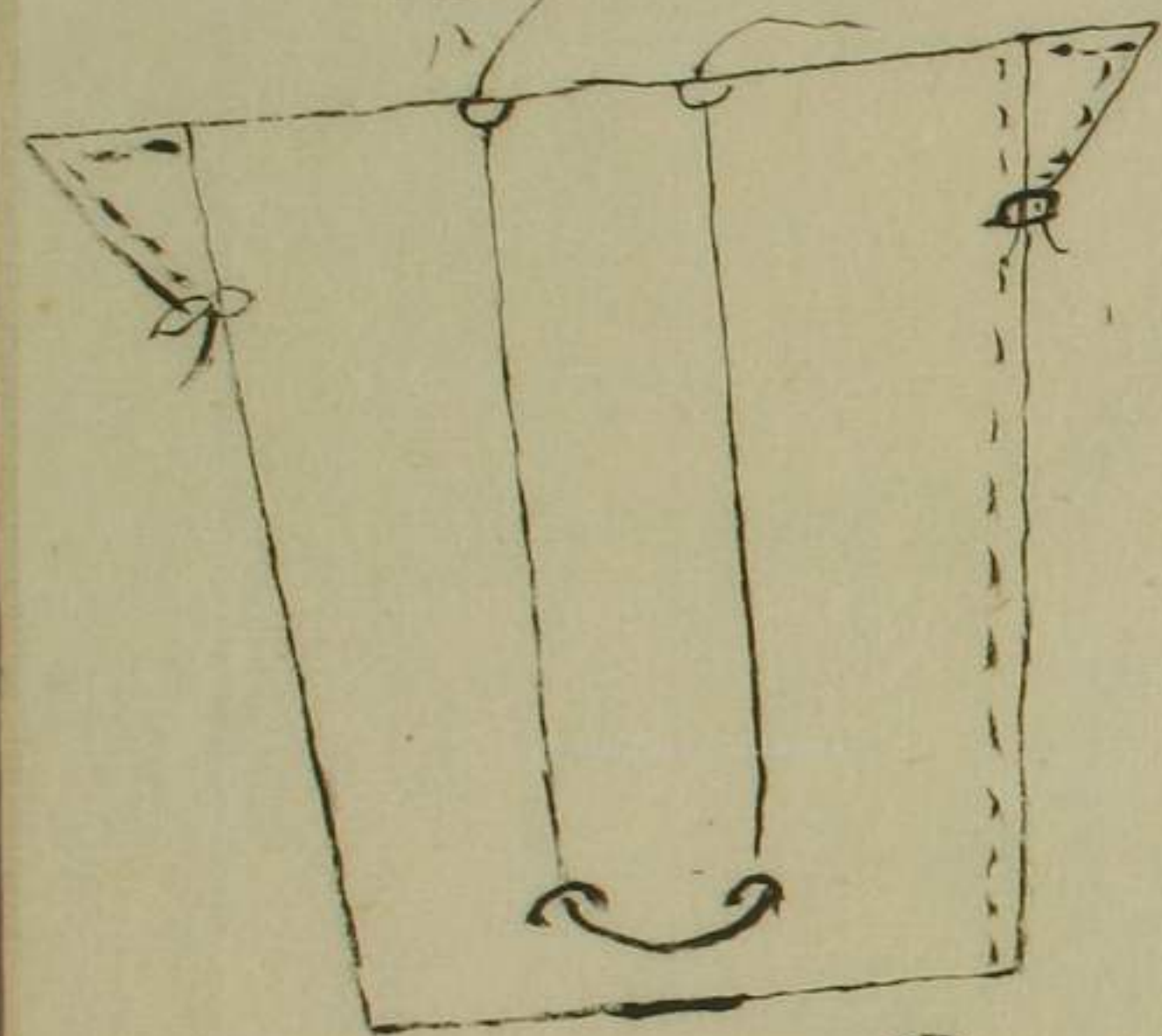
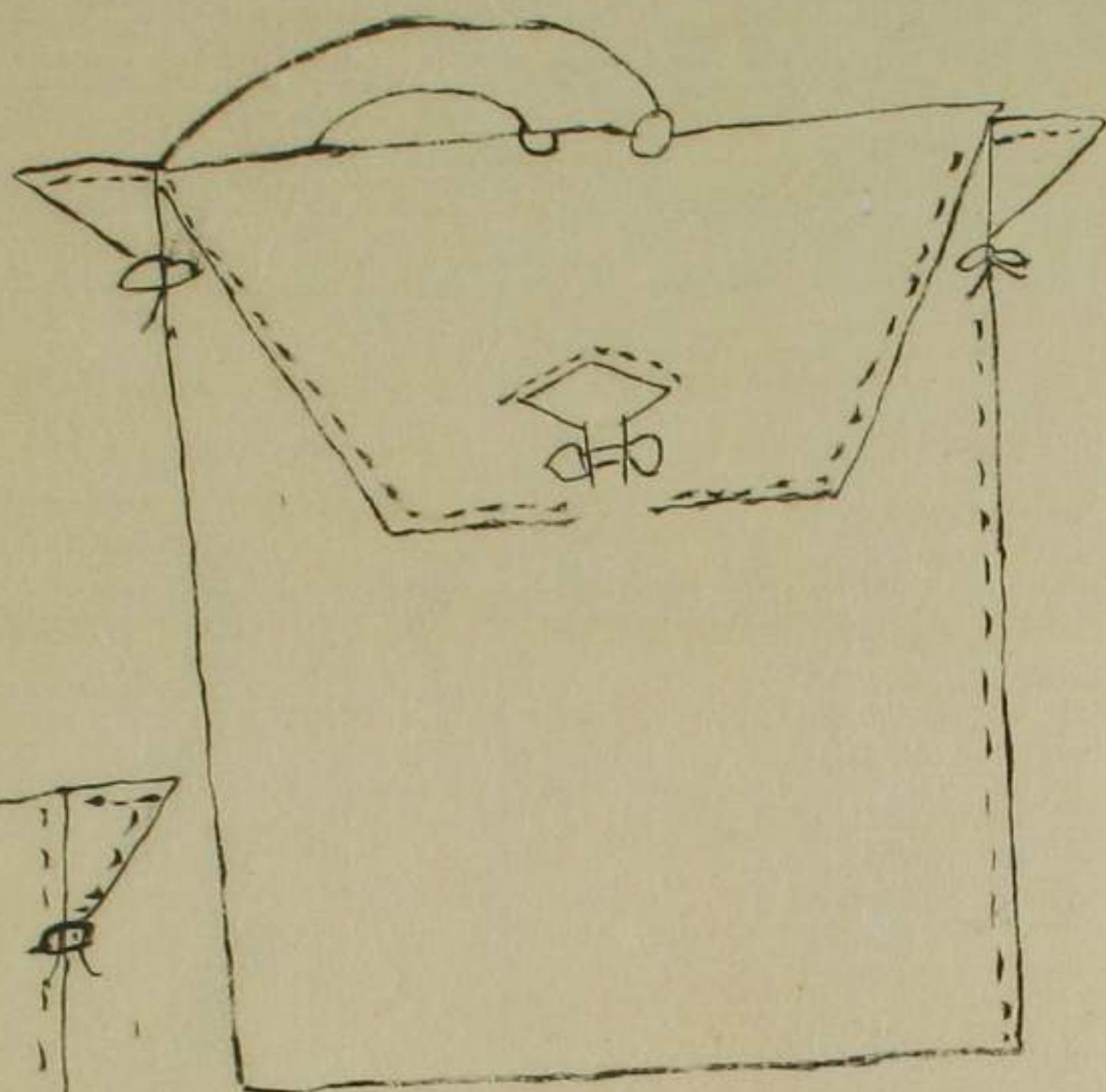
本意

甲くまろん
ほうふひたがたえ
を夜まをり
クひろむけ
志よけんは
こぶく日



八幡太郎結袋

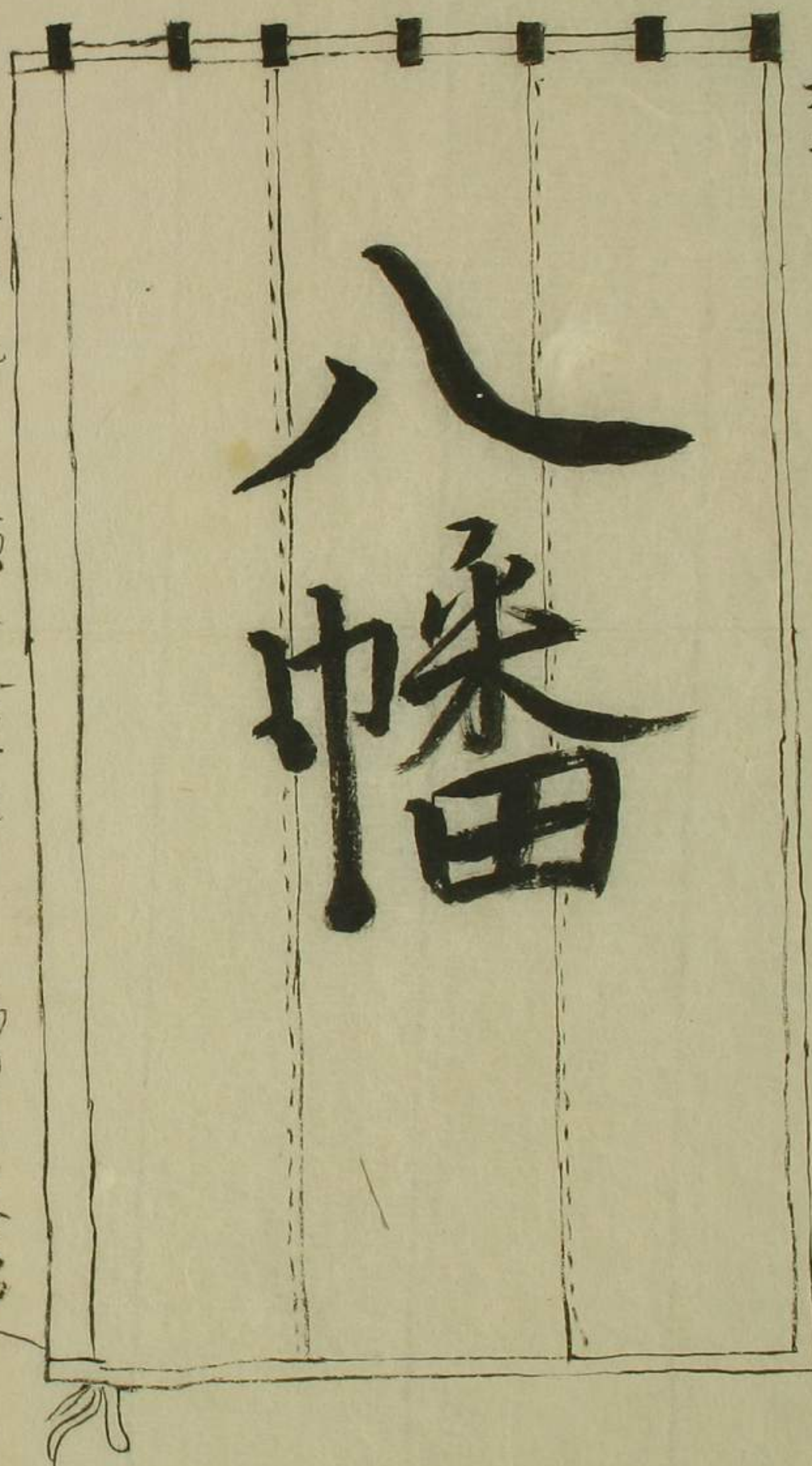
惣地紅羊カセニ縫総角
紫鞆紅羊包物心耳ニ
ハ十大猪咄茶色緒通
銅裏玉虫ノ茶色



武者物語圖

地黄八幡うゝの圖

八幡



立八尺九寸也

横二尺六寸也

幅一尺三寸也

出の神天の御魂早十の此處に或は
川の流るる所なりと云ふ事
乃ち此の御魂早十の御魂
たの御魂早十の御魂命を
河原の方なりと云ふ事なり
是れなりと云ふ事なり

浮城のまじりてゝ一とす
ふきかゝる領土をわたりて
かゝるに下りてゝす
かゝるに下りてゝす
かゝるに下りてゝす
かゝるに下りてゝす
かゝるに下りてゝす

みねのまじりてゝ一とす
あからたきまじりてゝす
難の境色をわたりてゝす
東のまじりてゝす
かゝるに下りてゝす
かゝるに下りてゝす
かゝるに下りてゝす

糺きんしんしんあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるる

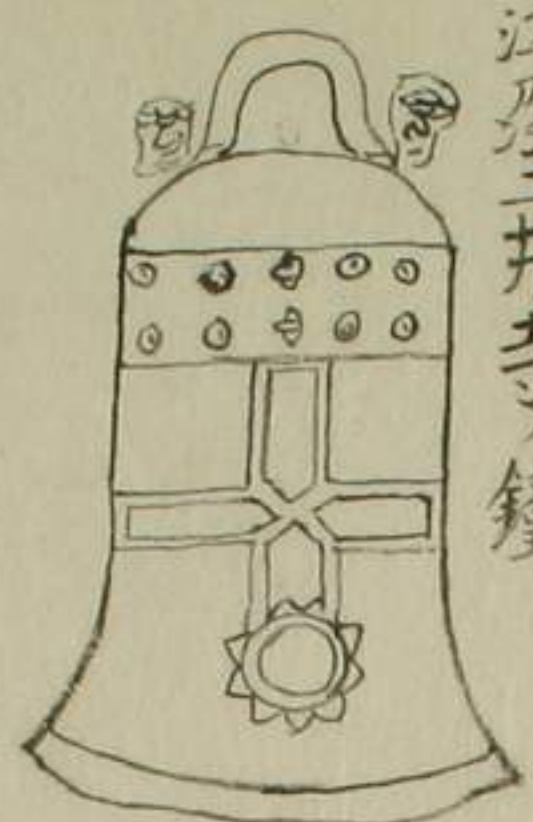
一乃たろそ一ゆかろ一
たろそを先んかそくそんか
そそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそ

そそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそ

中山前大納言愛親卿

物法家主人

江ノ井寺鐘



梵鐘

金堂側上檀有
高十丈寺門四尺寸
厚三寸五分龍頂
一尺寸五分傳云此
梵鐘八天竺僧精
舍造方三尺寸五分

佛滅後龍宮異入ヲ延喜ニ藤田秀卿
龍宮ヲ十種ノ寶ヲ贈ル其中一區ニ後當寺藏
太平記文録二年三井寺四録時鐘ヲ北叡山ガ
取アツテ供サラニ鳴事ナシヲ足ヲツケバ三井寺ノ
云カ如山僧イカテ無動寺ノ峯ヨリ谷落シ則
キ入ラ小蛇来リ尾ヲ以テ々々其ヒキイヘ元ノ如ク云傳ヲリ

新藤原

風流

かゝる縁や清き浦すまの如く神のみまの如くをわたり

入道親王
尊圖

唐寄

一ツ松 辛勝の漢造社願小あり 詠云むり 吾爾君植ま一
湖水一松造葉出は別記小書は枝葉繁茂不及長を対ハ
松陰小見元より又一ツ松と稱正平早云及不遠小其家石の跡
一樹さくあつたある中にも又ハ松の葉此間一葉あるものあり
黒あつた一ツ松とも呼ぶとす
かゝる記の如く小見ゆ白真砂地不備くをある一本の松
後三位皇子

新十

後三位皇子の神のみゆりのいみ

三井は親王
尊圖

それ幸寄の靈松ハ株の圍五尺高三丈餘枝子の枝葉四方へ繁あり
ある社頭(鹿)の麓さあつた潮上へ秀也

隱上孤松翠凌雲 心本明餘根堅厚地
真質指高天弱枝 異高艸茂業同柱榮
孫楚高真節隱居 晚笠輕

内裏清涼殿色紙形
志の浦や松のわきの吹しりさう浪とく氷の水うみ

馬存新大納言
光祖卿

懷風藻云

和藤江守詠禪寂山先考之舊禪處柳樹之

近江惟帝里禪寂定神山山靜俗鹿寂谷閑真
鐘入風傳我先考獨悟開芳綵寶殿臨空構梵
日月在再去慈範獨依色松柏九冬專
艸塹古樹三秋落寒草九月表唯餘雨楊樹春

以二首詩天平勝宝三年正月淡海三松の撰され懷風藻ハ出り傳教
大師より已前小宮舎あるを其證あり延曆寺根本中堂ハ延曆年中
傳教大師の建立其外三塔及び板川飯室無動寺等ハ世々の高僧
造立之都名所國會不見いれいり小巻に
拾玉
飯室の花の都れうとさ小鬼ある門をぬらとそさく
萬鏡

石山寺

仁江口元皇太子
十三日
藤原朝臣行能書之

此藤原朝臣行能筆也
右門内之堂塔ノ各十
尚寺空之重物多し
之畧也
地ハ水口藤原王山大園寺ノ金剛
在寺也

飯道推現

近江國水口、御
三大寺村飯道社
近衛院久安年中
勅額ヲ賜時里員
之德社ト而一宮之

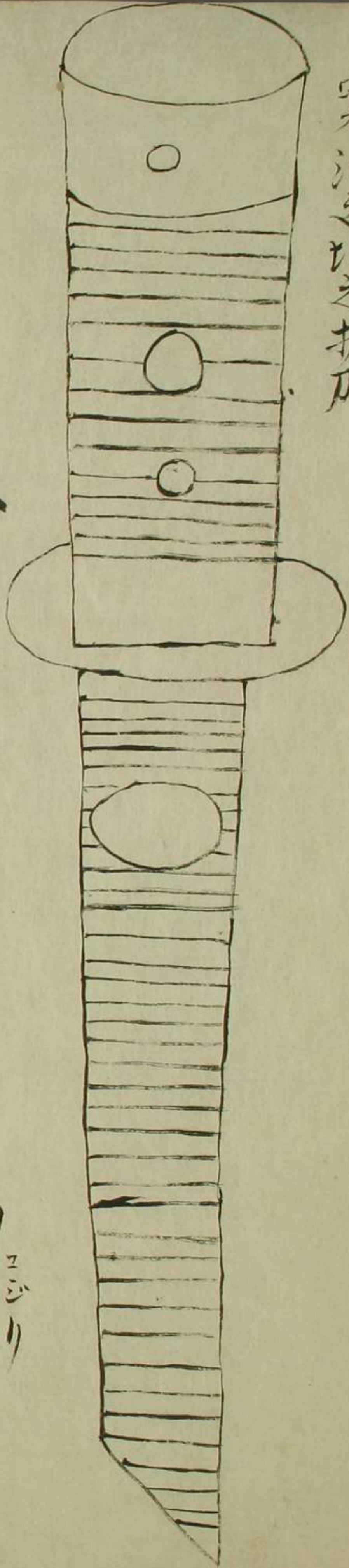
大園寺

白鳥塚伊勢國庄野産
景行天皇王子白王子日牟云々
之陵也云々十八間ナリ
東西或は八間是古路也
凡二千余年之古物也
今正圖ヨ以テ是ヲ寫スナリ

神豫
日本
武尊
之跡

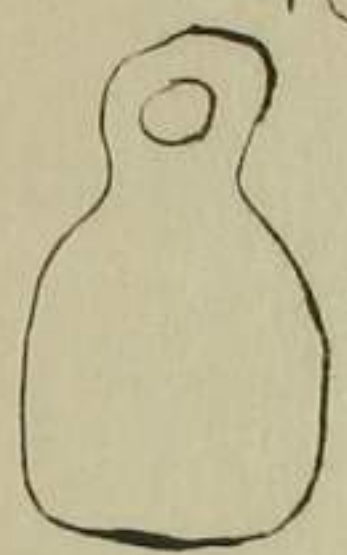
白鳥塚

寛治之比之赤刀



飯嶋其記入管蓋裏書

横州の名浦一見の浦迄を飯嶋とせり其の浦百年
前ふくしのころより不花ありと後とせりて海中に
ありせしと七十年とありはふり山あり一合
それとふ月^辛想の^売をえとせり



中興



○金石

大寶元年敕書所用内印及大學寮印

試ニ晋前尺ヲ以度ルニ内印方三寸大學寮印
ニ寸二分大寶ノ制晋前尺ヲ用ルヲ知ベシ養老
以後ノ印製公式令ニ見テ其寸法曲尺ヲ以テ
度ル者也養老制令ノ日晋前尺ヲ廢メ李唐ノ
大小尺ヲ用ルヲ知ベシ余髻年一友人ノ家ニノ
右印一ヲ模寫ス古度牒ニ所用ノ外印ナリ又或

驛鈴

者モアレドモ古昔ノ制度ヲ考フベシ
西土ノ印 見ズ
書吏部印 臣ニ作ハ枚舉スベカラズ又臣ニ依ル者アリ
臣ニ作ル此皆李唐ノ印章ニ用ル篆也臣ニ作ルハ尚
國朝古印 印字臣或

人ノ家ニノ惺窩先生自ラウツス所ノ古印模本一
卷ヲ得其後古文書印ヲ用ル者アルハ輒ク摸ソ
百餘ニ及ブ就中_レ大寶勅書所用ノ内印天平ノ
此ノ内印及軋政官印遣唐使印遣新羅使印造
平安宮職印建武御璽_{文曰建武之寶}篆體精好製作絶
佳皆唐人ノ氣アリ其餘ハ篆體古拙ニタラザル

隱岐國若玉酢神社傳所ハ稜ノ驛鈴一口古製考フベシ實ニ布世ノ珍也
何_レ為ニ格シ物カ知ズ摸本ニ記セリ▲伊豫國道後湯碕_{文見釋日本ノ能所引伊豫國風土記ヲ引}

文云法興元年十月歲在丙辰_云法興元年丙辰ハ推古天皇即位四年
丙辰也本云元年ヲ六年作ル文字似タニヨリ誤寫スル者也法興五年

ニ盡テ六年ハ願轉元年也此碑石今傳ラズ惜ベシ▲船氏ノ墓誌_{銅碑}

長九寸七分ハニ寸二分
厚サ五厘面皆ミカキナリ
△面

惟船氏故王後首者是船氏中祖王智仁首兒 那沛故
首之子也生於平婆陀宮治天下 天皇之世奉仕於等由
羅宮 治天下 天皇之朝至於阿須迦宮治天下 天皇之
朝 天皇照見知其才異仕有功勳 勅賜官位大仁品為第

背

三殯於阿須迦 天皇之未歲次辛丑十二月三日庚寅故
戊辰年十二月殯葬於松岳山上共婦安理故能乃自
同墓其大兄力羅古首之墓並作墓也即為安保万
代之靈基牢固永劫之寶地也

四銅牌河内國古市郡古市村酒琳寺所藏○船氏

五
奈良西京藥師寺東塔銘

維清原馭宇 天皇即位八年庚辰之歲建
子之月 中宮不念創此伽藍而鋪金未遂
龍駕騰仙大上天皇奉遵前緒遂成斯業照
先皇之弘誓光後帝之玄功道濟郡生業傳

ヲ永昌元年トスルヲ余信ゼザル所也朱鳥ノ
號ハ此碑ニ限ラズ二年ヨリ十一年ニ至テ諸
書ニ此ヲ用ヒタリ洗者誤テ永昌元年トナセ
シテラム

八
河内國石河郡形浦山碑 碑石長二尺許濶一尺許
今移立春日村妙見寺中

飛鳥淨原大朝廷大弁
官直大貳采女竹良御所
請造墓所形浦山地四十
代他人莫上致木犯穢
傍地也
己丑年十二月廿五日

十 威奈大村墓誌銘

盛骨銅器蓋上
鐫銅器圓徑八寸

卿諱大村檜前五百野宮御宇 天皇之四

世後岡本聖朝紫冠威奈鏡公之第三子也

卿溫良在性恭儉為懷簡而廉隅柔而成立

後清原聖朝初授務廣肆藤原聖朝小納言

闕於是高門貴胄各望備負天皇特擢卿除

小納言授勅廣肆居無幾進位直廣肆以大

室元年律令初定受從五位下仍兼侍從卿

對楊宸宸參贊絲綸之密朝夕帷幄深陳猷

替之規四年正月進爵從五位上慶雲三年

命兼太政官左小弁越後小疆衝接蝦虜柔

懷鎮撫允屬其人同歲十一月十六日命卿

除越後城司四年二月進爵正五位下卿臨

之以德澤扇之以仁風化洽刑清令行禁止

昕冀亨茲景祐錫以長齡豈謂一朝遽成千

古以慶雲四年歲在丁未四月廿四日寢疾

終於越城時年卅六粵以其年冬十一月乙

未朔廿一日乙卯歸葬於大倭國葛木下郡

山君里拍井山豈天潢疏汎若木分枝標英

磬指載德彤儀惟卿降誕餘慶在斯吐納參

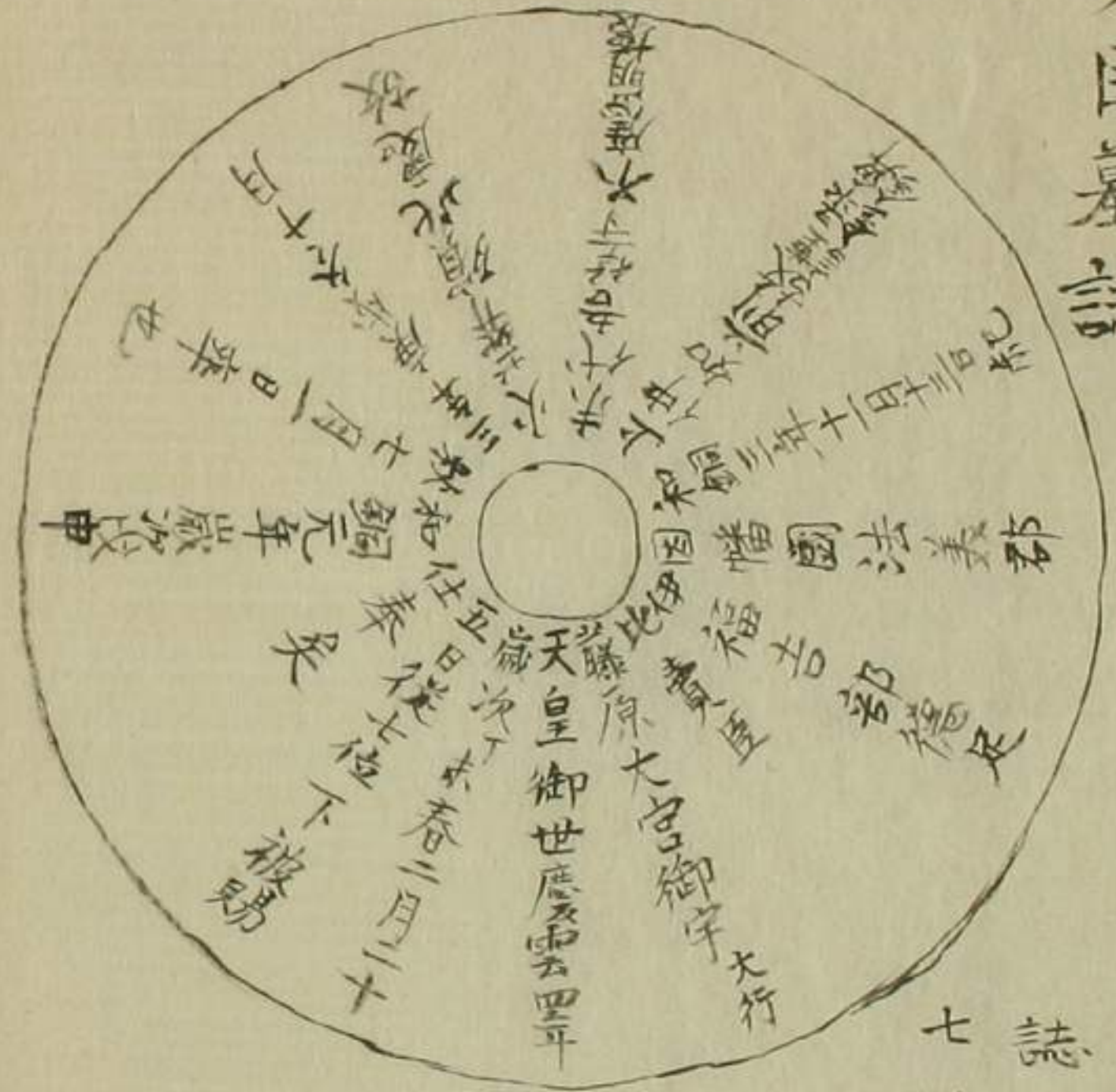
贊磬汝陳規位由道進榮以禮隨製錦蕃維

令望攸屬鳴絃露冕安民靜俗憬服來蘓逸

荒命足輔仁無驗連城折玉空對泉門長悲
 風燭明和中大和國葛下郡穴夷山ノ崩ル、所ヨリ出

小納言及左小弁○威奈姓氏右京皇別為名真人宜
 檜前五百野宮日本紀作檜伊福吉部德足比
 賣臣墓誌

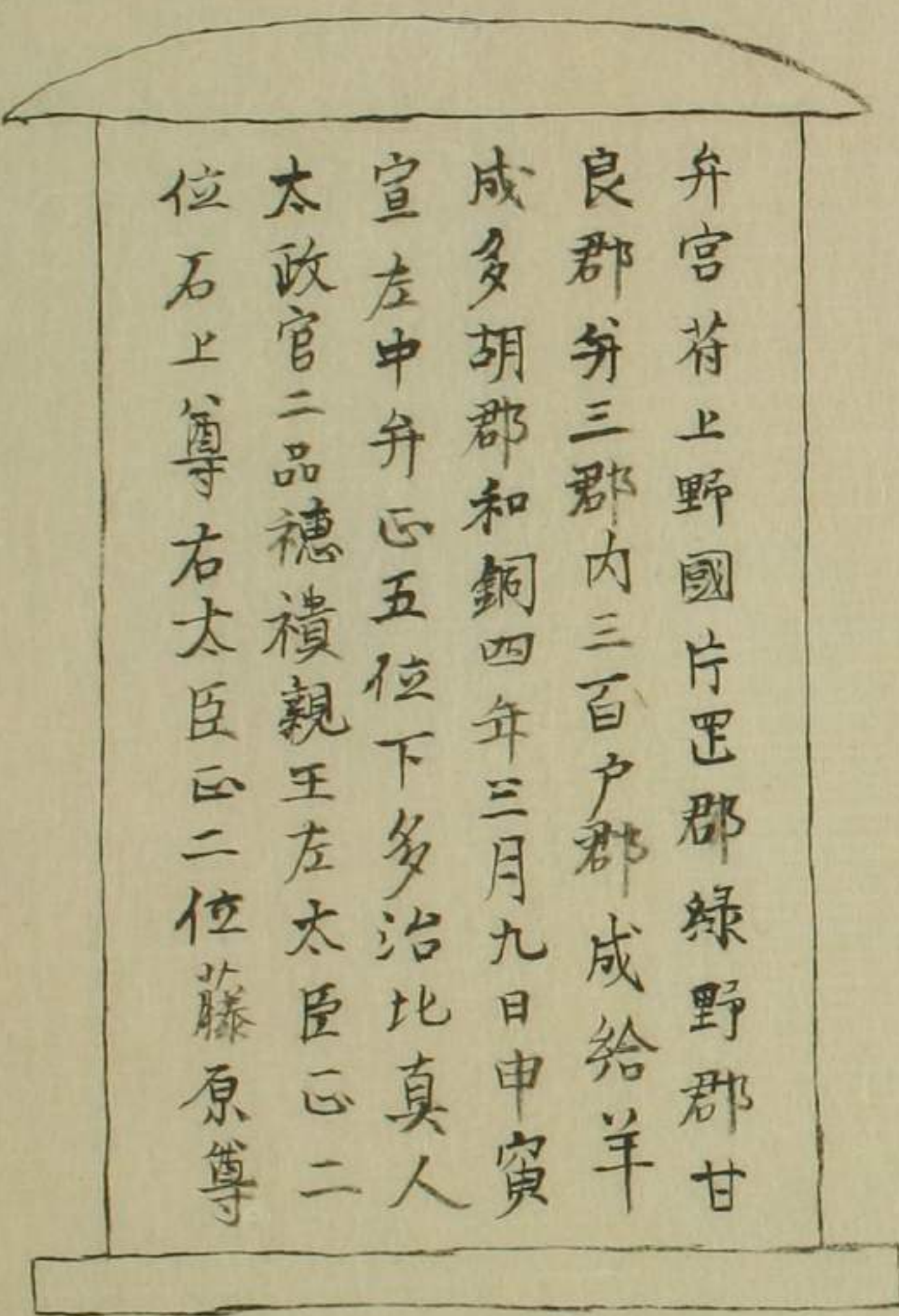
誌文錫盛骨銅器蓋上銅器高
 七寸圓徑九寸厚一分五釐



安永三年六月廿四日回幡國鳥羽巽府中ヨリ

堀出又文中錕ノ字疑ベシ字書云錕釜錕也

^{十一}上野國多胡郡碑 碑石・高四尺 闊二尺 八寸 蓋方三尺



弁宮符上野國片置郡綠野郡甘
 良郡并三郡内三百戸郡成給羊
 成多胡郡和銅四年三月九日申寅
 宣左中弁正五位下多治比真人
 太政官二品德禎親王左大臣正二
 位石上尊右大臣正二位藤原尊

十二
元明天皇御陵碑
碑石高三尺
餘厚一尺

三	冬	養	所	太	之	大
日	十	老	也	上	宮	倭
乙	二	五		大	取	國
酉	月	年		皇	字	添
癸	酉	歲		之	八	上
酉	朔	次		陵	郡	郡
辛	十	辛		是	平	城
酉		酉		其		



十三
上野國羣馬郡下贊鄉碑
碑石高二尺餘
潤一尺七寸許

上野國羣馬郡下贊鄉高田里
三家子□為七世父母現在父母
現在侍家力自□君□刀自人兒□
部刀自後物部君千足次駄刀自次□
刀自合大口又知識所結人三家氏人□
次知万呂鍛師礪尸君□麻呂今三□
如是知識結而天地誓願仕奉
石文
神龜三年丙寅二月廿九日

十四
上野國
郡山各村碑
潤碑石長三尺許
一尺□寸許
難之後考ヲ俟ツ
明和中上野國高崎ノ山崩レテ出ヅ文義通ジ

辛巳歲集月三日記
 伏野三家定賜健守命孫黑賣□自此
 新川臣兒斯□珍足□孫大兒臣娶三兒
 長利僧母為記定丈也
 放光寺僧

從五位上守右衛
 士曾兼行中宮亮
 下道朝臣真備葬
 巳妣楊貴氏之墓
 天平十一年八月十
 二日記
 歲次巳卯

十五
 楊貴氏墓誌
 長六寸八分
 厚二寸
 潤

故正六位上常陸國
 大目高屋連放人之
 墓寶龜七年歲次丙
 辰十一月乙卯朔十
 八日壬午葬

十六
 高屋放人墓誌
 長八寸
 厚二寸
 潤六

十七
 紀廣純女吉繼墓誌
 長八寸三分
 厚二寸餘

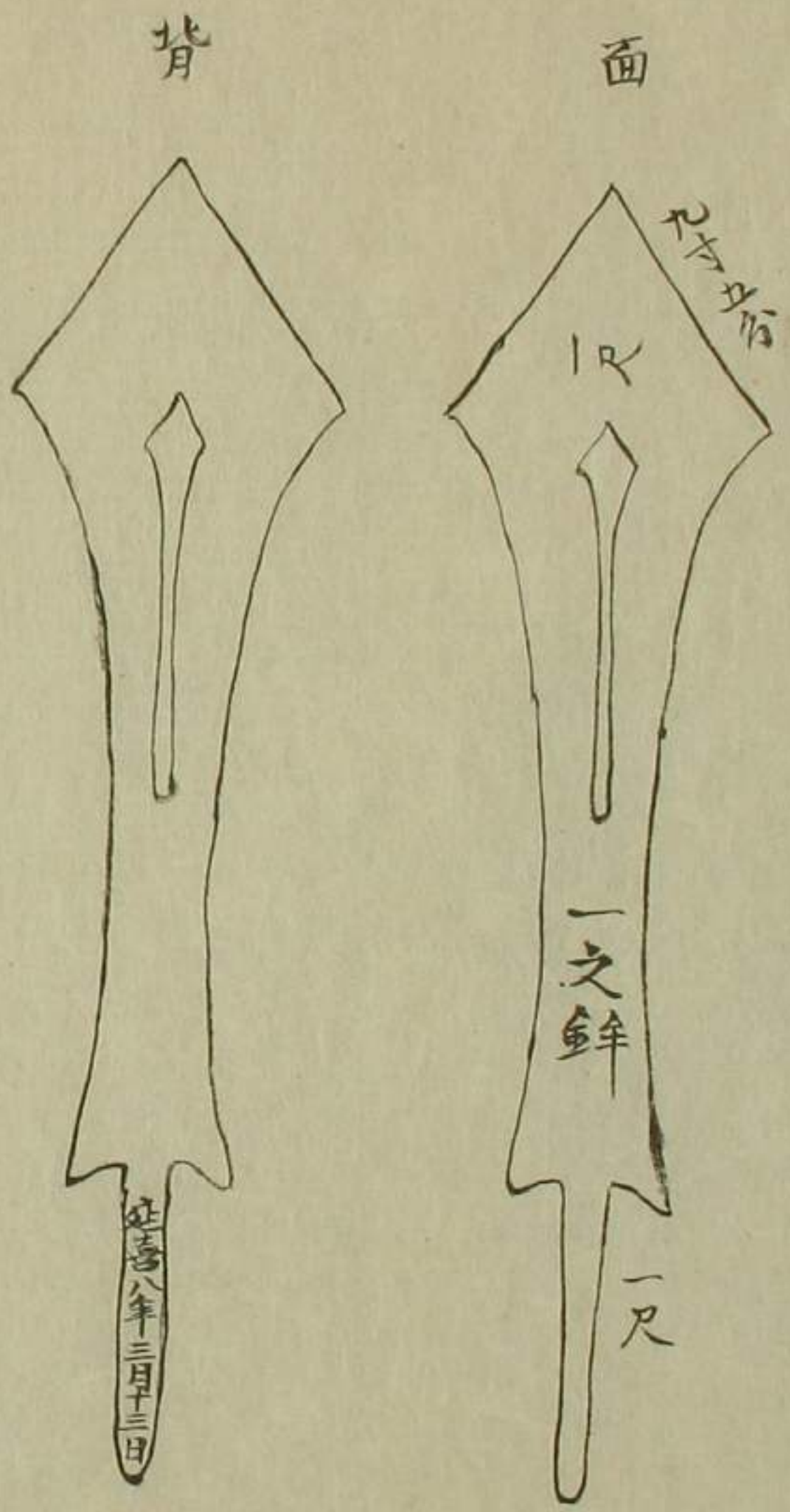
維延曆三年歲次甲子明癸酉丁酉
 西參議從四位下陸奥國按察使
 兼守鎮守副將軍勳四等紀氏
 諱廣純之女吉繼墓志

高道墓
 貞觀五年五月

十八
 陸奥介高道墓

山城國白河村天神宮鐵鉞銘

長四尺
二寸許



曠劫式於高躅敢勒貞金

其銘曰

巍巍蕩蕩藥師如來大發誓願廣運慈哀倚
 換聖王仰迺冥助爰飭靈宇庄嚴調御亭亭
 寶刹窸窸法城福崇億劫慶溢萬齡

六
小野毛人墓誌

墓在高野川北山上一町許銅
牌長二尺濶二寸面背鑄之

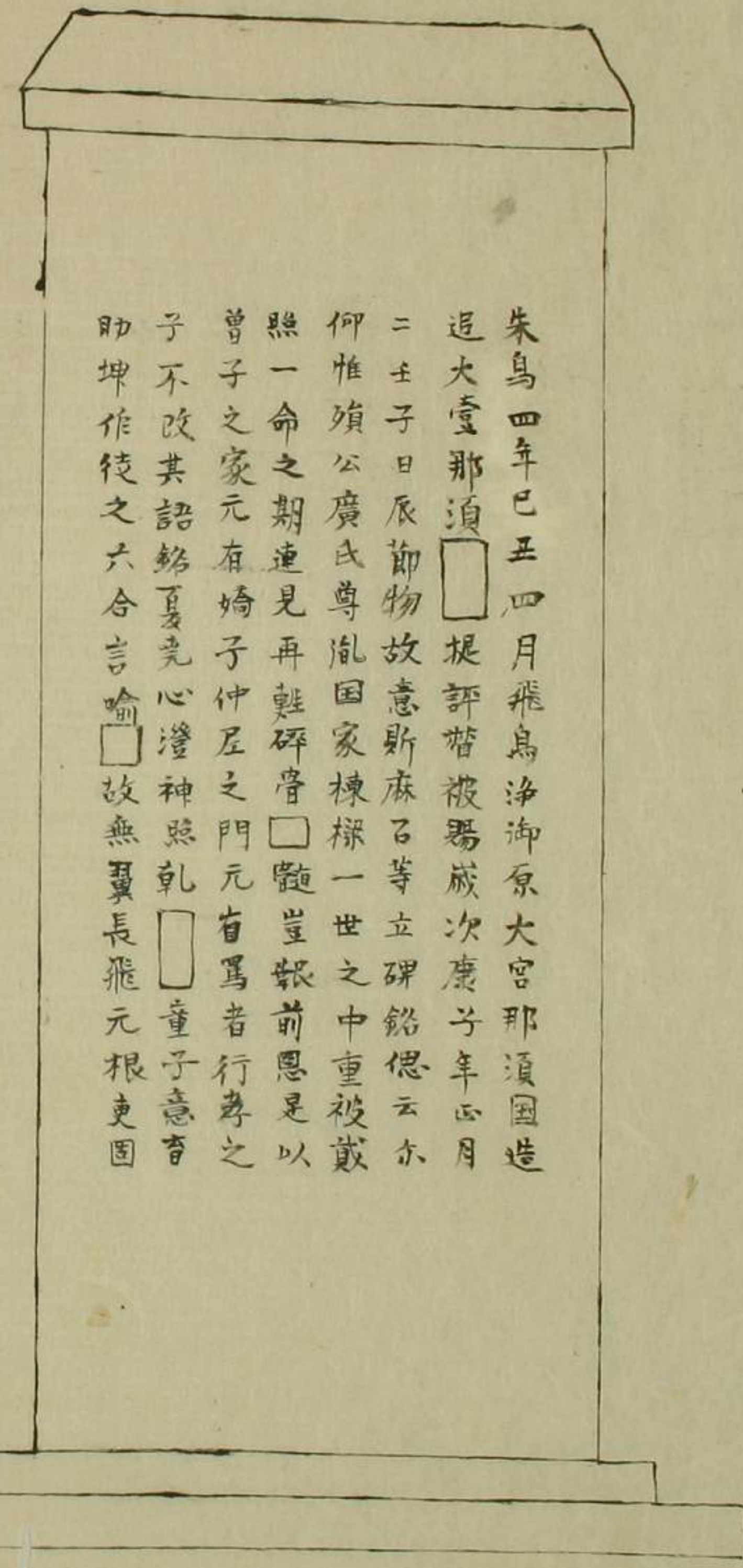
面
飛鳥淨御原宮天下天皇御朝任太政官兼刑部大卿位大錦上

背
小野毛人朝臣之墓

營造歲次丁丑年十二月上旬即葬

丁丑年日本紀二擾二天武天皇即位六年也毛
人敏達帝曾孫妹子孫毛野男

下野國那須郡那須國造碑左那須郡湯津邑碑石
 尺六寸五分附上一高七寸濶二尺一寸下高一
 尺三寸濶三尺一寸元祿四年辛未建碑亭



此碑文先輩說アリ今コ、ニ舉ゲス唯朱鳥四年

附録一

民部省厨量烙印

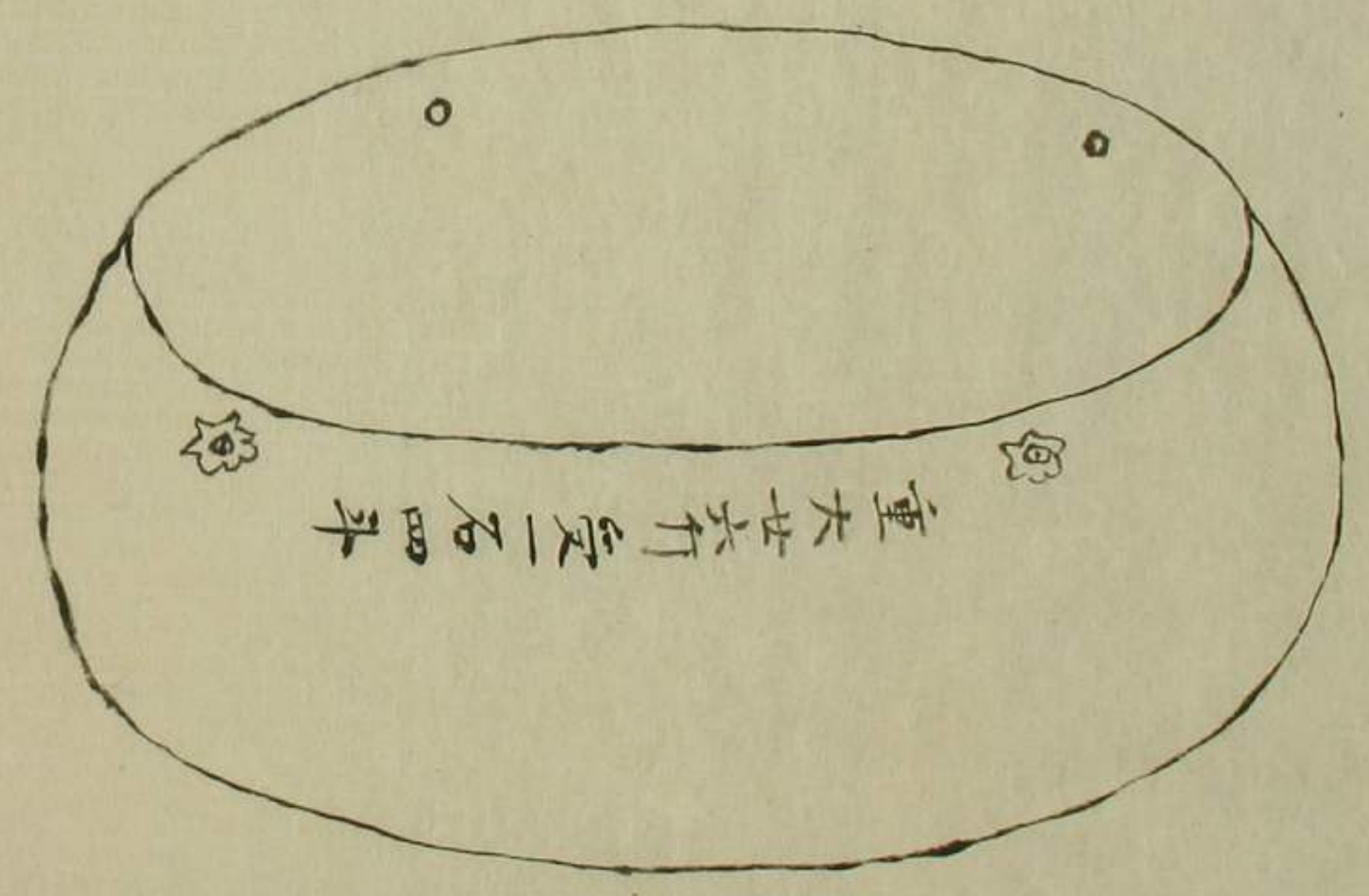


宣字量烙印



銅斗
所法隆寺

口圓徑二尺
二寸五分
腰四尺八寸
三寸七分
深一尺四分



重六廿六斤

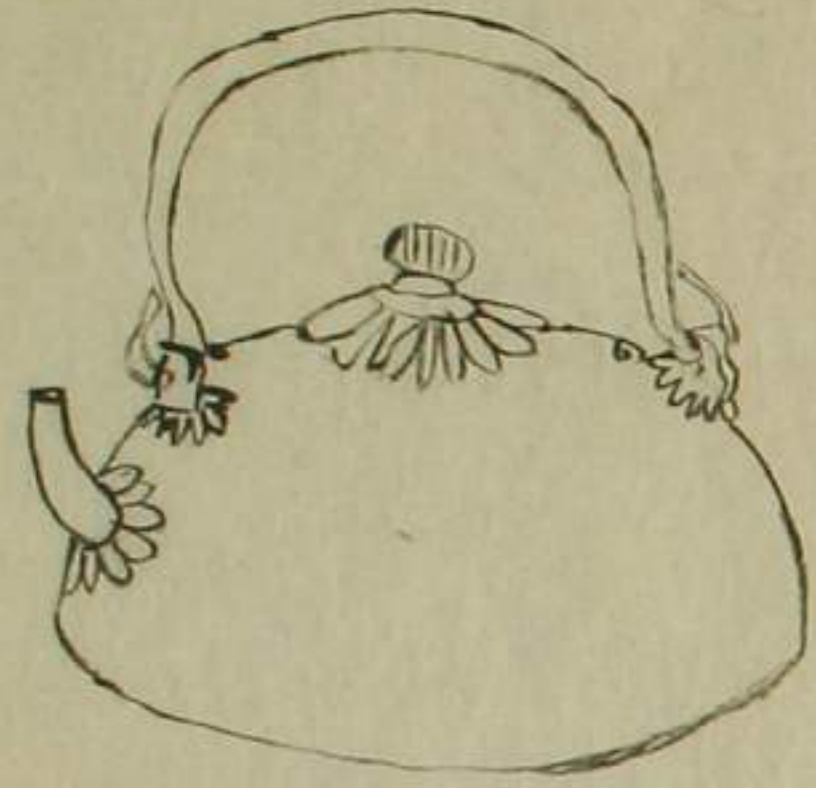
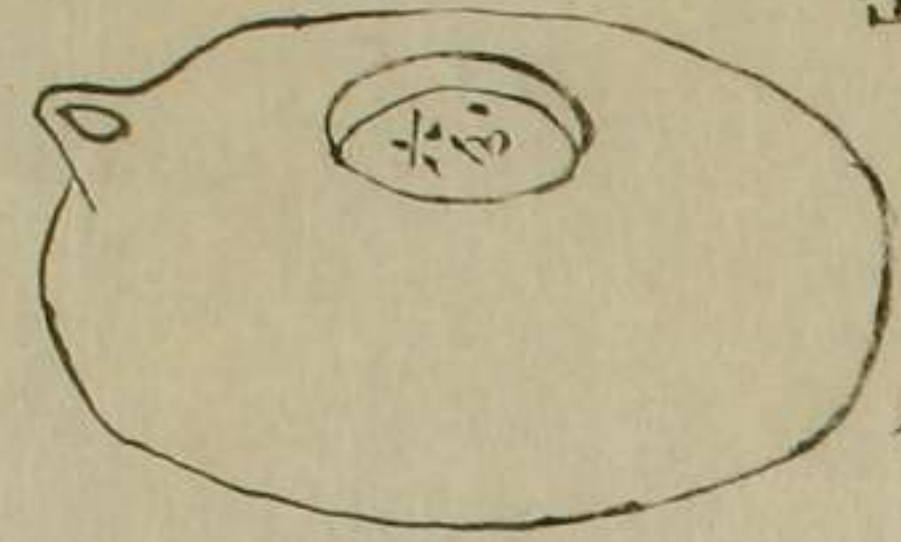
受一石四斗

底破環逸今不得詳斤兩可惜

古水滴

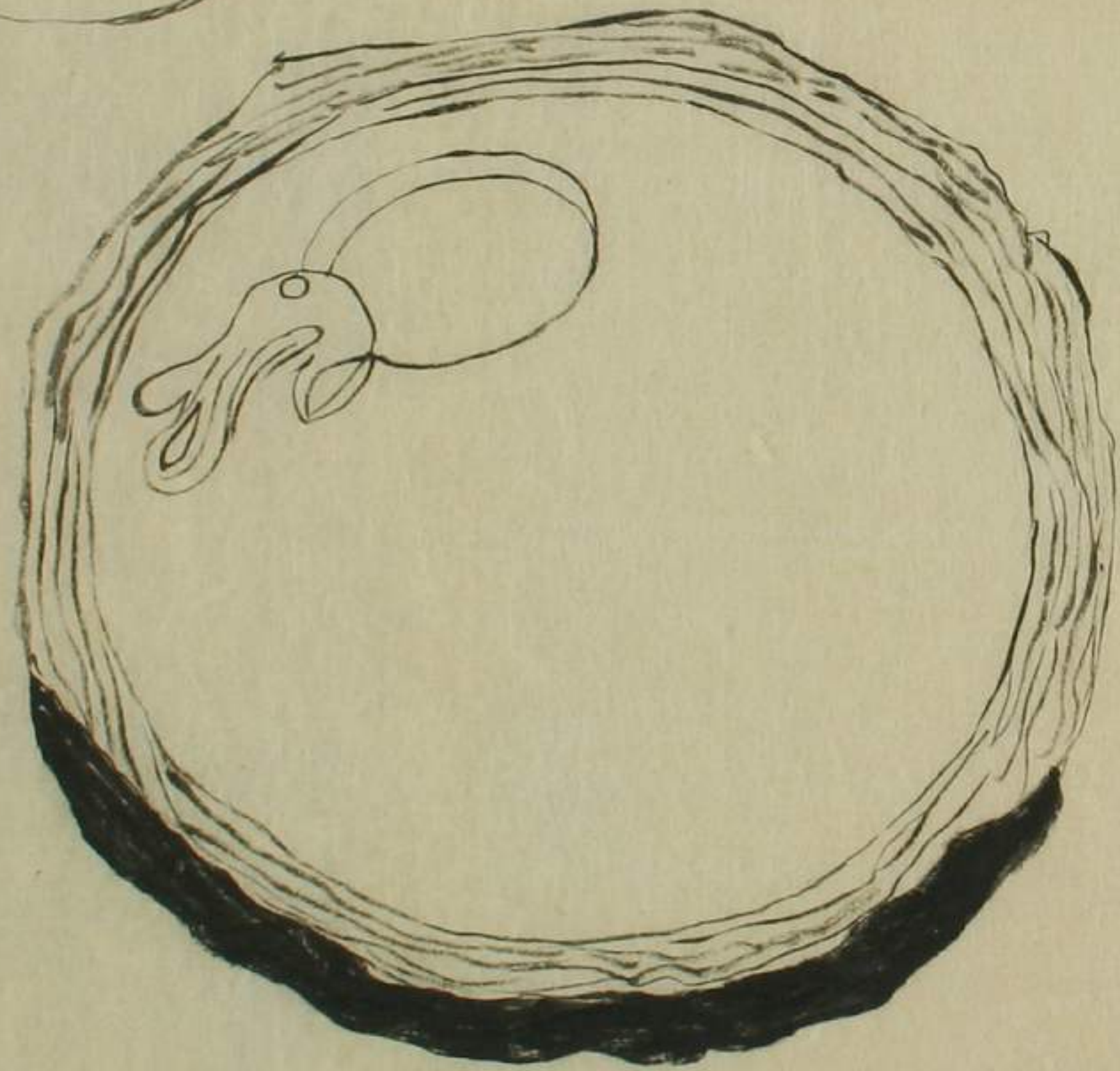
窰

銅



澄泥研家

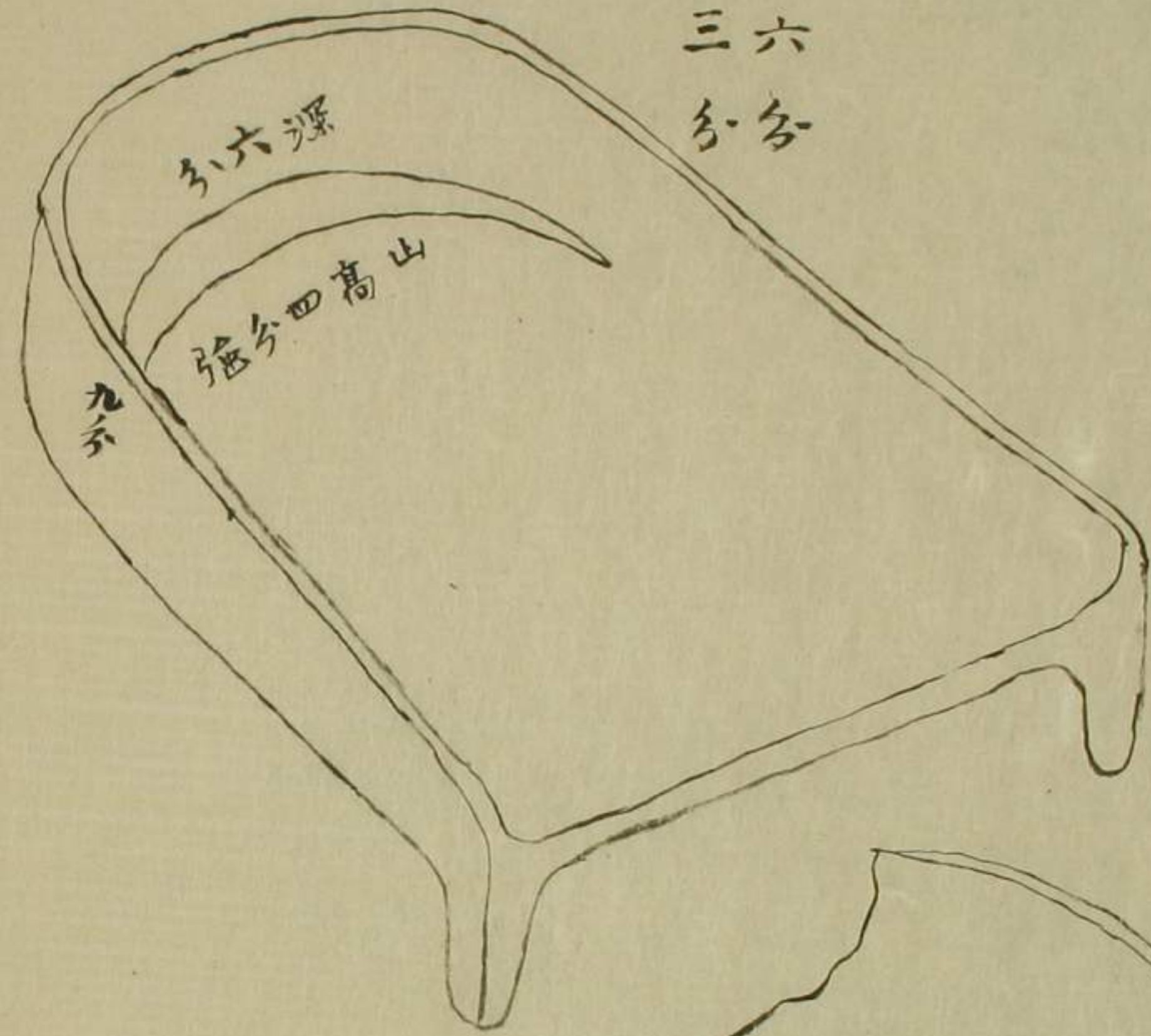
厚圓徑五寸
四分五厘



口徑四分五厘蓋高二分
五厘底徑一寸二分高七
分

又

所東
傳大
寺
長四寸
廣四寸
高三寸
六分



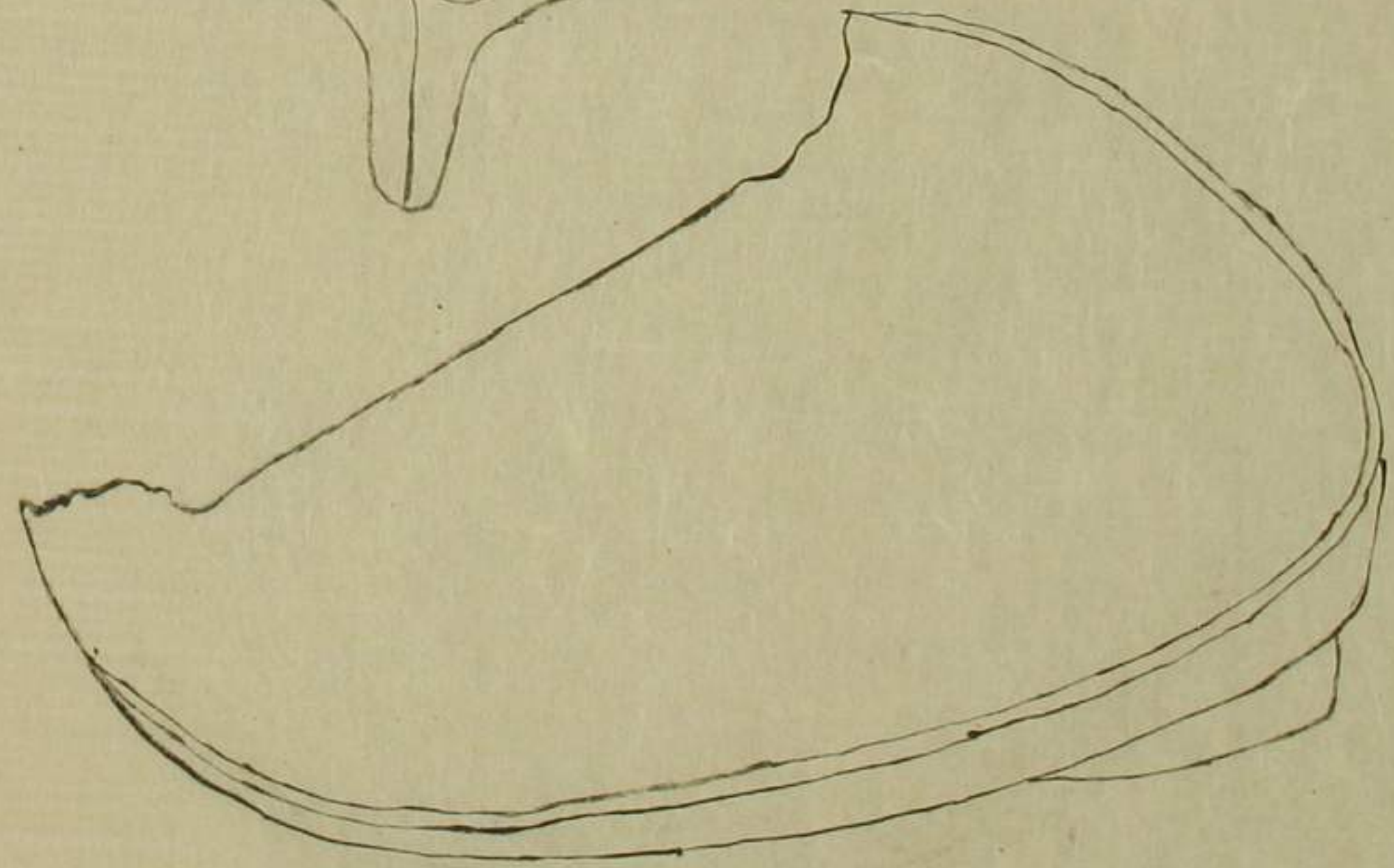
六分

四分高

九分

古磁研

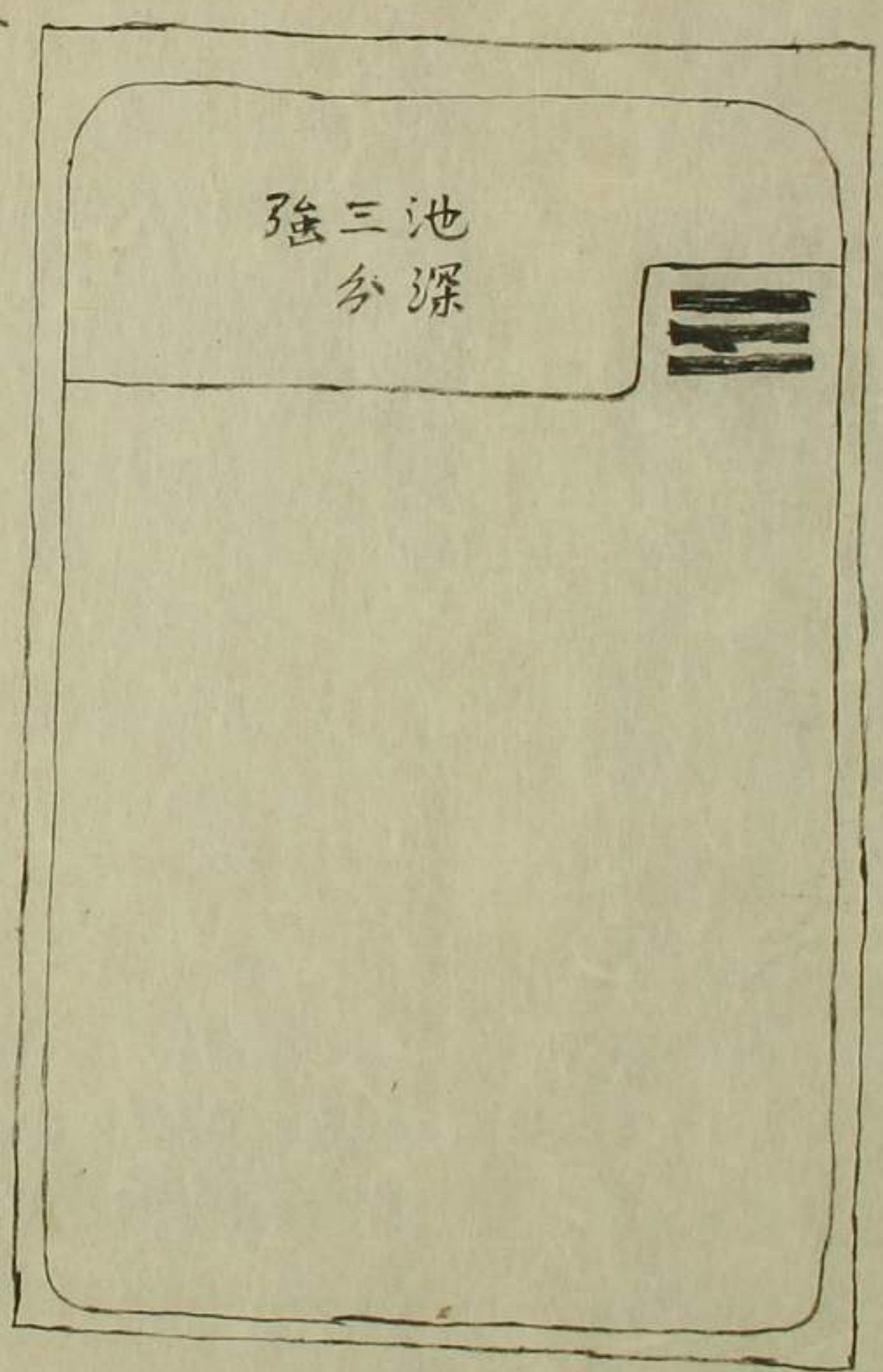
長五寸五分
廣四寸



紫石乾卦研

長四寸
廣七分
厚八分

背



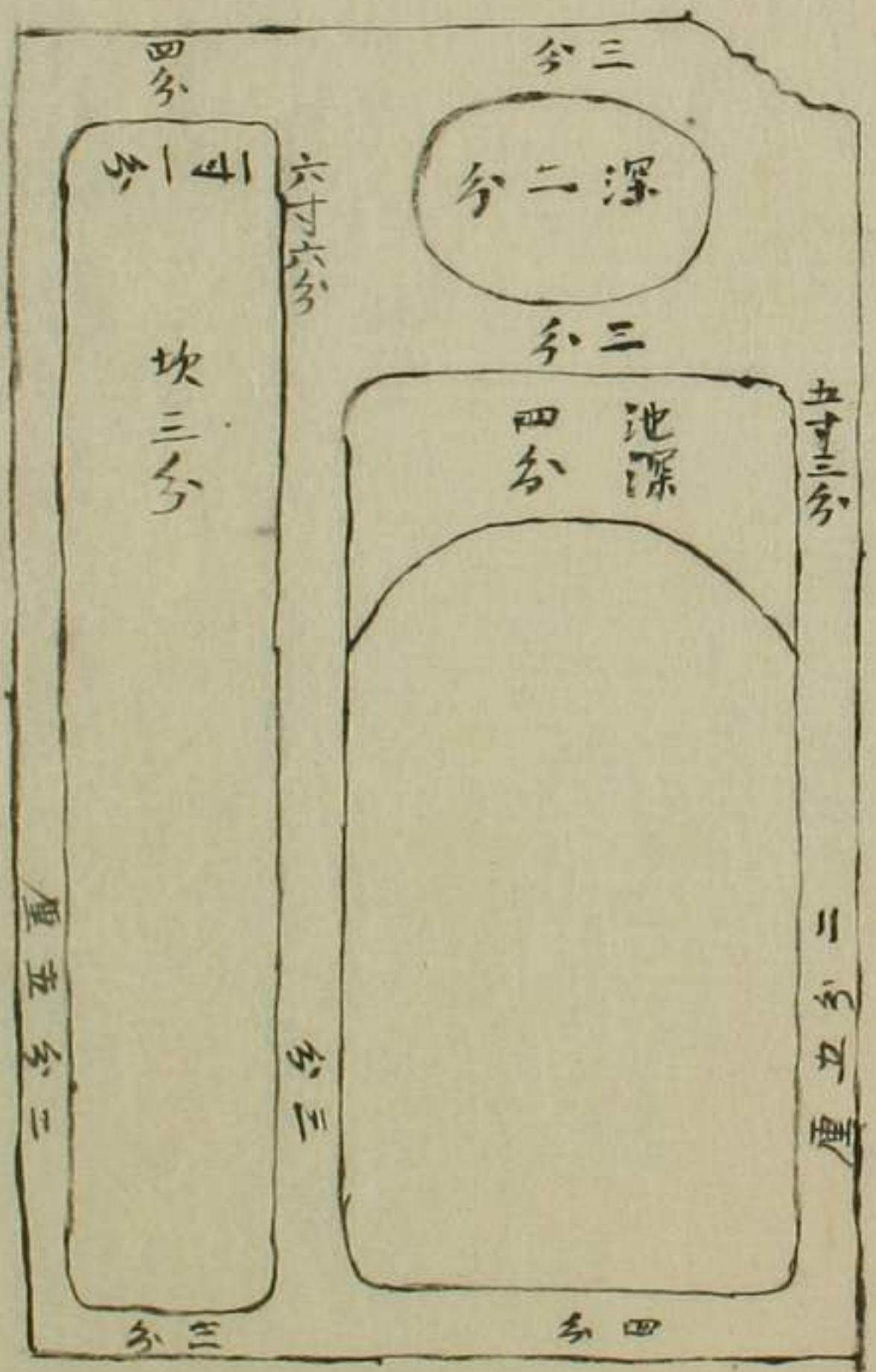
天授柔兆執徐仲夏自造

古瓦研

長七寸
廣四分
厚八分

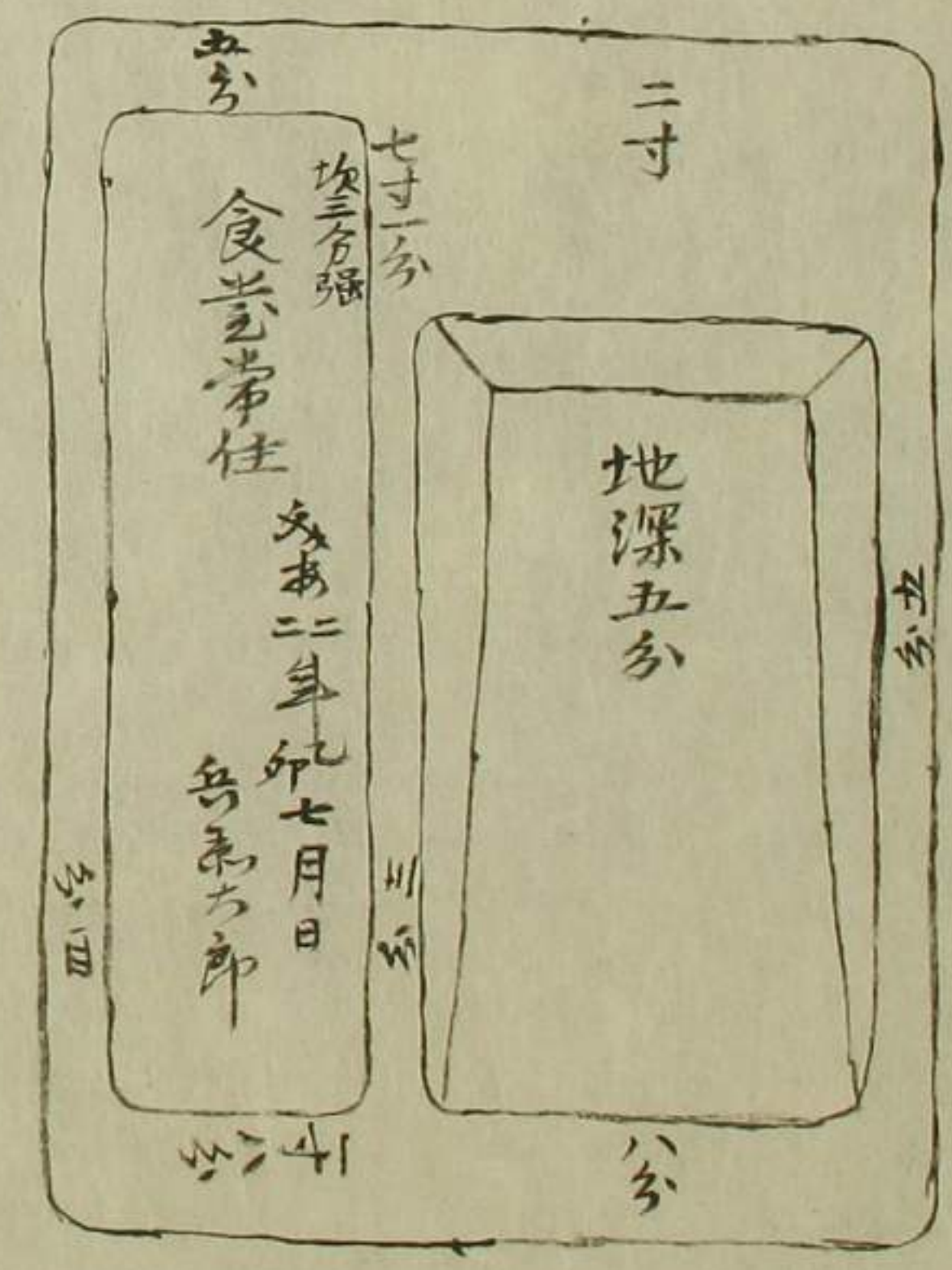
面側

永祚三年
辛卯六月日
大



又東寺所傳

長八寸五分
廣六寸三分
厚一寸弱



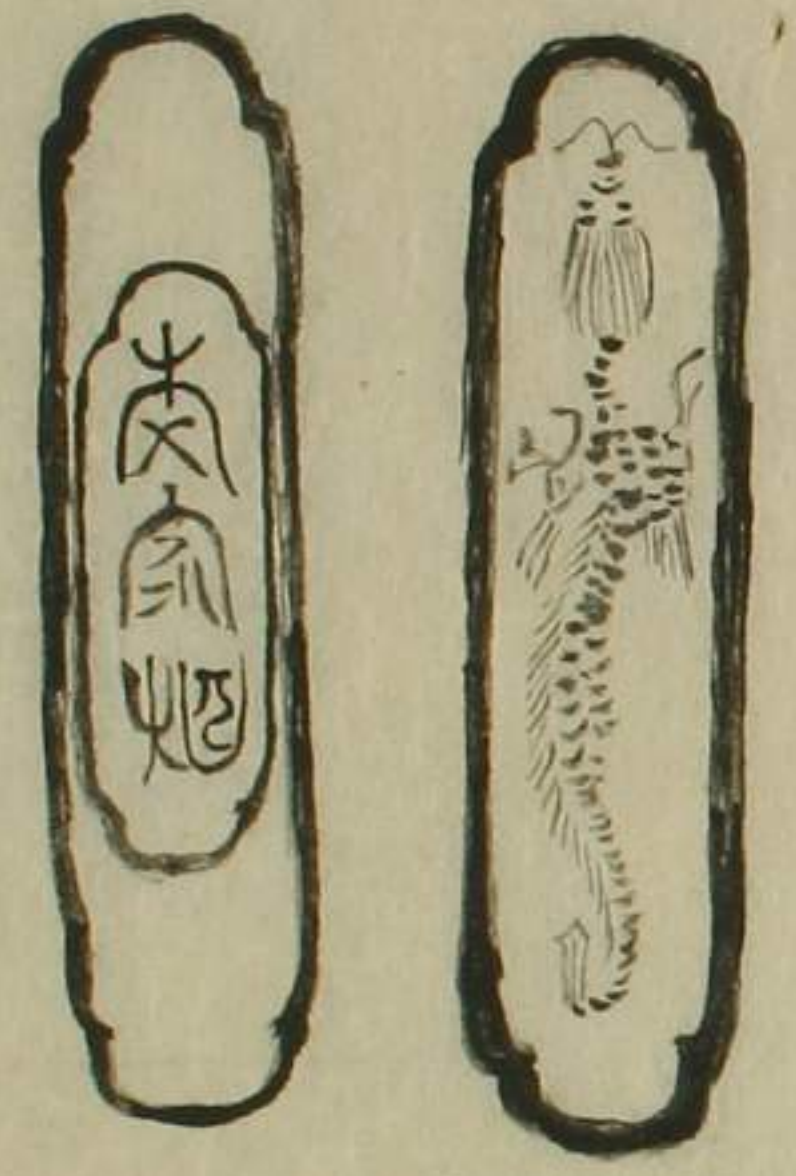
食芝常住

文治二年七月日

吳希方印

古墨

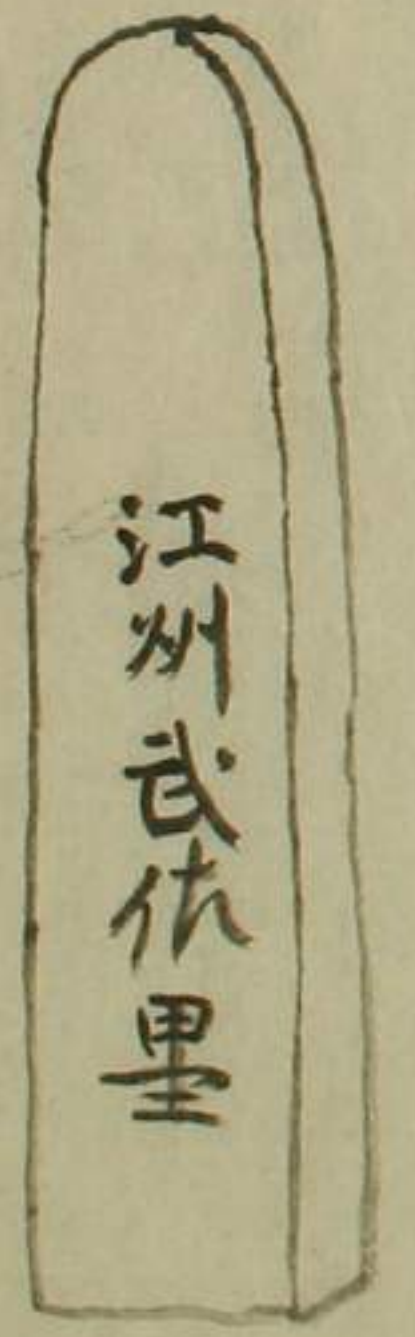
以興福寺二諦坊
所傳墨模所製坊
長二寸六分五厘
廣六分五厘
厚三分五厘



東寺所傳殘墨

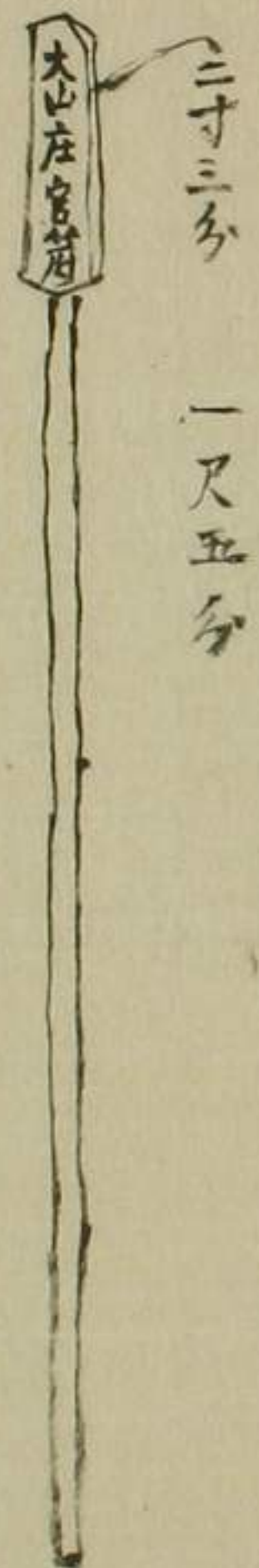
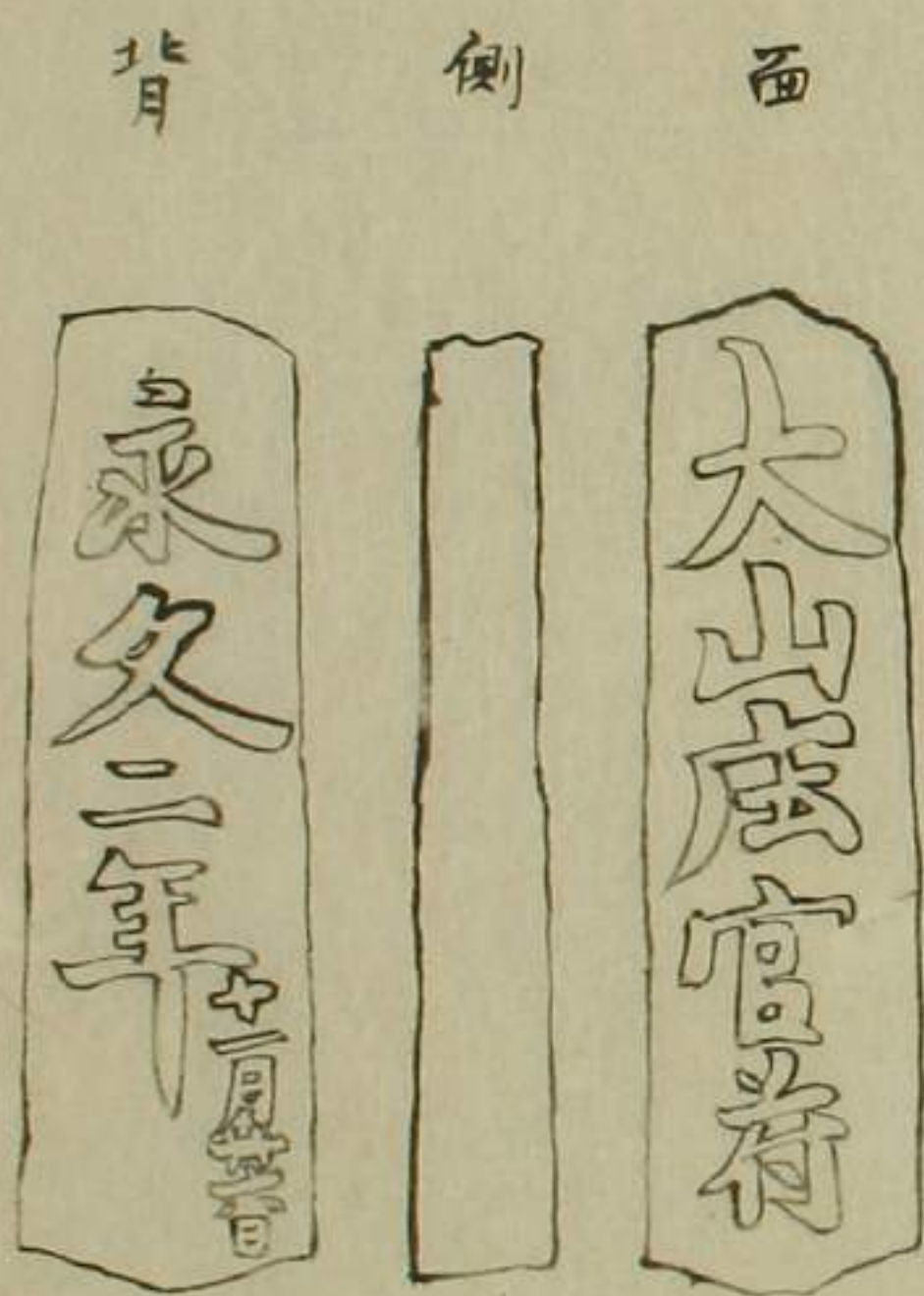


一文人家藏殘墨



江州武依墨

籤
所東
傳寺

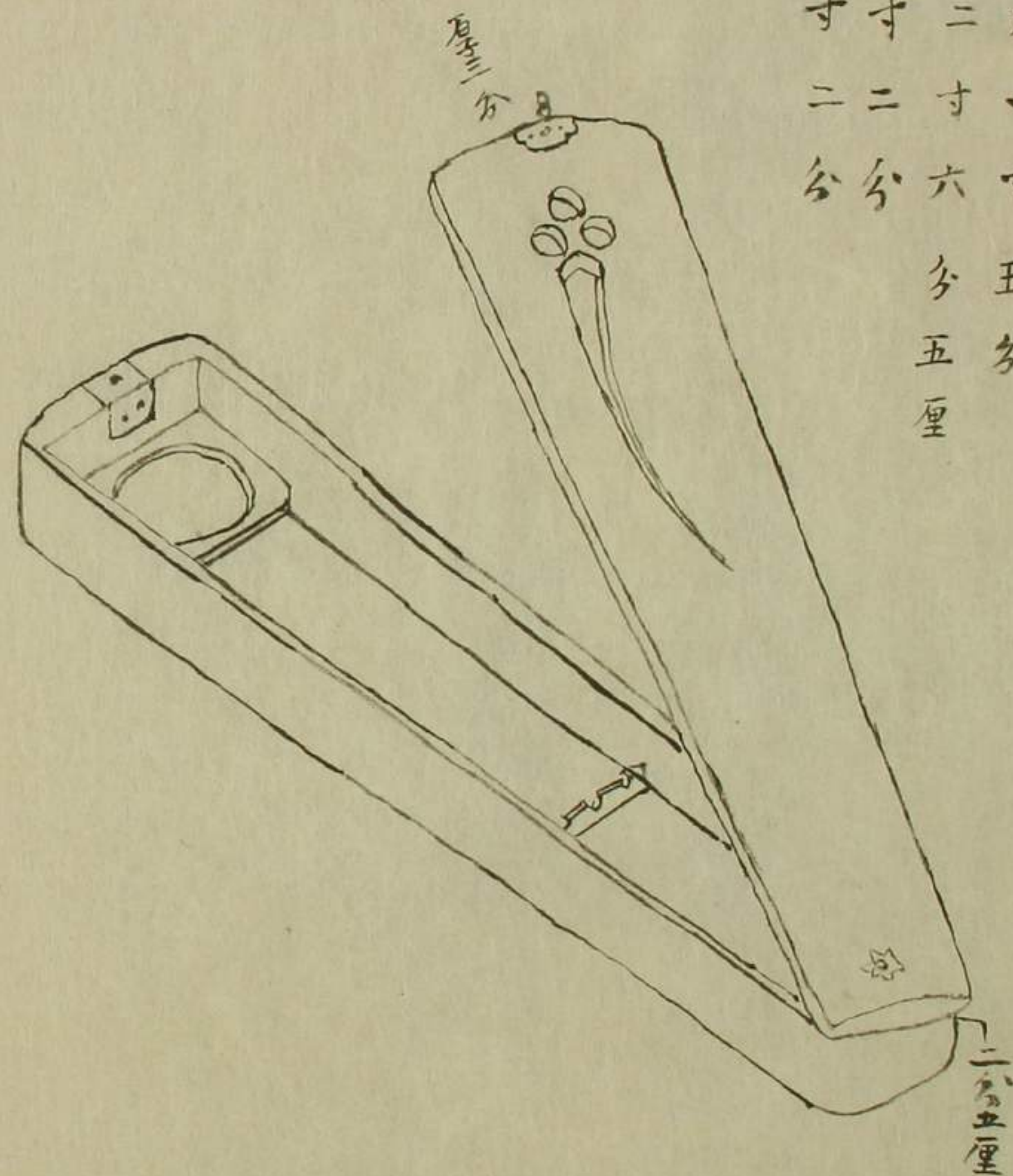


三寸三分
一尺五分

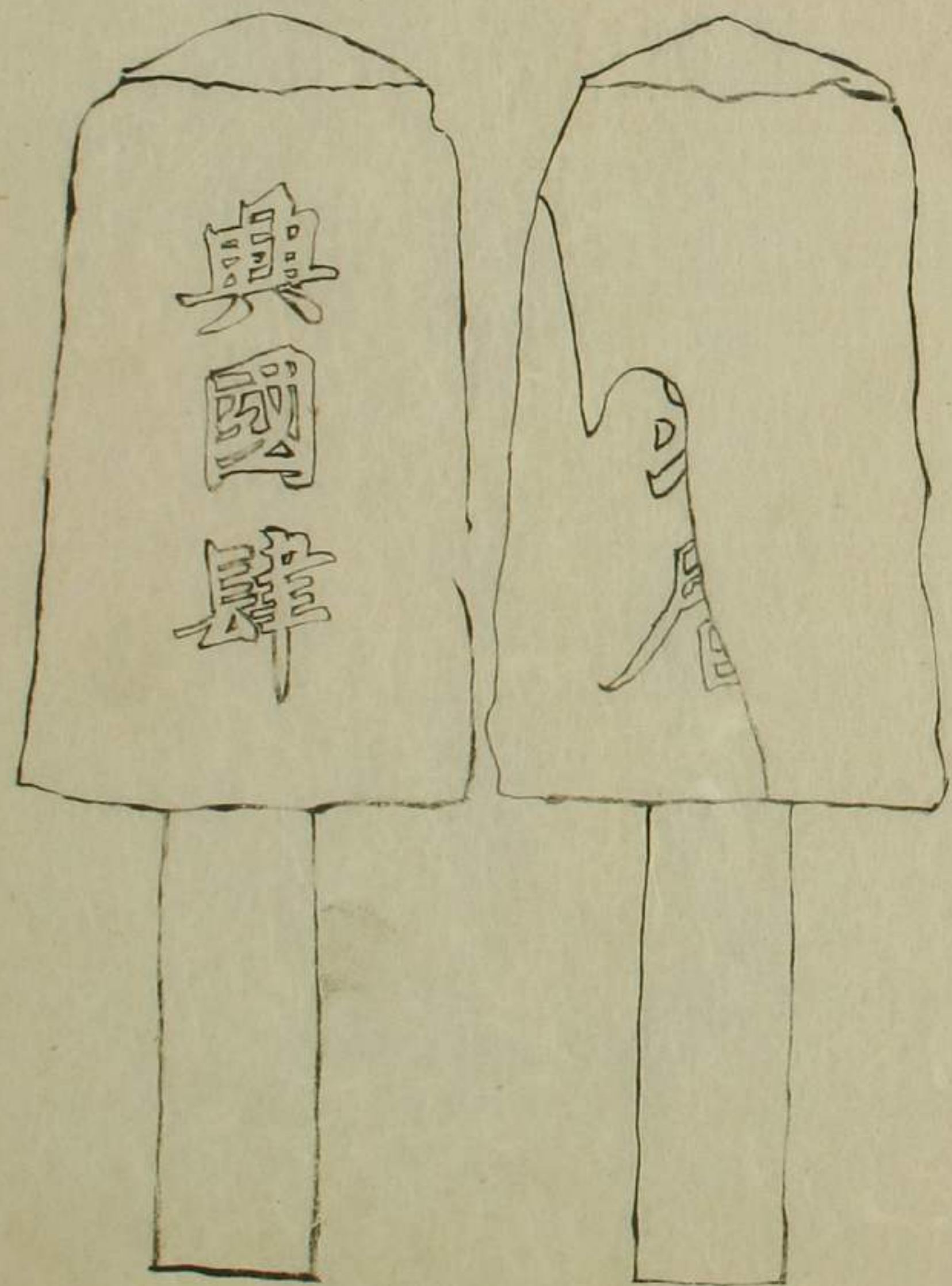
研匣

乃樂春日
社所傳日

長一尺一寸五分
廣止二寸六分五厘
下二寸二分
側一寸二分



背 面

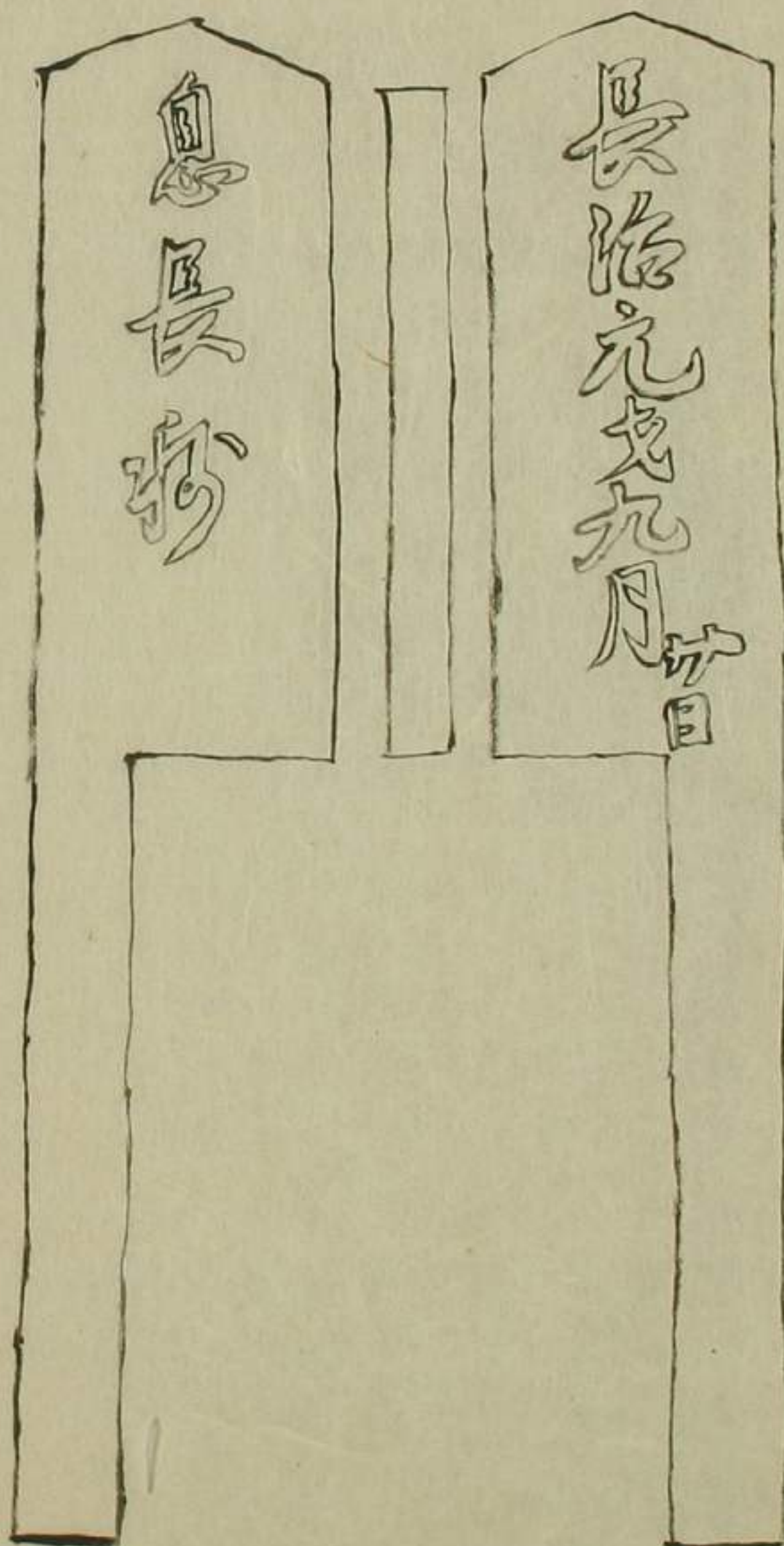


又
所一
傳故
家



一尺二寸

背 側 面

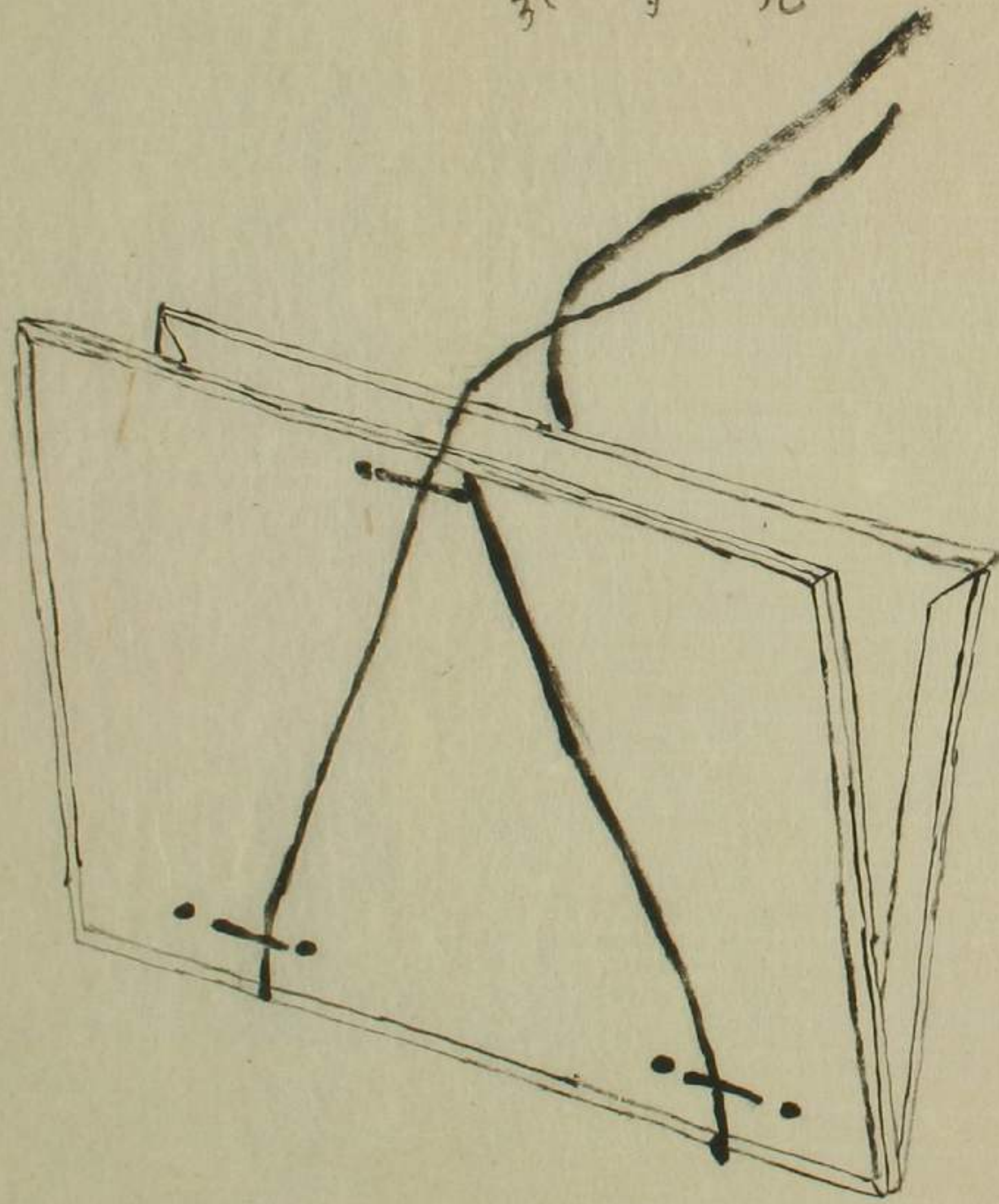


又
所東
傳大
寺

長治元九月

一尺餘

板長九寸
廣六寸
三分
厚一分
七厘

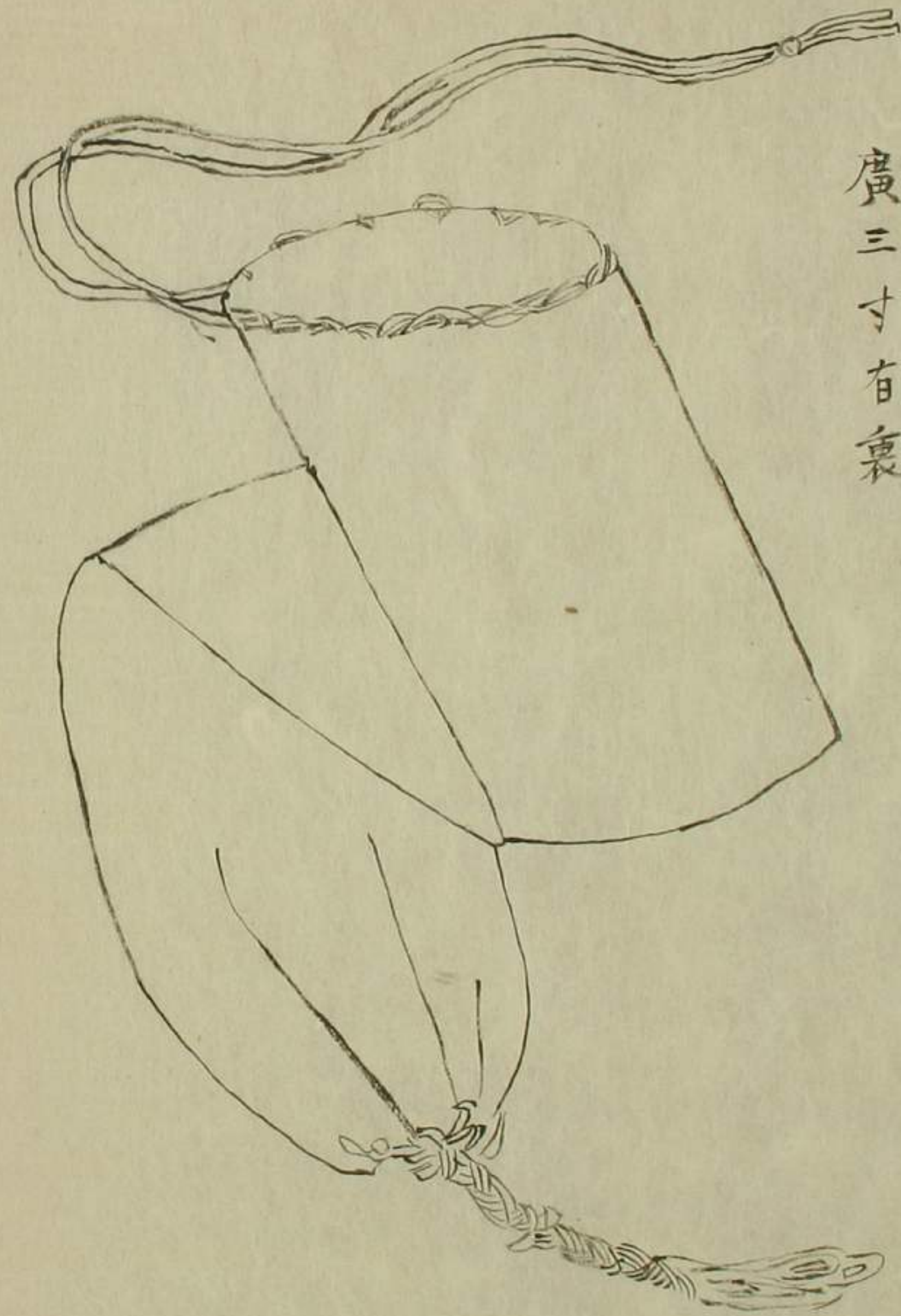


造紙形
所傳家

書囊

東寺
所傳

長一尺三寸
廣三寸有裏

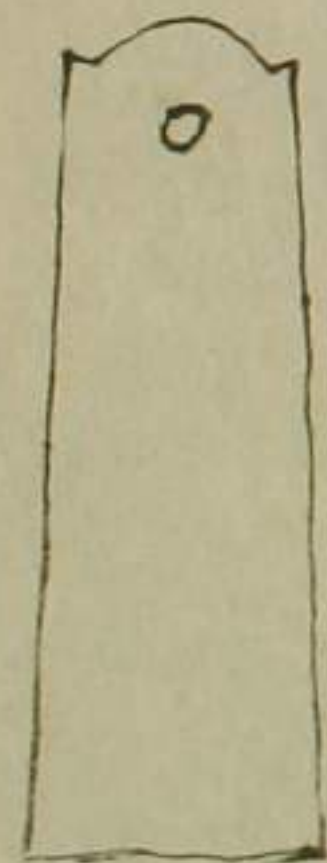


牙



厚五

木

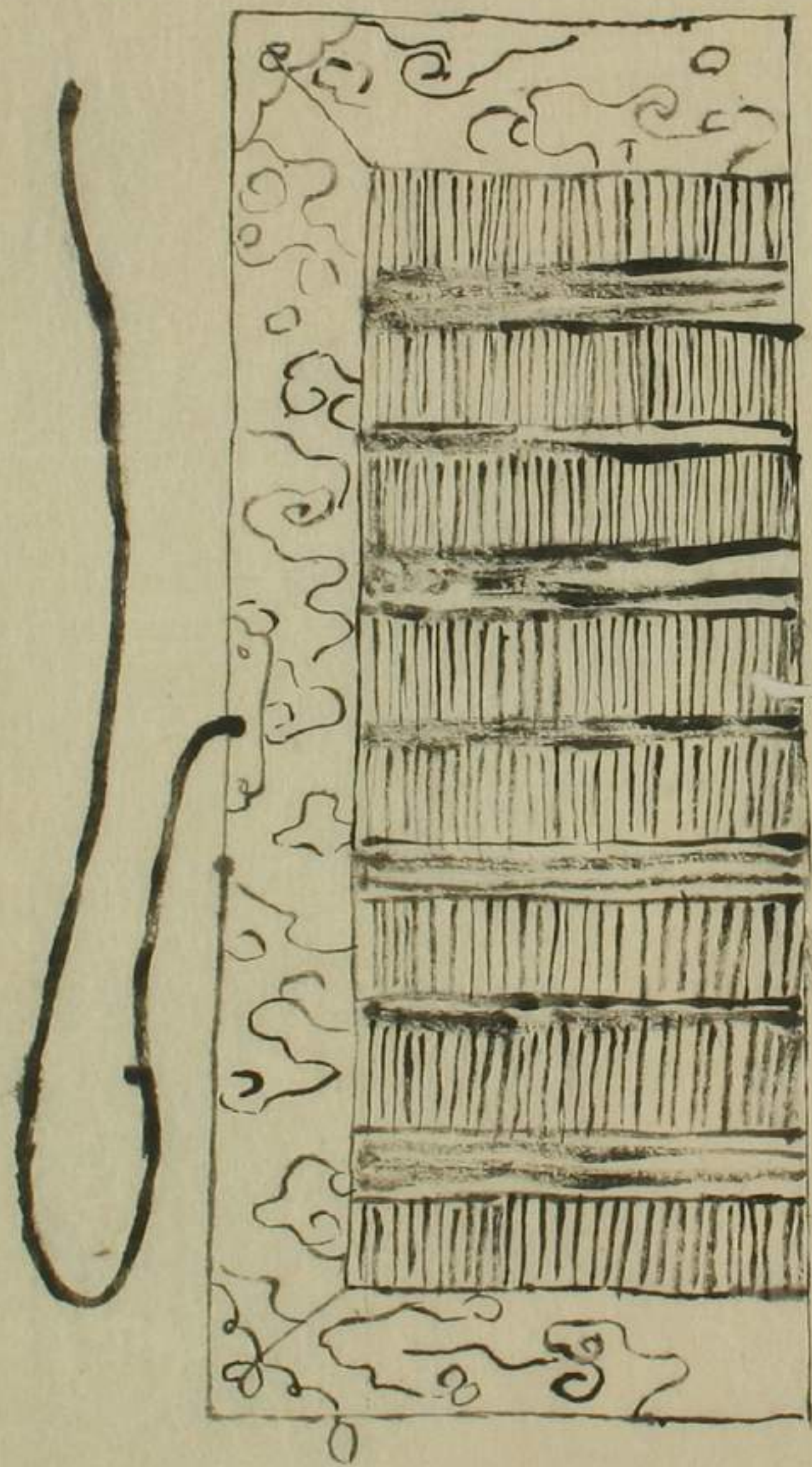


分厚一

法隆寺所傳

東寺所傳

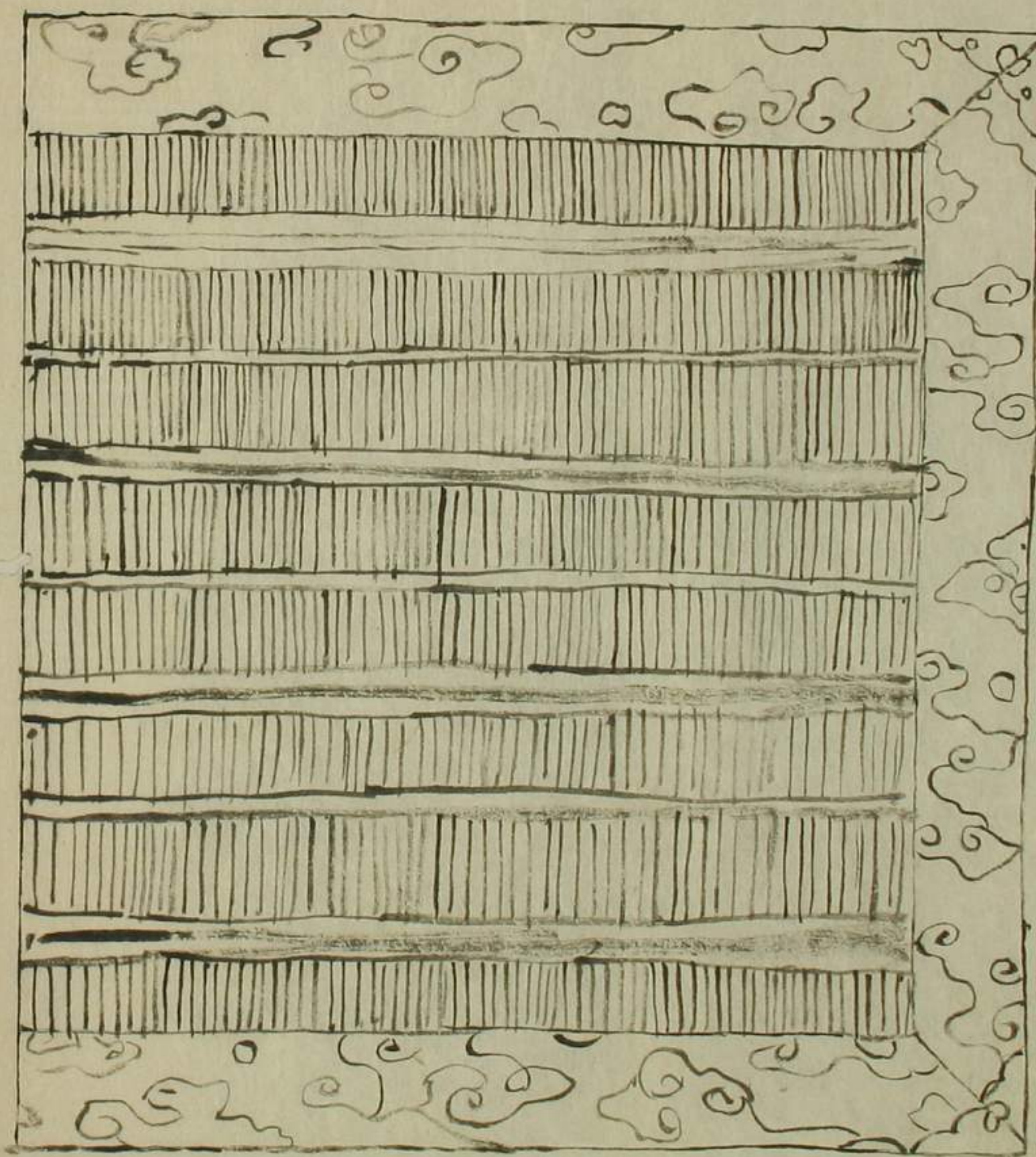
牙籠

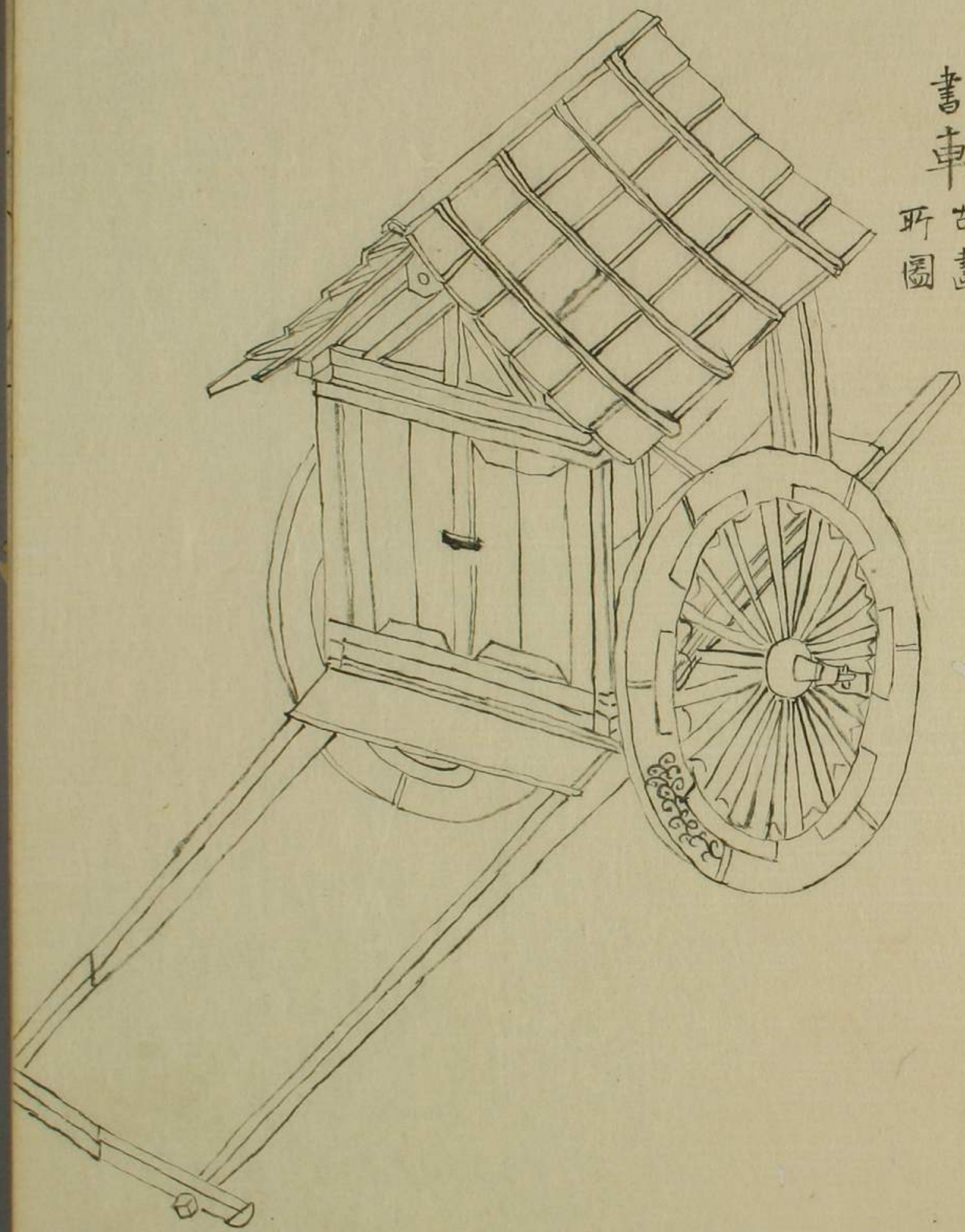


長一尺
五分
廣一尺
三寸
環維綾

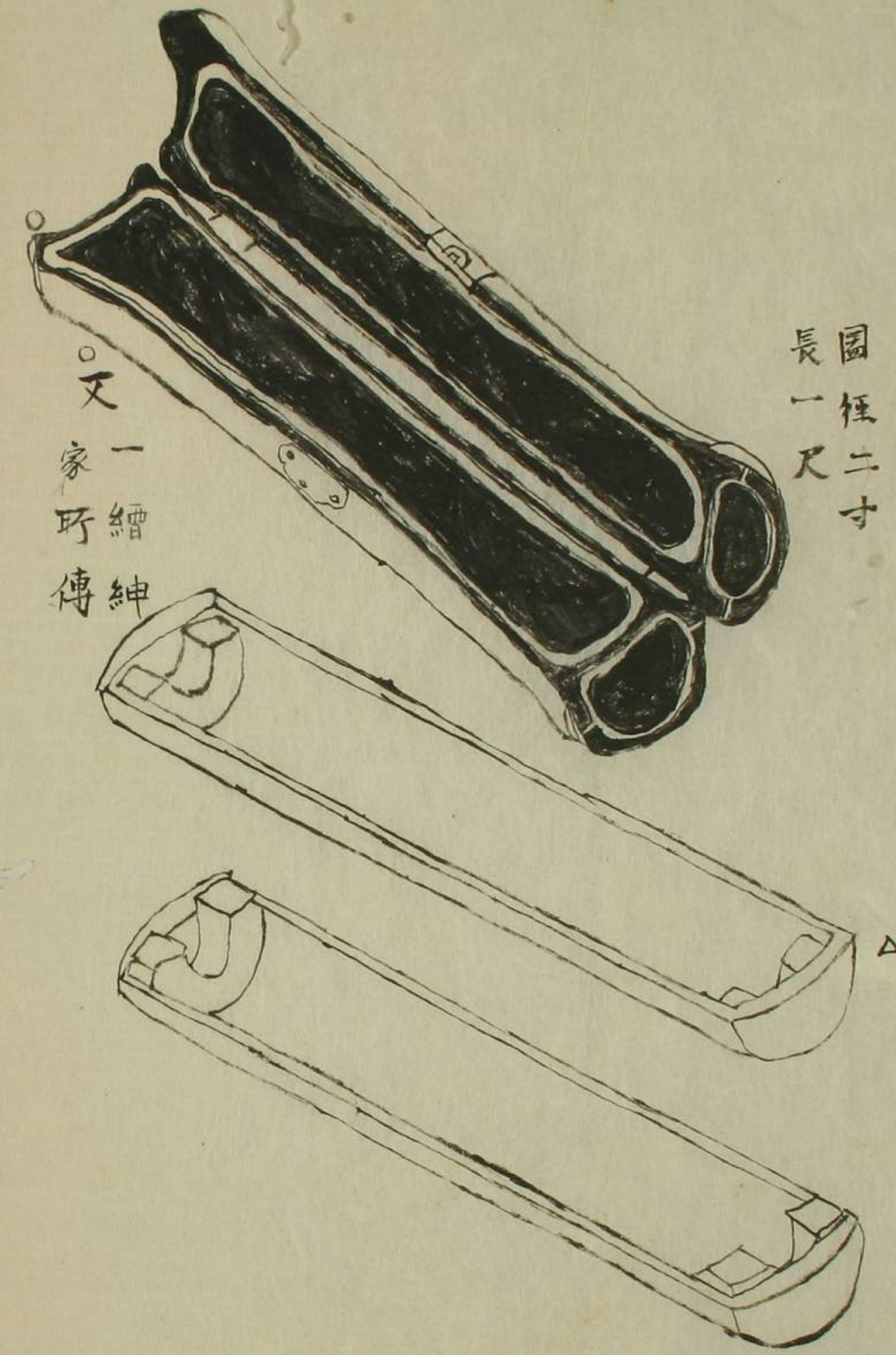
竹帙

一故
肝圖





書車
古畫
所圖

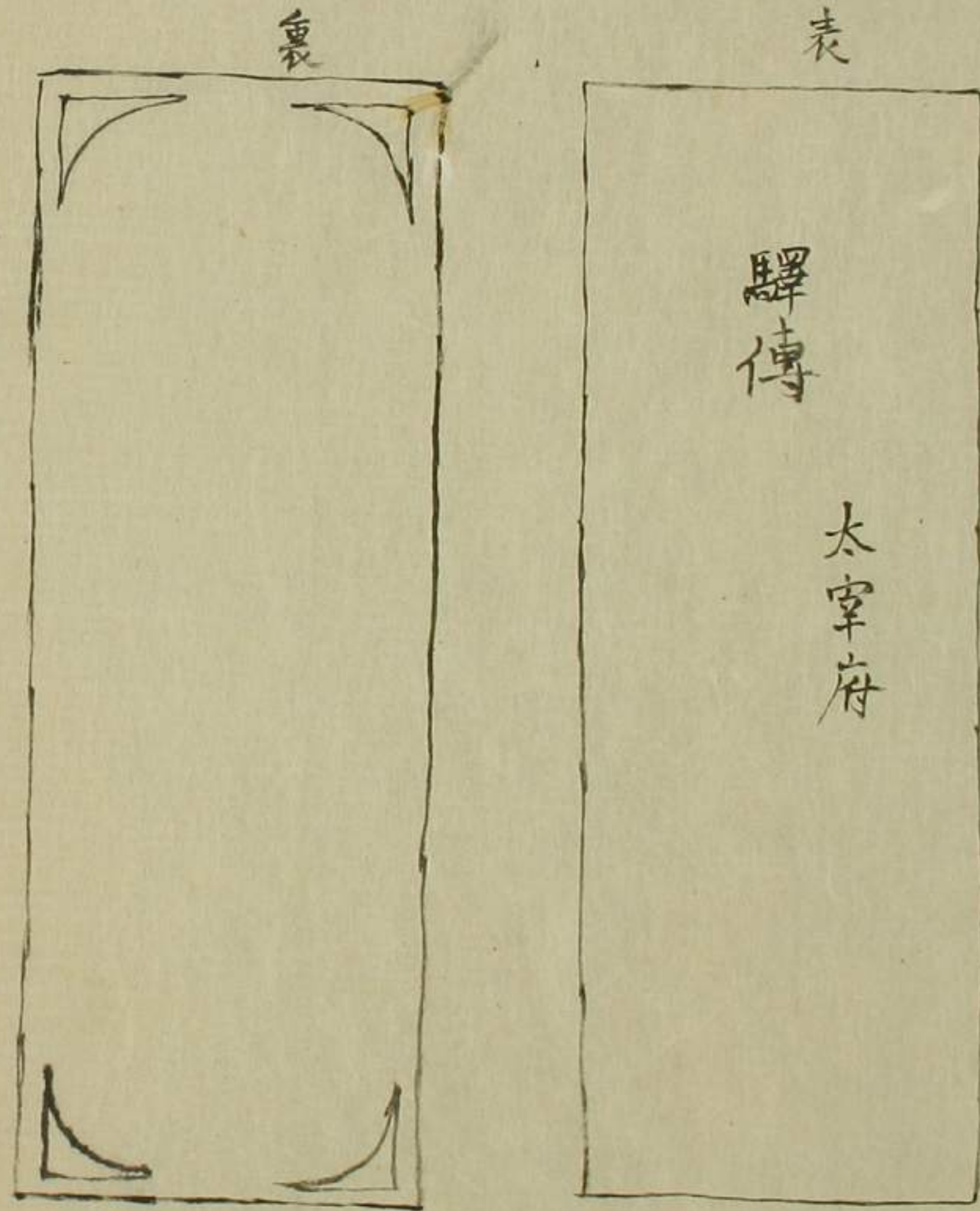


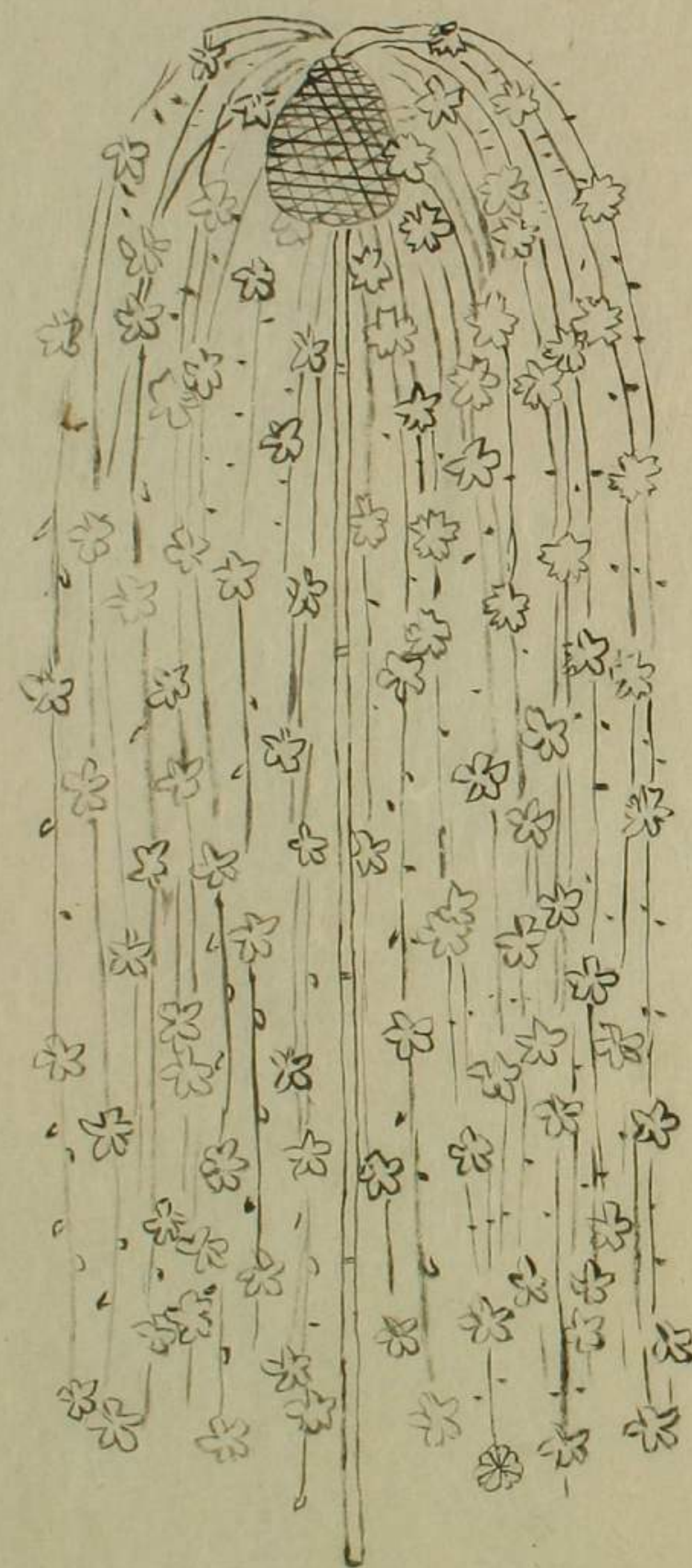
△書筒
法隆寺
所傳
圓徑二寸
長一尺

○又
一繪
紳
家巧傳

太宰府 驛傳

驛傳古函
長一尺
廣五寸
深四寸
五分蓋





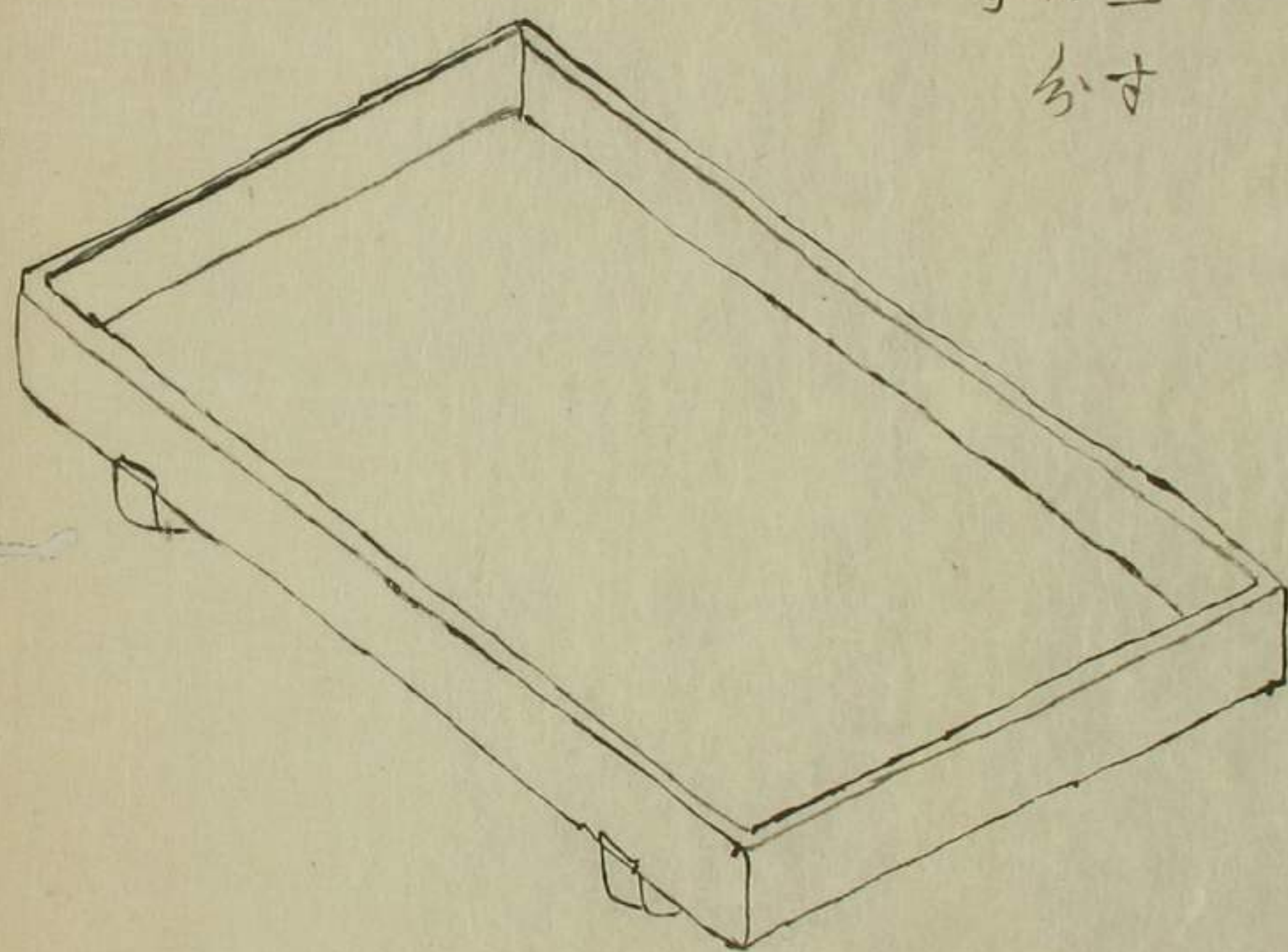
麻囊

豐前國宇佐所傳製

長一丈許紙
葦以糊粘

筥形

長二尺三寸
廣一尺四分
高二寸五分
足外三寸



足



廣一寸
高一寸五分

巴紋

神祇官廢址瓦



醍醐寺方瓦



法勝寺廢址瓦



寂勝寺廢址瓦



鹿苑院鐘



Handwritten text in cursive style (sōsho) on the left page, likely a transcription of the text on the right page.

あはれなるにわが心は
いかにわが心は
いかにわが心は
いかにわが心は
いかにわが心は
いかにわが心は
いかにわが心は
いかにわが心は

いかにわが心は
いかにわが心は
いかにわが心は
いかにわが心は
いかにわが心は
いかにわが心は
いかにわが心は
いかにわが心は

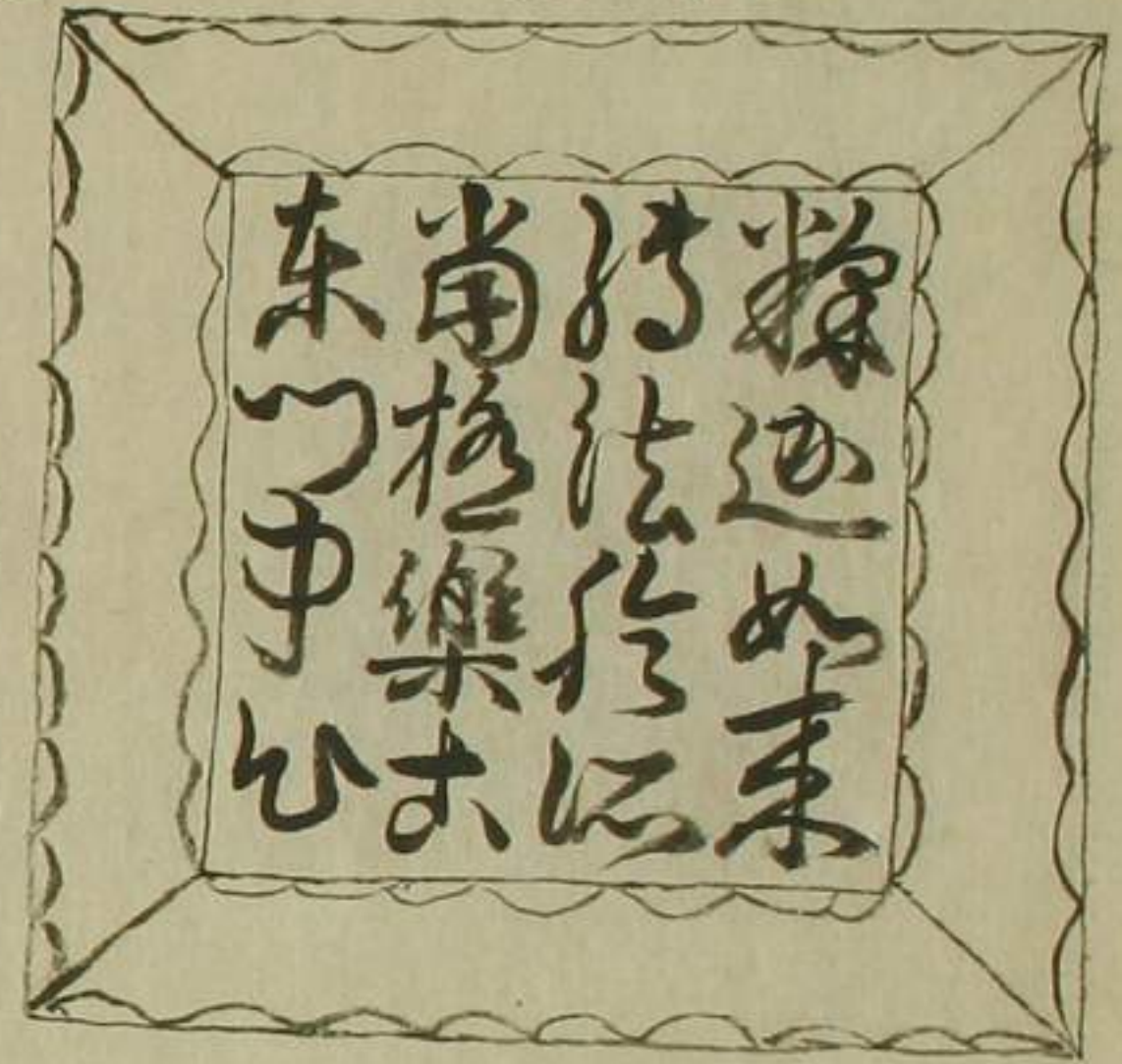
中山前大納言愛親卿
御返書
御書
御返書
御書
御返書
御書
御返書
御書

御返書

中山前大納言愛親卿

御返書

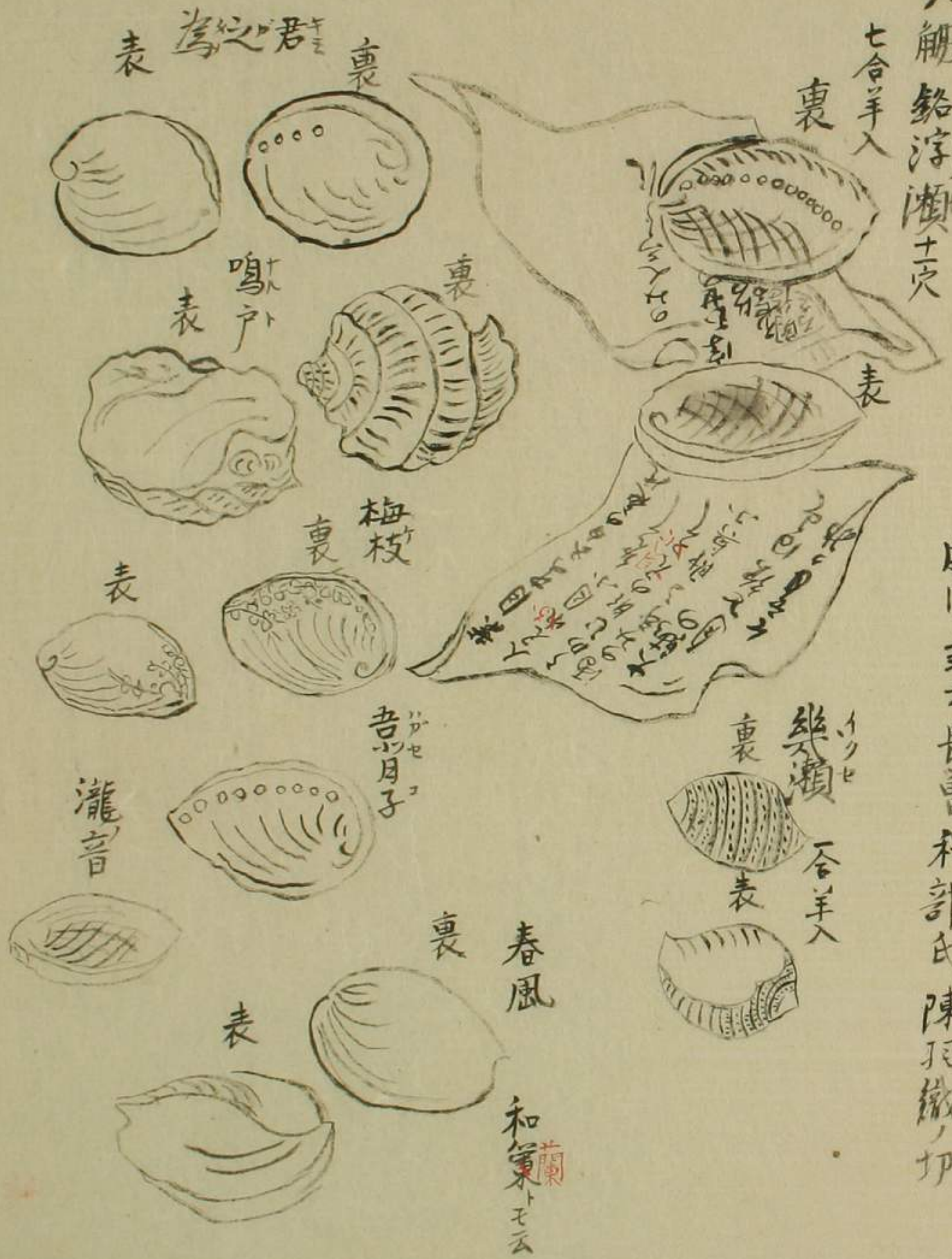
○攝州大坂東生郡
荒陵山四天王寺敬田院
大鳥居之額ナリ云



四天王寺重寶
内ノ記ナリ真宝

真應三年甲申始自去冬三春五夏之間以繪
師法眼尊智守本樣依傳文圖繪既訖今於西
面更書作九品往生人殊勸進下乘淨土之業
表裏共不交他事尊智圖以詩歌形其心詩
句九品同人各管大府御為長作之相以
下廣勸九人各行慶寺務之建立干舊跡彰與
像此堂大僧正為其新之顛倒之後以聖
靈院禮堂東廟為當前大僧正法印大和尚位慈
圓隆之本意也別當前大僧正法印大和尚位慈
前大僧正慈渡四王寺小九品往生傳と爲小考也

○貝觸銘浮瀨士克
七合羊入



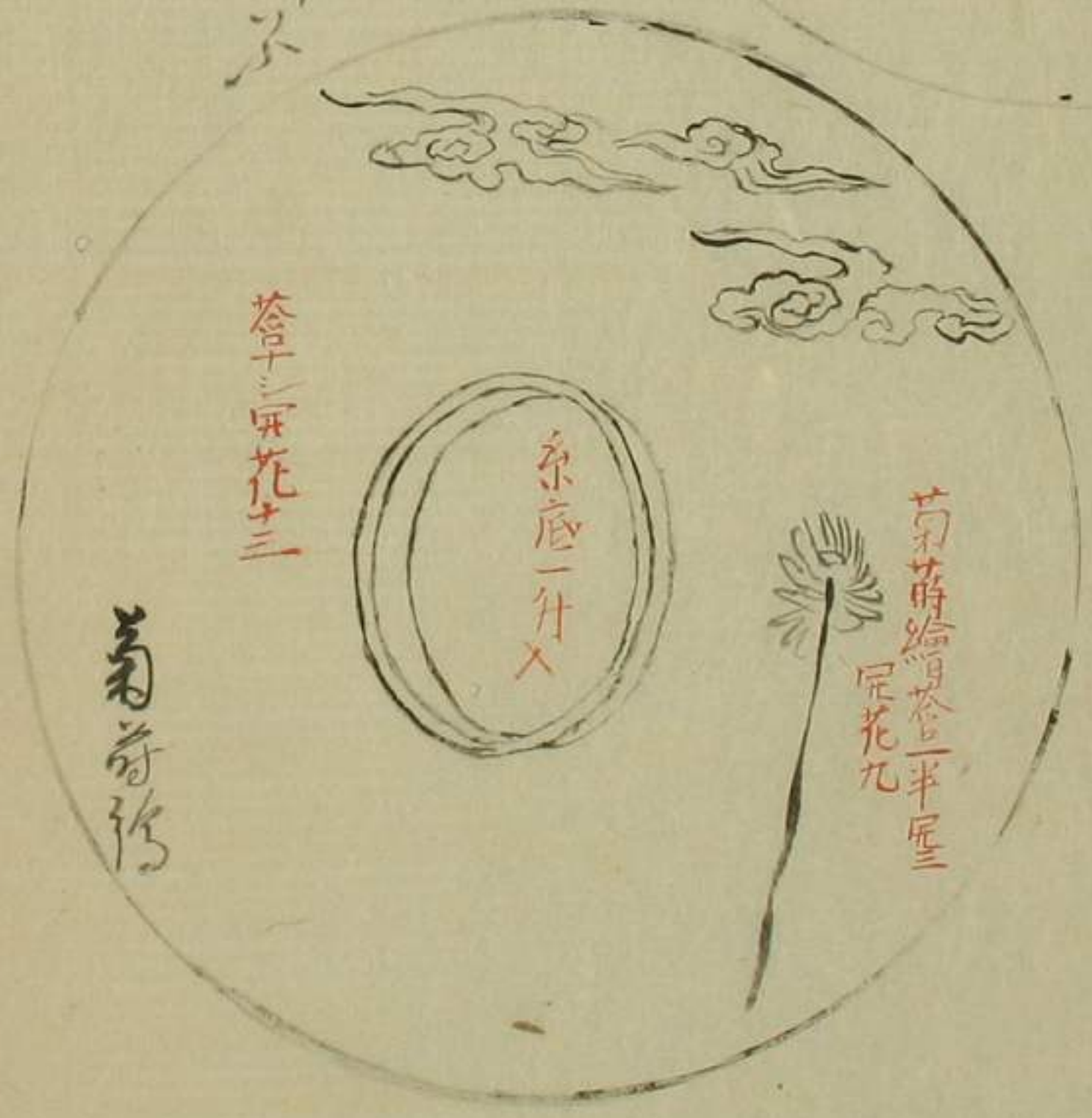
服巾云長曾我部氏陳羽織切

衡門表題曰釋迦如來轉法輪所
當極樂土東門中心の十六字寺説云
自太子の真蹟ト云或曰小野道風の筆之
又云弘法大師之云何トモ其是非ヲ
之に定^梅古代の所ナリ大師の筆或云
大師大内裏の額と云書と云

表



七人程々大船 六舛羊入 裏



選佛場

御構禪場春月拙雲標地勝

法寶藏

普明院元隆 九十歳書入ト者

禪院堂

海積山堆摩結家風直廣之 茶供飯給慈菊道眼貴圓明

○ 借甘津橋

小橋村の東より川小架は橋より一名鶴の橋 仁徳帝十四年冬十一月廿二日 後於橋甘津即号其 自南門直橋入至丹比色

仁徳天皇 猪耳橋修造勅宣 養老四年次庚申秋八月 癸未朔十三日丁酉

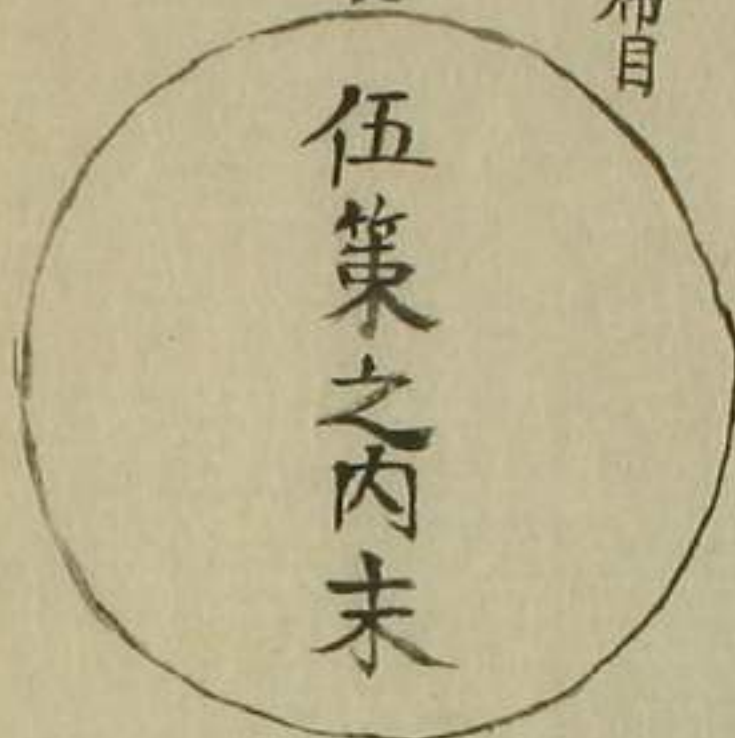
從四位下臣山守

山守朝臣八人皇四十三代 元明帝の長子と和銅七甲寅年叙從五位下 宣皇二丙辰年為遣唐使 養老三戊辰年叙從四位下

此謂許曾神社
味原御小橋村あり。靈蹤杖瓦碑

延喜式曰東生郡比賣
許曾神社名神大月次
相嘗年新嘗年三代實録
曰貞觀元年正月後夜
四位下今小橋村生主神
と云例乃正月十二日比
賣許曾神社の神
等由良宮 推古帝たり
國政君 聖徳太子
石花女園 聖徳太子
白鴨御池 東三河あり
大小橋山 味原地の一名
殖土度 今の御指町の
ワナクリと讀之

裏伍策之内末



寺田良宮治天下 天皇三年甲寅歲
天授四月承 國政君命補高津之
宮皇居荒廢地於石花女園西丘
白鴨御池上大小橋山地之石端置之
者即永保天下聖趾安固萬世而五
蹟故也
奉行左大史萬津上宮臣 武夫磨
殖土度 日東

文永年中足利家古證文傳來弘治三年御厨子所繪旨曰

御厨子所供御人攝別欠郡今宮庄輩證文從往古於五畿七道役賣
買之業令停止關泊交易地及煩可值進日次供御

彼園社駕輿了朝役在化所企新儀依成化家披官是方々
相懸非分課役を不可免所詮殊為諸役免除了後專 公役旨
可被下知者之 天氣如比恙之狀

弘治三年四月十日

左中辨

天正九年村井 春長軒京都所司代ノ時下知狀今宮小ヨリ以例式
今小總轉 朝役神役之朝子形と其文云

祇園社大宮駕輿了攝津園今宮神人役賣買之業奉任
御代、繪旨兼御下知旨可專朝役神役之狀如件

天正九年六月七日

村井春長軒真勝判

每年祇園會兩日駕輿了百拾六人今宮村より上京して神役と勤る事
年應久遠して其初めは京都より京師四條通油小路小幡子宮に社あり
小井より幡子水と今宮村幡子宮の拜領地と云據る今宮代神役の旗宿の地あり
ん今小至りて今幡子水町地の口ま或年餘と神役の業一賜る今宮代ハ福徳の
神札を送りて謝はけ例も其より久しくして
ある事あり西して祇園會は所々より右例多し

慈雲山瑞龍禪寺 難波村の瑞龍あり 禪宗黃檗山

佛殿藥師佛 十二神將 天王殿 中央弥勒佛左右四天王 後堂草鞋天

禪堂 佛殿の左あり 祠堂 禪堂の右 鎮守 祠堂の禪堂 禪悅堂 佛殿の右

光 佛殿のノキノ額 誓 誓願の誓 慧日照天恩光萬類悉瞻依 佛殿の柱のノキノ

寶殿新隆 子秋吉慶天龍重重係瑞彩 雲山 五願 瑞 瑞王教 龍 龍の額 繁興寶刹降祥鐘瑞感神龍 日取外柱のノキノ

現取佛勅護法古僧彰願力 天王殿 密功補 密功補 恩 恩 四回冥入光明藏 天王殿

三者均登解脫場 高嶺 寂 寂 宗 宗 瞻地弘開子秋永隆盛德 天王殿

三有均登解脫場 高嶺 寂 寂 宗 宗 瞻地弘開子秋永隆盛德 天王殿

鶴居寺 南長極あり天台律宗雲松山慈祥院と号す

本尊阿彌陀佛 慈覺大師の作長四尺寸地花言例小安に開基の久遠より新の石中興慈鑑上人延享年中の再建

百解觀音 棟父坂東西國等の巡礼所なり百體の觀世音成安の又堂下又其國々の觀音堂の土と兼てついで建つあり

梵鐘 長門の國主毛利氏より寄附あり往昔城下の地土中より掘り出 鑄鉛殿銘ありたに記を原の中筆の器物云 鑄銘云

西晋二世惠帝大平十年庚申昔永康元年本朝應神天皇三十二年乙卯今寛政十年乙未都て一子に百年乙未の元帝の附左平の年号あり一年乙未の終り又宋の元帝の時乙未の年号八年乙未の終り乙未の年号の鐘乙未十年乙未の西晋の年号あり

長門州厚東郡宇部郷松江山普濟禪寺 長門州厚東郡宇部郷松江山普濟禪寺

聞鐘聲煩惱輕智慧長菩提生離地獄出火坑 聞鐘聲煩惱輕智慧長菩提生離地獄出火坑

願成佛度衆生 願成佛度衆生

那信力輪常轉天下太平四海靜謐專祈諸大檀 那信力輪常轉天下太平四海靜謐專祈諸大檀

資法界念情同圓種智 資法界念情同圓種智

江口渡口

淀川の支流神樂川の河口に下流より三つあり一は華陽村一は三津屋村一は御村あり江口村の郷保田中氏元龜年中の

古牒あり其文曰
渡舟に浅草夜を絶てり糸慶村に幸乱坊狼藉一切非ふ
除く其根柢在之ハ可成敷く状如件

元龜元年九月

信長判江口村

取頭中

行集抄云

信長二年長月の頃あふむりさるるあひの園の

こつていつともねさす小宮のりさくもいさるて江口けり
とつ小遊女は家尺のくれに家い南水のうへにさきみて
けの情けたりさ備さけりねりさきを板もむかへり
て来世をいなきそ是もあ世の遊女とあふるに宿業の侍り
たろ中ん露の身のさくしのけりさきも佛のおんさき
始つりさきさる那れさ一のほりさきさきさきさき
さきさきせん事さきさきさきさきさきさきさき
中んおのり遊女とけ浦人のお乃命さきさきさきさき
知事あり侍りこいさきさきさきさきさきさきさき

今かくして死ぬるすいそ人地や又世の情とあふさるさきさき
遊女とけりさきさきさきさきさきさきさきさき
はえさきさきさきさきさきさきさきさきさき
ねんさきさきさきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさきさきさきさき
侍ありさきさきさきさきさきさきさきさき
あつたはのさきさきさきさきさきさきさきさき
侍りさきさきさきさきさきさきさきさき

賤の御前やけ姫さきさきさきさき

西行

とらさきさきさきさきさきさきさきさきさき
ての園りん板さきさきさきさき
月をさきさきさきさきさきさきさきさき

かきつきてゆのれもさふ智てはなぐし思てゆりしふみ居ふ一
秋よりて連歌なるて作りてのれもさふいれる倍くく

かまゆきぬるけの庵、那

とゆりもたあふし又

那のそりしうさうはいそりれ事

と居けゆりし事いふわとこして是へゆりは六十餘州さそ
らそあなるくのふさふれゆりしともこれ程の抱めかきそ
けとえさちねゆりさりさあられたとこありあふれとくさ
らてりかかほきてさゆりさるる友さうとんとはとね
はくしとねゆりしははれれの高くさうさうはさうさう
さもあふれはれ口の尾うねさうさうゆりし

君堂

江口里より日蓮宗寶林山寂光寺普賢院に号して住職之
重寶小西の真の弟の末子なる山ふりさうさういふも
江口君像 本堂に安置長き人許り
江口君の墓あり極なり

大江坂鳥鐘

止町の邊町の鐘あり傍に御樹あり
鐘銘曰 戊戌之秋 獨當地野 鄧永代欽租 是天下
源左大臣鉤命被當地野 鄧永代欽租 是天下

也展衆 軒 撞

賢皇使萬月懸西山久聲之祈誓 石銘彝昂而敏為太
疑道君十期古天無貴無賤聽鐘聲者降睡魔速破群
鏗者蓋天無貴無賤聽鐘聲者降睡魔速破群

將軍

大華鏗金鍊五形 不貴鉗鉞
仁者有父母 萬代蒙慈
清平世界 永護無私
地祇百八声 響通天神
音無知石 有消日供
寬永十一月 閏逢關茂季秋吉日

野釋龍巖 願主町中一結衆等
巖 願主町中一結衆等

芭蕉翁終焉地 南久太郎所六丁目花屋が裏之蕉翁南都より難波
のち一旧趾あり車に其角分枝尾尾終焉地小之より
八日の夜乃吟云

旅不病を以先を枯柳成かけ也
終不元祿七年十月十二日申の刻不病を以先を枯柳成かけ也
 鎌倉より病を以先を枯柳成かけ也
 疾不終成より病を以先を枯柳成かけ也

什寶。世尊蓮系の四葉。嵯峨帝御守。弘法大師の御り。三尊
二月朔日言田吹田莊成寺産とく賜り給言あり。又尊氏將軍
 寄附あり其文曰

當寺者河原元久公之草創一天不二靈場也依有心願
 寄附攝州倉橋庄一分祈天下太平并欲遂二世安全之願依
 寄附狀如件

建武元年八月朔日
 尊氏在判
 太融寺印

仁德天皇
 御名馬
 様之殿額

及正天皇之御辰筆也
 祭神
 難波皇
 大神宮
 難波上仁德天皇

仁德天皇元年十月七日日本紀云仁德天皇
 神領高附境是也難波下難波上之御辰筆也

及正天皇元年冬十月勅賴于天

江坂平野神領座有後美正比

金城御造時神領地賴上難

波寫高社時後三條院帝住
 吉御幸其時延久五年二月十日
 將軍賴朝公及足利家社奉有

了之家小めりり
 氏の電戸ハ小
 仁德天皇
 御製

仁德天皇
 御製

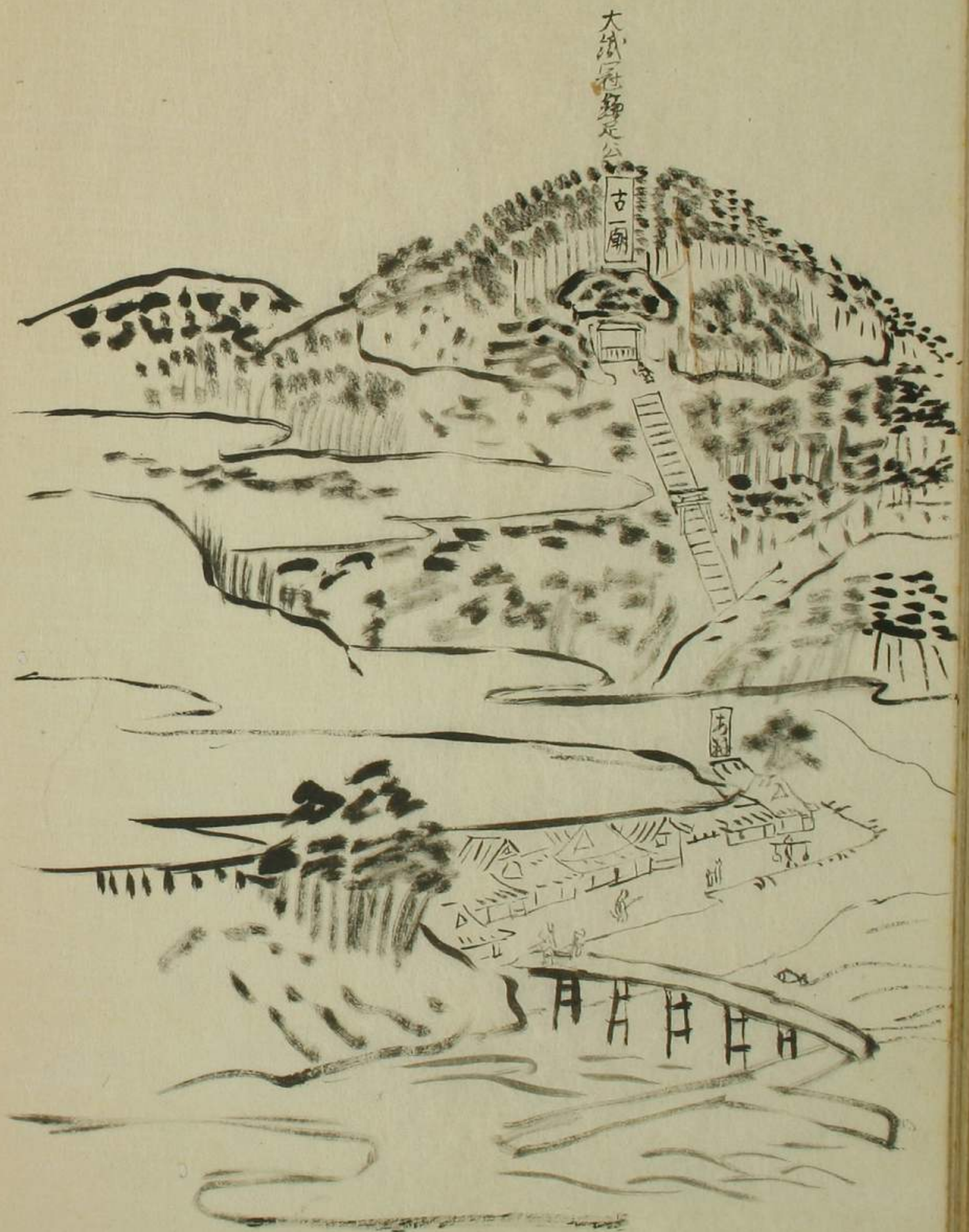
○竹田近江を機括戰場を諸國をも聞く其名高し其初代原の母阿波

國の産シテ江都に住し常小浅州の觀音成詣し其立願小多の
人三月養小椽橋を教ふと禱す其禱はさみ児を寄集りて砂遊ひ
とくわたり又く砂時計の工丈とわらわし是を驗りてとく
京都小於く座控偶人の製造し万治元年十二月朔日
空井を調進し奉り初ま竹田出雲と文領成りせり
今より百四十年以前めり其後寛文二年大坂小於く初て機括
戲場と預ひく具りし享保十一年又月又日竹田近江と文領を改め
同十四年壬九月十九日近江に改りられ其時之に存(同年十一月京都
小く文領とぬ)寛保二年九月二日の近江信繁死す則ち平助
後之同三年京都やく竹田近江と成於今相續後機括の末裔母の
子供出しく戲言成ぬむは芝居世小高く東西色部の旅人も竹田
座控成りぬと坂(あり)駿をいとぞ聞し

○知足院 勝尾寺の山坊の中ありむし多田満仲公の長弟京仲光の
後令受主君炭丈丸に代り今改稱はもけり一棟の椽茂
樹これと改稱幸壽椽とけり又一盤院石ありふき改稱幸壽石と
す天正の禍小遇ふ今亡世に仍し幸壽ハ文殊の化身と
云居和尚かの椽茂画く讀して曰
義堅侶石客潔如珠代主君命現菩薩軀奮房
今有感新畫以為圖文殊即幸壽幸壽即文殊

改動
○大織冠鎌足公昔川墳 安威村の西小あり方三所許一楹の丘と云れと安威山
とくこれと改稱幸壽椽とけり又一盤院石ありふき改稱幸壽石と
す天正の禍小遇ふ今亡世に仍し幸壽ハ文殊の化身と
云居和尚かの椽茂画く讀して曰
義堅侶石客潔如珠代主君命現菩薩軀奮房
今有感新畫以為圖文殊即幸壽幸壽即文殊

天智天皇八年庚申天皇遣東宮天皇身於藤原内大臣家授
大織冠與之位仍賜姓為藤原氏自此以後通曰藤原大臣辛酉
藤原内大臣葬 日本世記曰内大臣春秋五十薨于私第
元慶元年十二月十三日巳卯勅定每年獻荷前幣於五墓
贈大政大臣藤原氏墓 下畧



○神陀洛山物持寺

古鐘銘朝野群賢不出其鏡也今新銘の古銘曰
 粵祖無父越前守藤原朝臣歸心於普門妙智頭
 首於先業之大悲而墜露溢然閃電條爾納言尊
 考軫使大賀御井買得白檀香木造千以黃金附
 入唐使物持寺於喜十二年夏四月八日
 豐鐘一口干時延喜十二年夏四月八日
 寺記云

物持寺ハ宇多帝寛平二年秋前大守藤原高房郷の草創

一條院 後一條院 白河院 名羽院の四帝仍をりせし

勅願所と成庄園賜其後 後小松院宸極の寺記に賜小今

ふ成存せり元龜年中高山右邊が火不諸堂とくく火燼とる

其時尊像火中に在る積は半ふ一慶長八年六月豊臣秀頼公
 諸堂再興ありを仍ハ斤桐東市正とを聞

南題南山般若院 元政
 逢僧訪遺跡坊中延客慰吟身三千諸林下
 禮來久十六應真畫得新般若塔前回首
 着色空空色絶風塵

祥雲山慶瑞禪寺

田村小あり
禪宗 茨城

禪堂本尊親音

赤梅檀香木 天竺昆首錫 天の徳
後水尾院の御念持佛 寛文五年當寺小御宗附

觀自在

下の橋の額
普應殿

清浄主人翁 醒眼晴明日月
混淪皮袋 子未朝鼻孔 風雷

禪堂の聯
貞隱筆

普應殿

二木の櫛の額
茨城 元

通

天光塔

靈元院法皇
初額

開山正統禪師塔

後水尾院御建立
龍溪和尚塔

桑笏一披

塔外の塔
非筆

後水尾院

附法の宸儀
西額あり

山塔の聯

此外御塔の木牌あり

文ハ高泉の也

寺傳宗

山光法眼明

濟道具時 全身擔荷

祥雲山

惣門の額
元

方丈

後水尾院御建立
額ハ非筆

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

爲

東洞院宅庭有大櫻樹每年能因自古曾
 部入洛往其美花亦依人而時能因彌
 後冷泉院永美山楓田禁裏歌合時亦
 和歌有餘詠歌繁多不田川錦之句不
 乎其詠歌跡今畧書其姓也其以傳州高
 城逸有詠歌跡今畧書其姓也其以傳州高
 世云

慶安三年春三月日

待宵水侍從墓

極井村の山あり小侍從石清水別當光清の女あり
 近衛院の皇后多子に仕し和奇と名けり

今も其あり昔の侍者もふけり浄の寺小僧は

鳥丸 光彦卿

待宵水侍從墓 碑銘曰 待宵水侍從者姓紀氏武山子
 清別當光清女也仕武内宿禰苗裔石
 治養四年八月清中句德大寺左大臣藤原
 實定自福原歸洛一夕使皇后見月時小
 侍從陪侍從朝歸福原使藏人傳語因示
 倭歌侍從朝歸福原使藏人傳語因示
 從好侍從朝歸福原使藏人傳語因示
 其謂小侍從朝歸福原使藏人傳語因示
 其謂小侍從朝歸福原使藏人傳語因示

日向守大江姓永井氏直清置

久安夫

大澤山久安寺安養院休庵村有古儀真言
 勅近衛帝辰輪也
 額後水尾帝口宣アリ

滿仲公所建朝

吾没後留置神於此廟窟可護弓箭家
 加之以當院鳴動兼而應知見四海安危也

亦曰

源家之安危者可依當院之盛衰

滿仲在判

文明四年八月十七日鳴動の時將軍足利義政公祝詞云正二位万代
 守護推現と神跡と被ふ又近年元禄九年丙子八月廿日 詔し
 賜正一位多田權現勅使藤波從四位上神祇推代副兼左京大夫大中
 德忠朝也

夫多田院ハ 攝津守源滿仲公靈廟也

崑崙山 昆陽寺鐘銘
不村之古義也

粵有天善勝寶元年己丑二月十日
鑄一臺現形鐘銘至勝土足
建致銘之範歲亦重鑄企造勝
定知本願年鑿中懷文成
金輔大守轉顧年鑿中懷文成
護持法主守轉顧年鑿中懷文成
寺中安穩王掌燭鎮明
洪音所至三弘私憲機
十界無量至三弘私憲機
別時嘉曆
律改共各至恢掌王遙亦重鑄企造勝
師元歲日長會期憲機
法仲官眠期憲機
橋上冬
人十一餘境惠累柳迴五拘潮初驚月
位七切薰內風葉營此人盧暨關嶺十
慶日有修豐久奕風薇投屢瘵荒補五
滄也心覃饒業世靜功財迴濁原足日
雕

同濟跨法大松資衆蒲作迎親之
遊晚水椿算彼僧宰沒建聽
月極遍諫歲聖勳惟白吾真
殿苦畜瀝齡昌運力軟張寺門

正玄寺 林示書曰 小田右大臣平信長公御筆

禁割
一軍勢甲乙人本乱妨狼藉之事
一伐株竹木事射障取之事
一相創矢踐兵粮之事
右修之堅令停止此若於遠祀之族也
忽可度嚴科者也仍下知如件
天正六年九月日 信長判

天明二寅年四月八日

肥後國岩戶山靈巖洞之山顔ヨリ堀出又

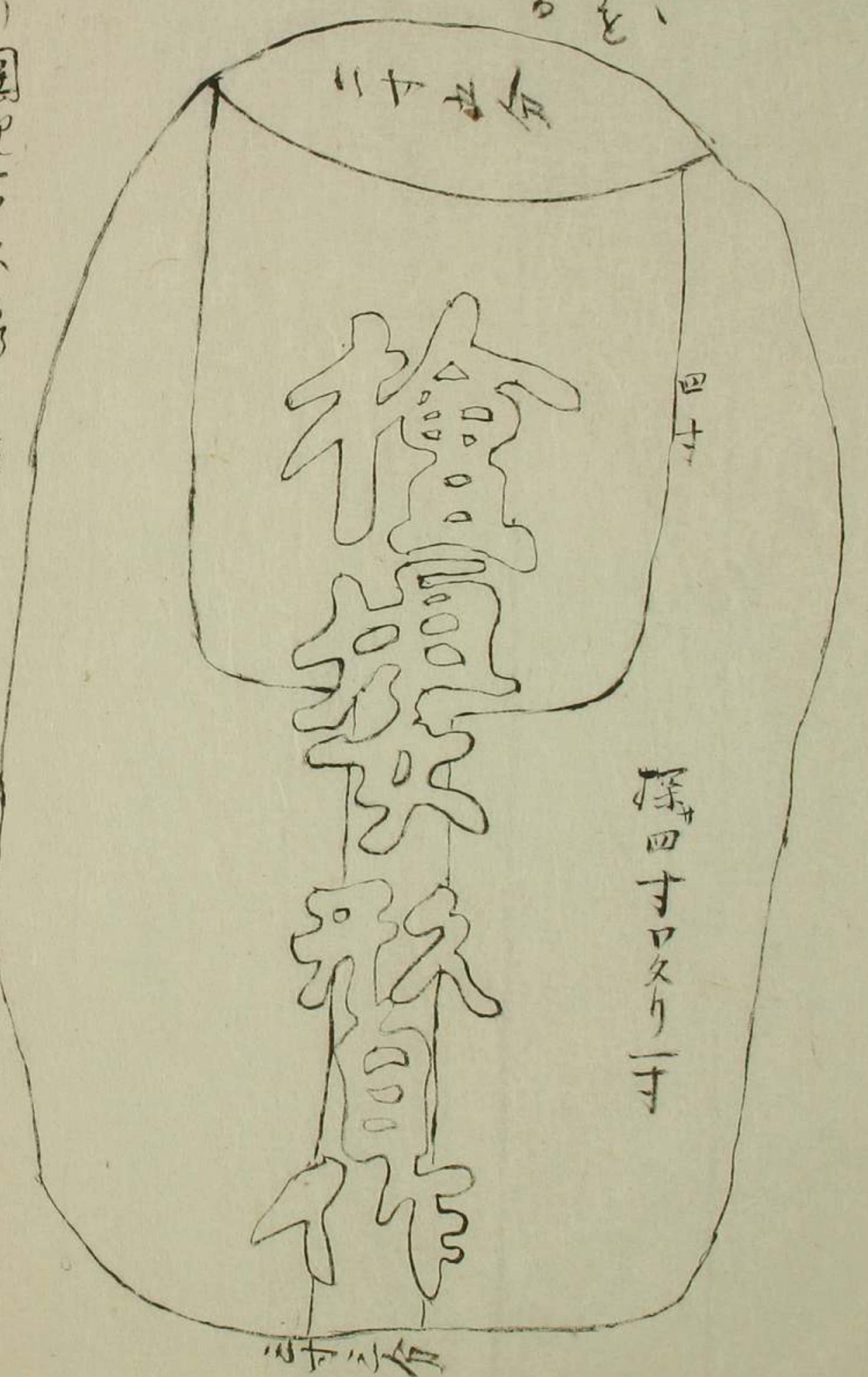
高二寸一步



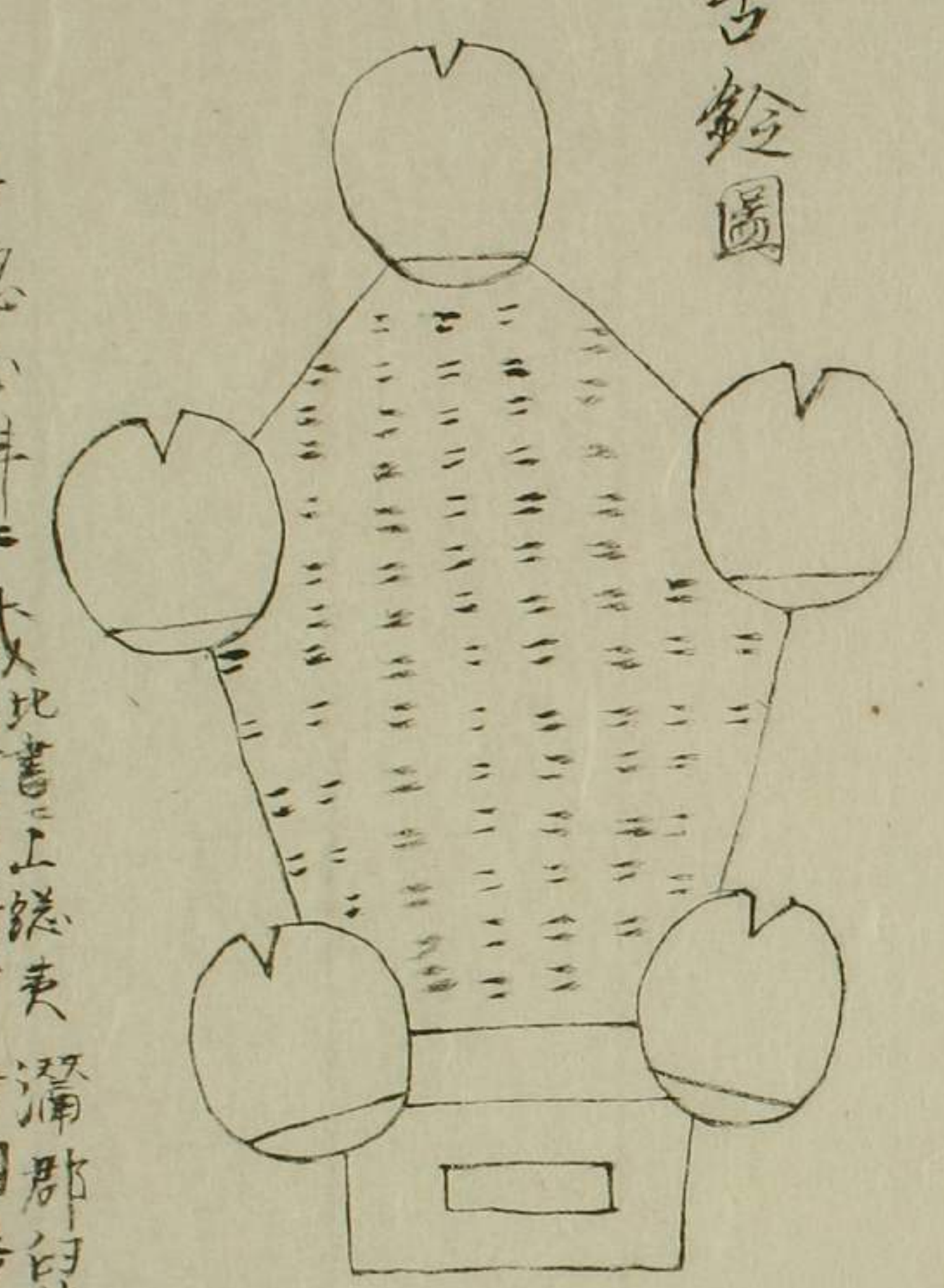
本于造ル 燒タレ 物ト
見ニ其奈也
朱魚之ツ六小キ穴アリ
考ニ肩をもちやふの如し其色
えのこ所水々を包

口内ノハ、
 此内の中を
 下トシ
 石色
 古器の
 如シ

うつすの洞にうつす像を愛する
 といふ事あり

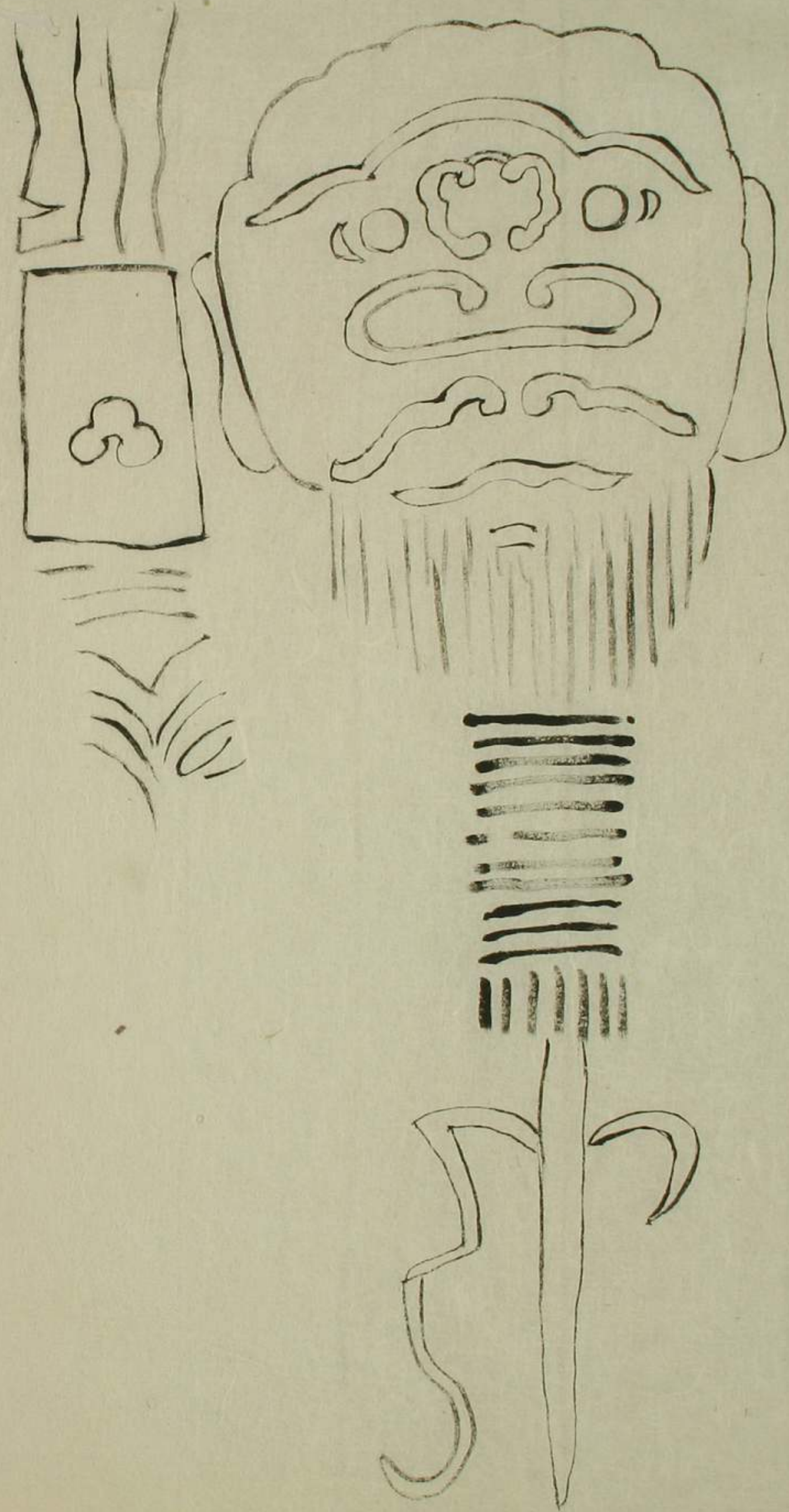
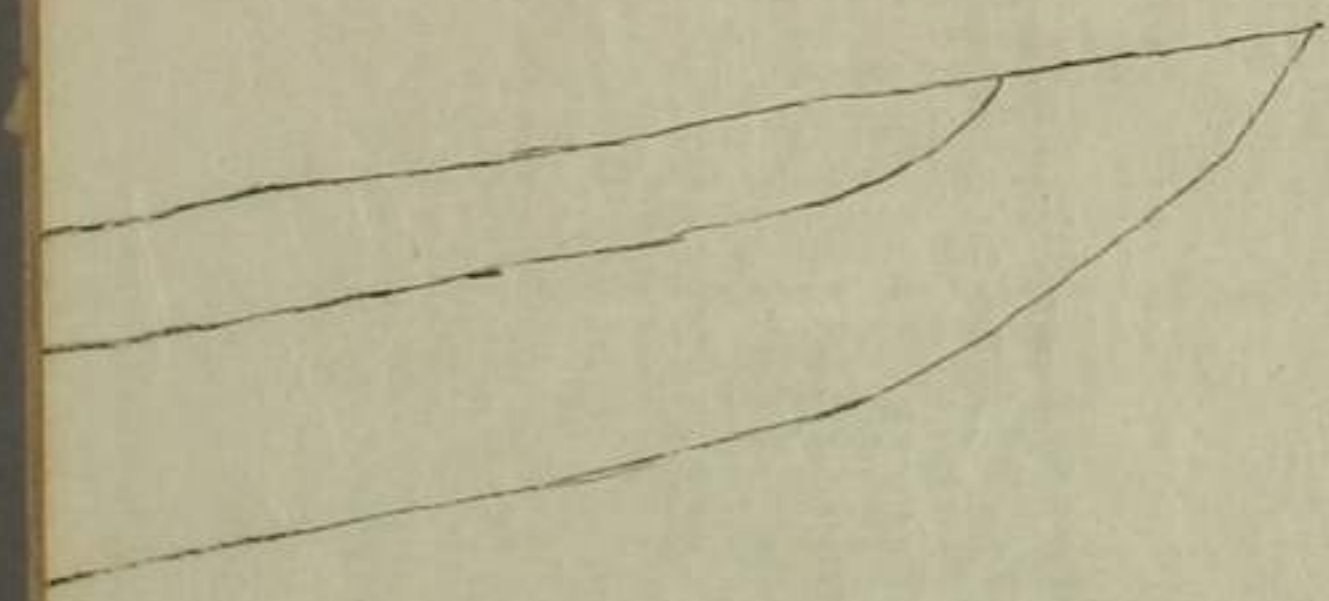
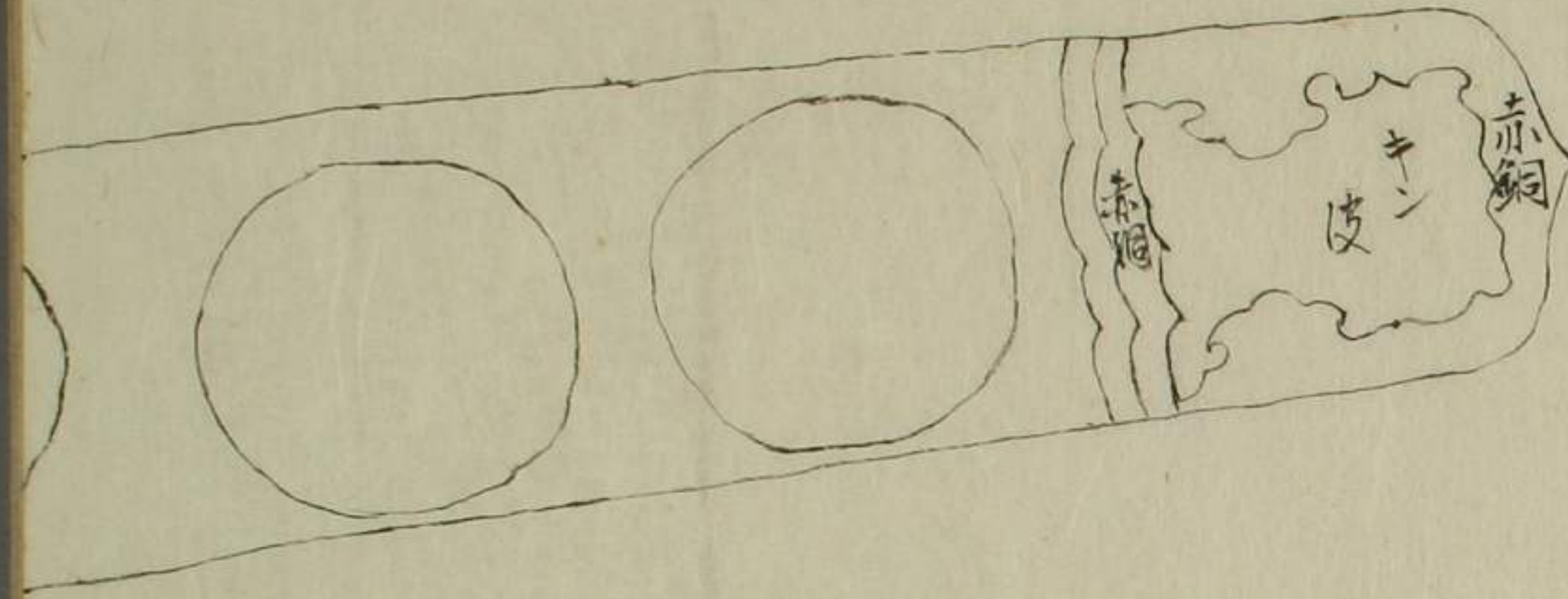


古鈴圖

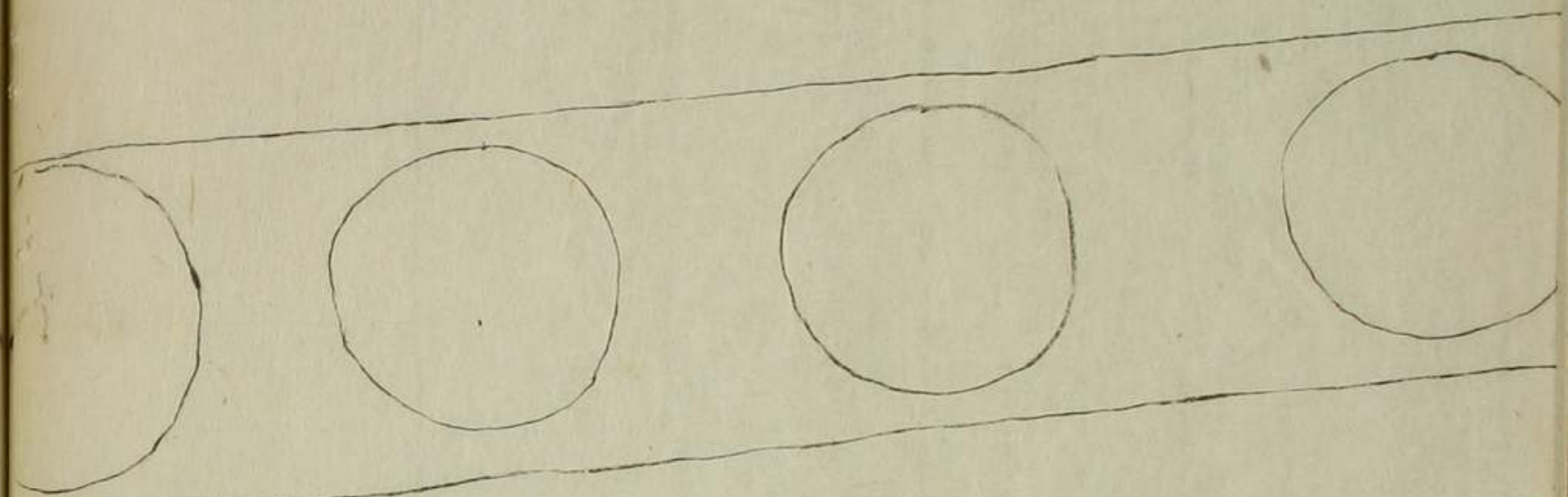
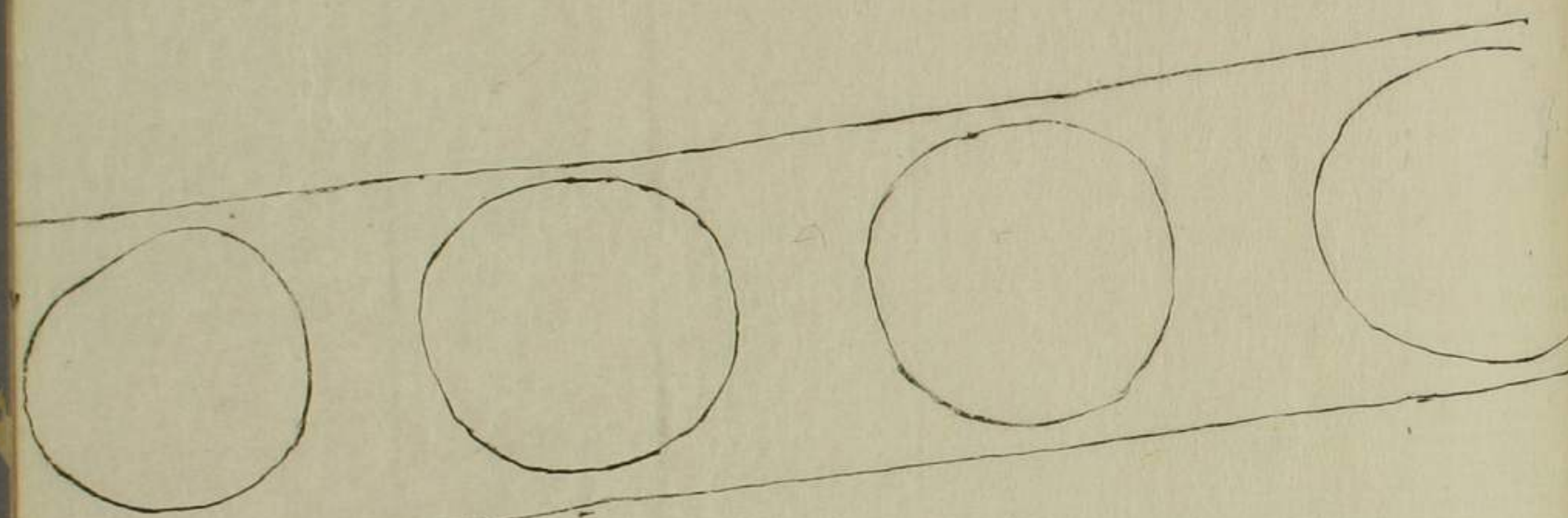


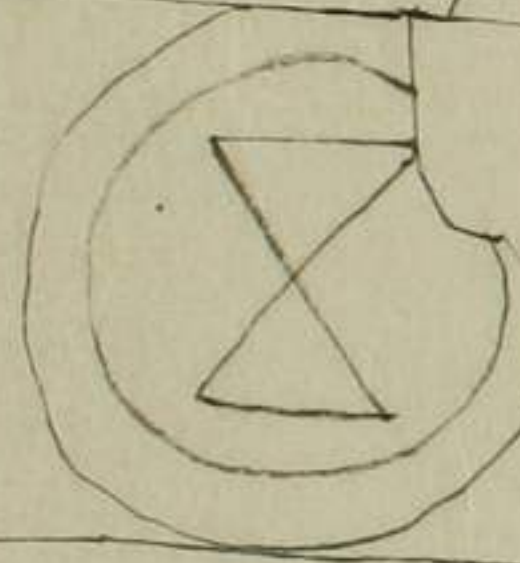
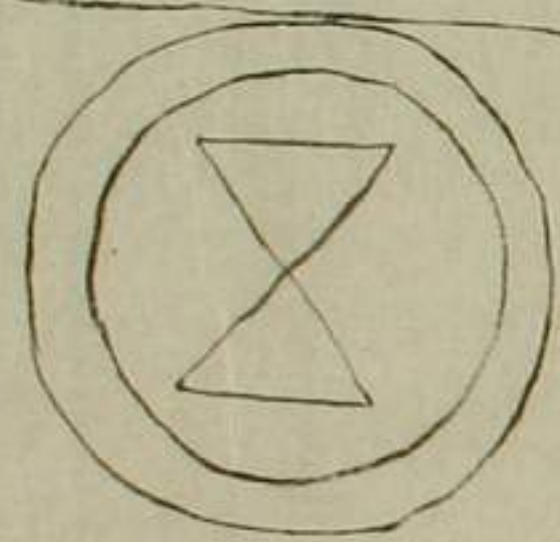
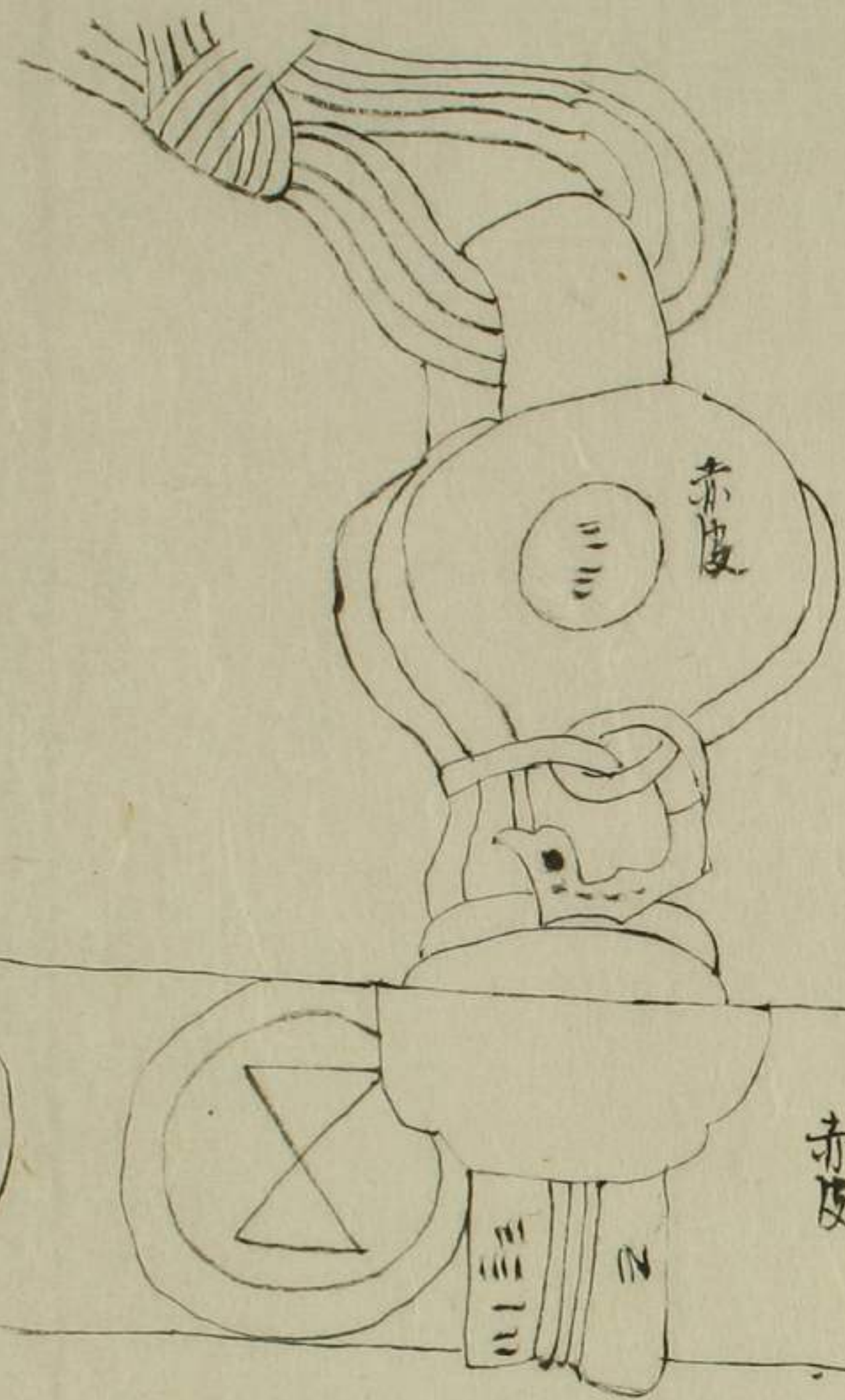
房總志料。載北書上総美
 上総國集郡貞元村神將寺。貞元親王御崩ノ側ヨリ
 古民堀出セ云竹卷ノ内ノ國寺僧呼テ履鈴ト云其器之
 天明五年借高橋氏ヨリ

橋村家因正太刀



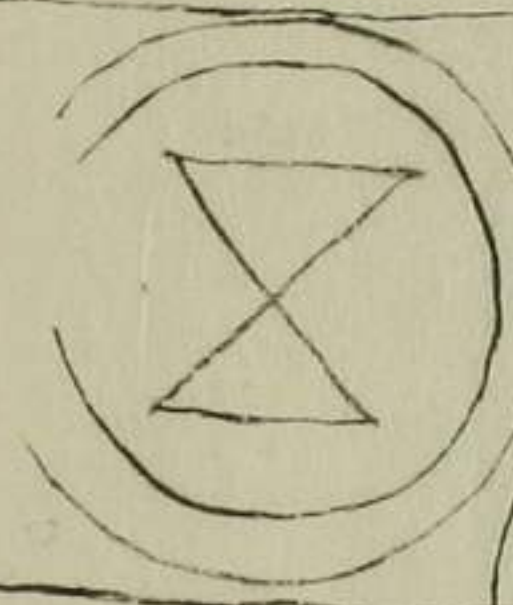
下總國東之社寶物駢路之冷之圖





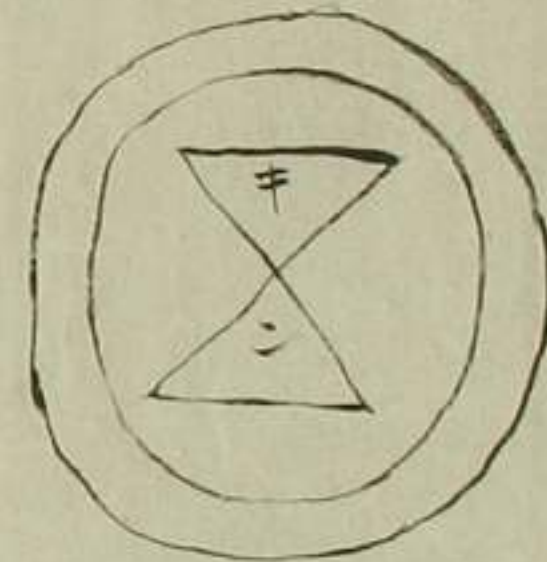
赤皮

縫目
上アリ

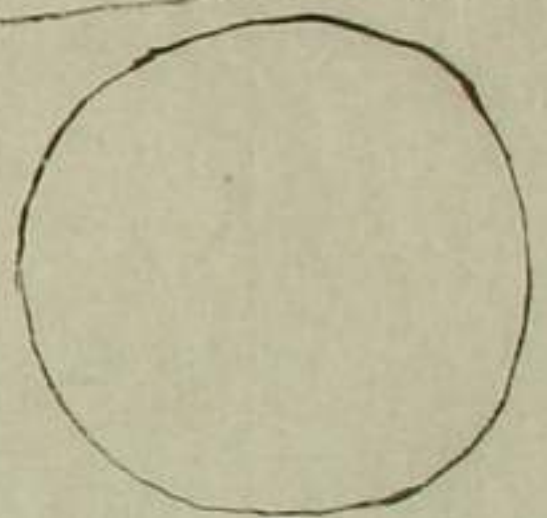


赤皮

金

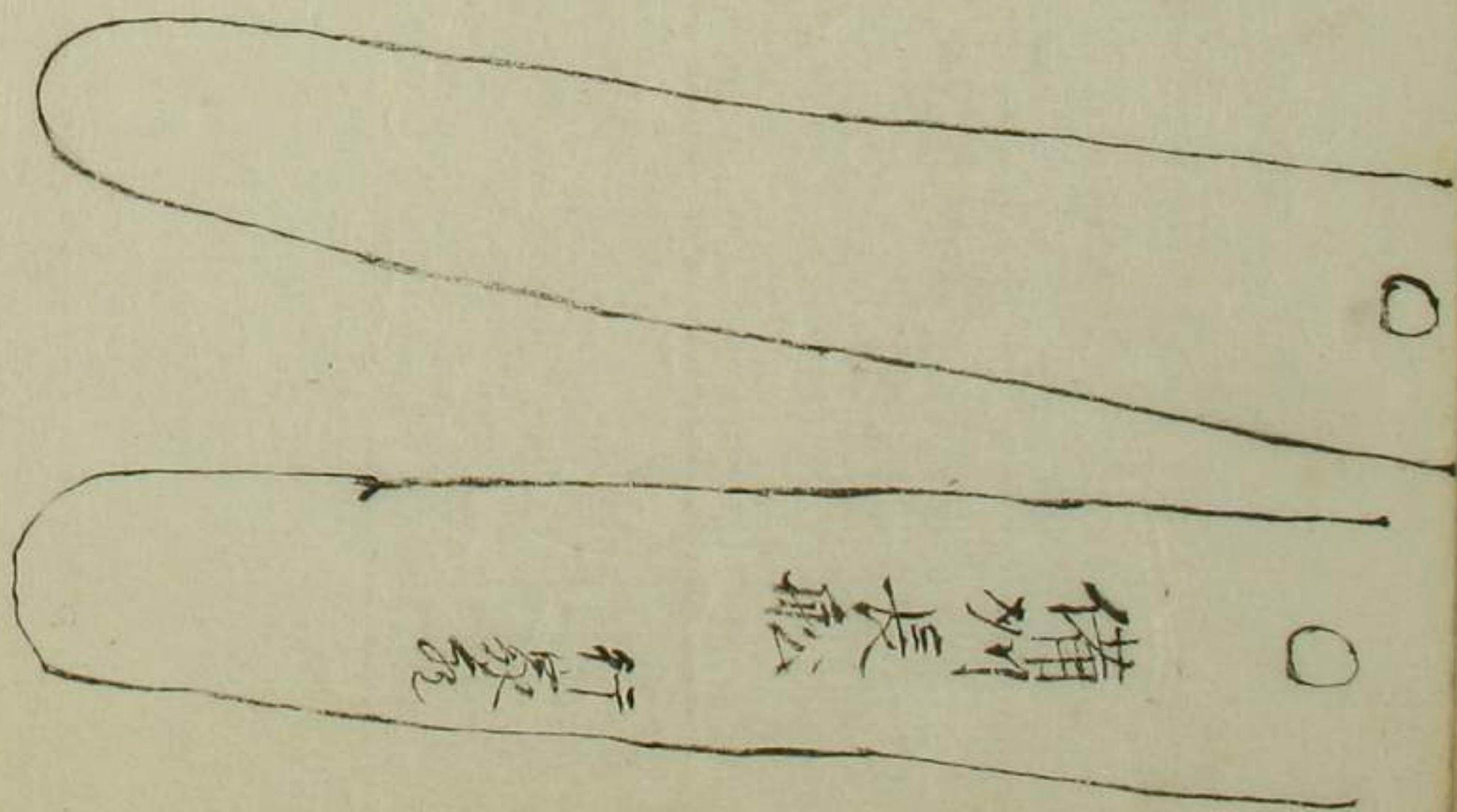
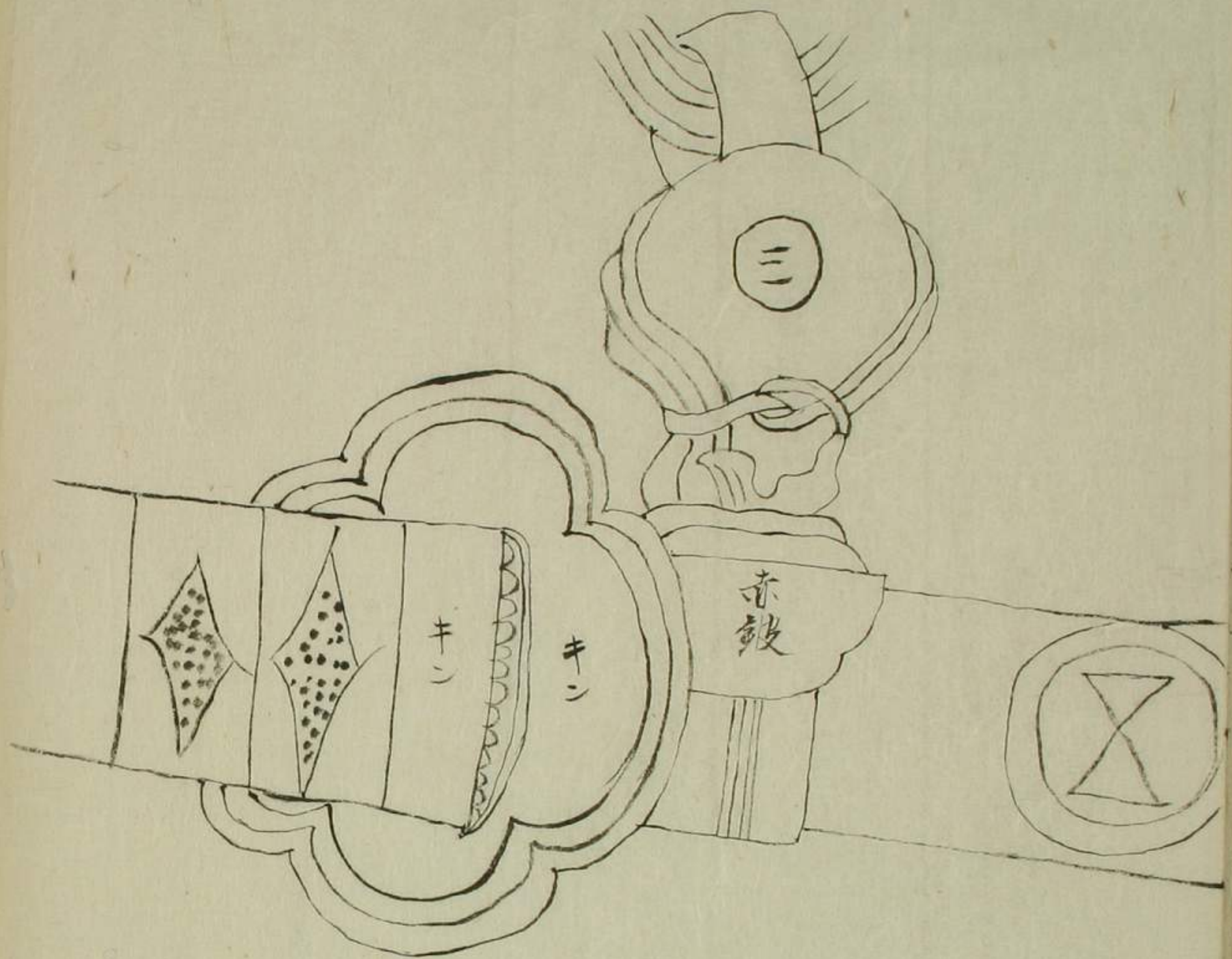
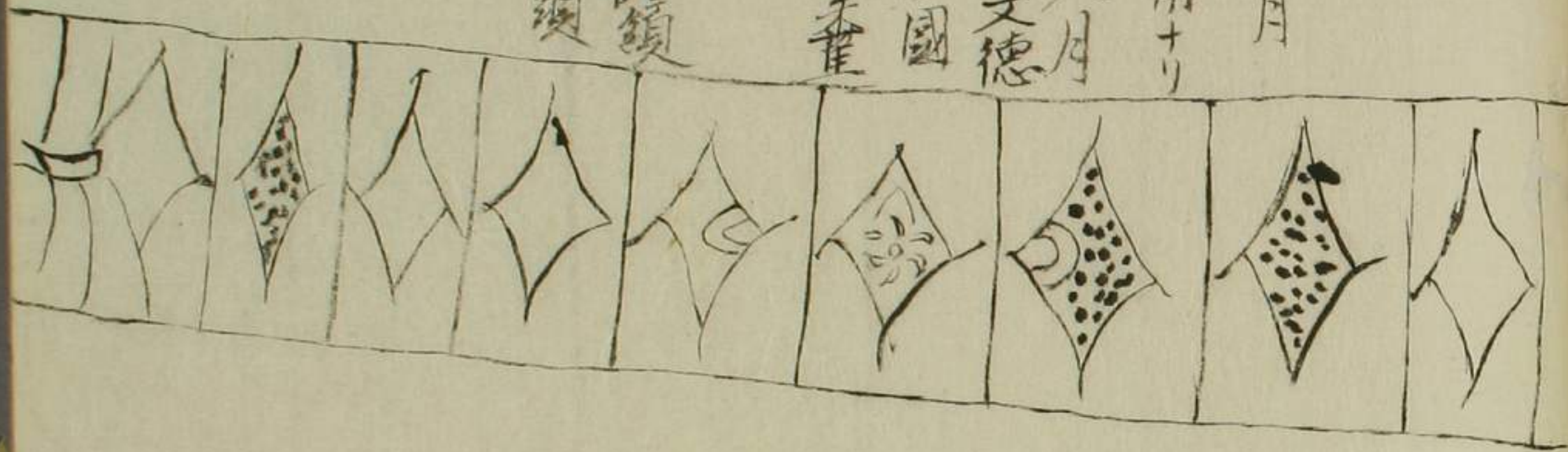


アノ色皮
三千巻



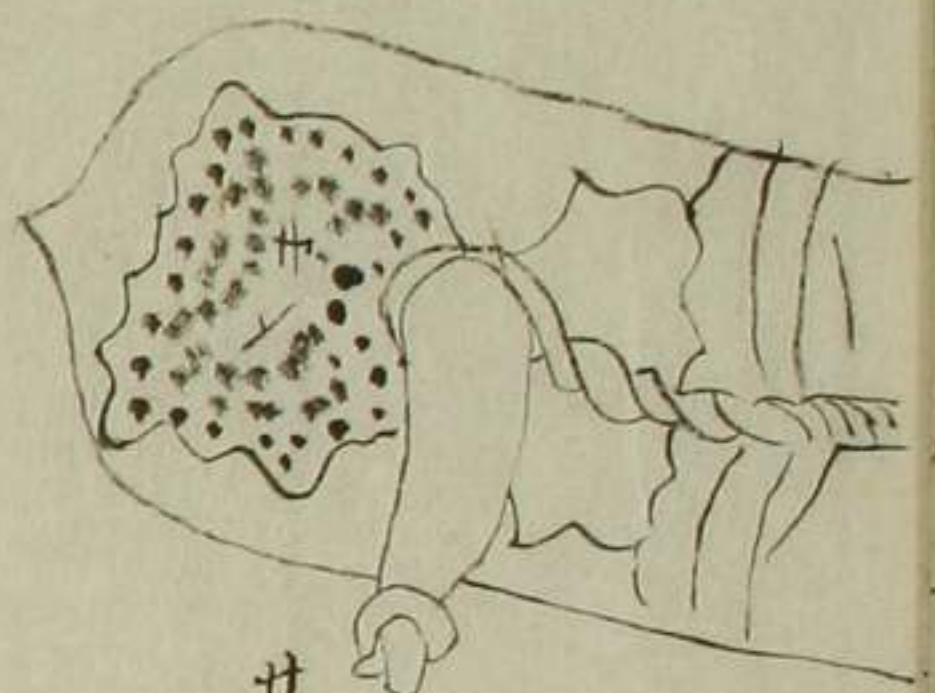
午

日本記 天武天皇十六年十月
丹波國水上郡言牛十二角ナリ
續續日本後記 天長十五年八月
甲辰記伊國言牛一產三頭文德
實錄藤原衡二年八月長門國
言牛產犢一身兩頭武成後朱雀
院長久四年牛產兩頭
天明五乙巳年二月廿四日延路續
西治村百姓何牛一產雙頭
右犢持末官舎



古銅方之馬





サノシロヌリ

朝鮮國言葉

同 椋山硯 日本のヤタテ 画 餅 馮 席ト

筑前國金印

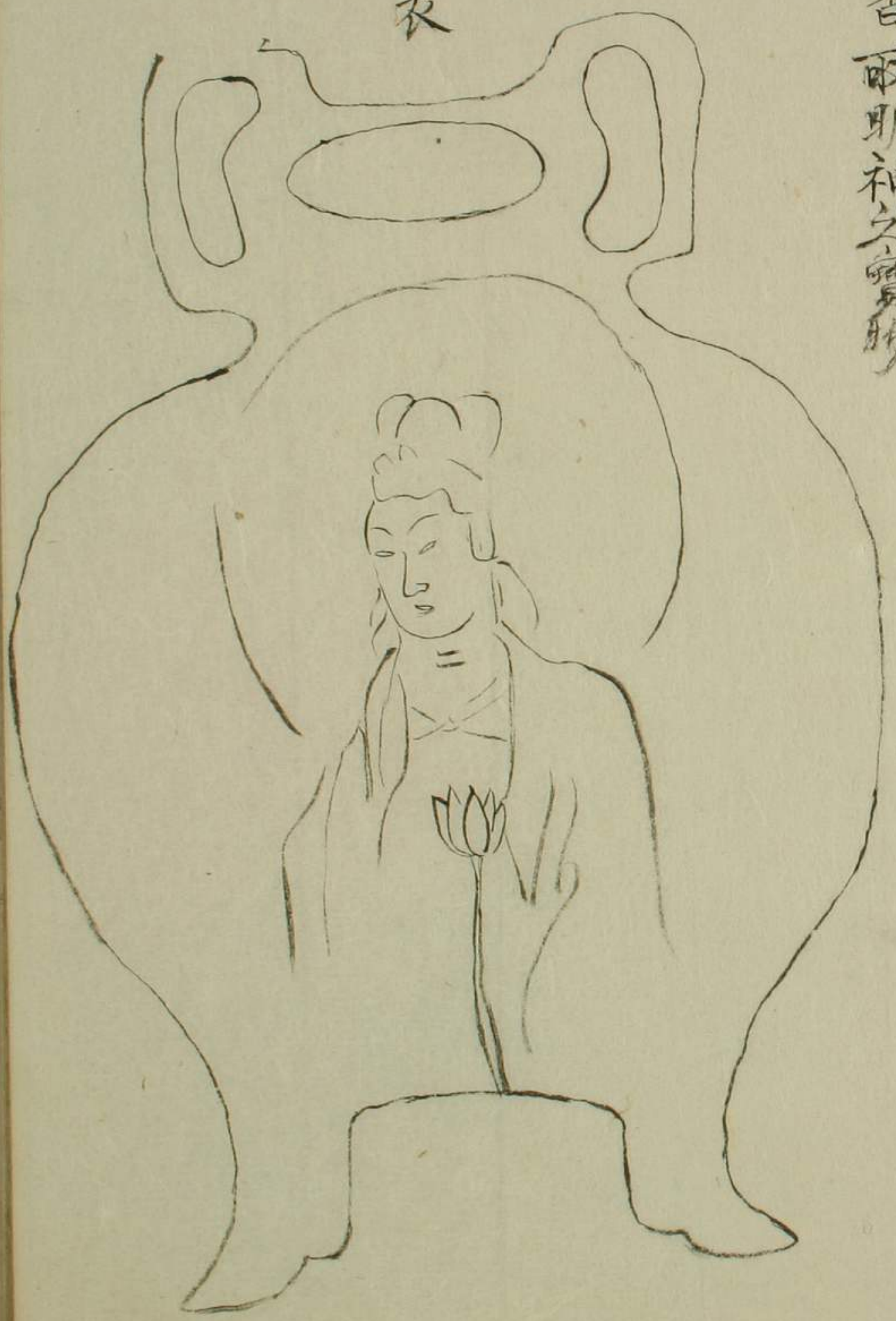
天明四年筑前國箱崎百姓金印之塔出ス大ヤタテノ畧
社之由漢和奴國王文字有二十年社成ニ由

鹿嶋

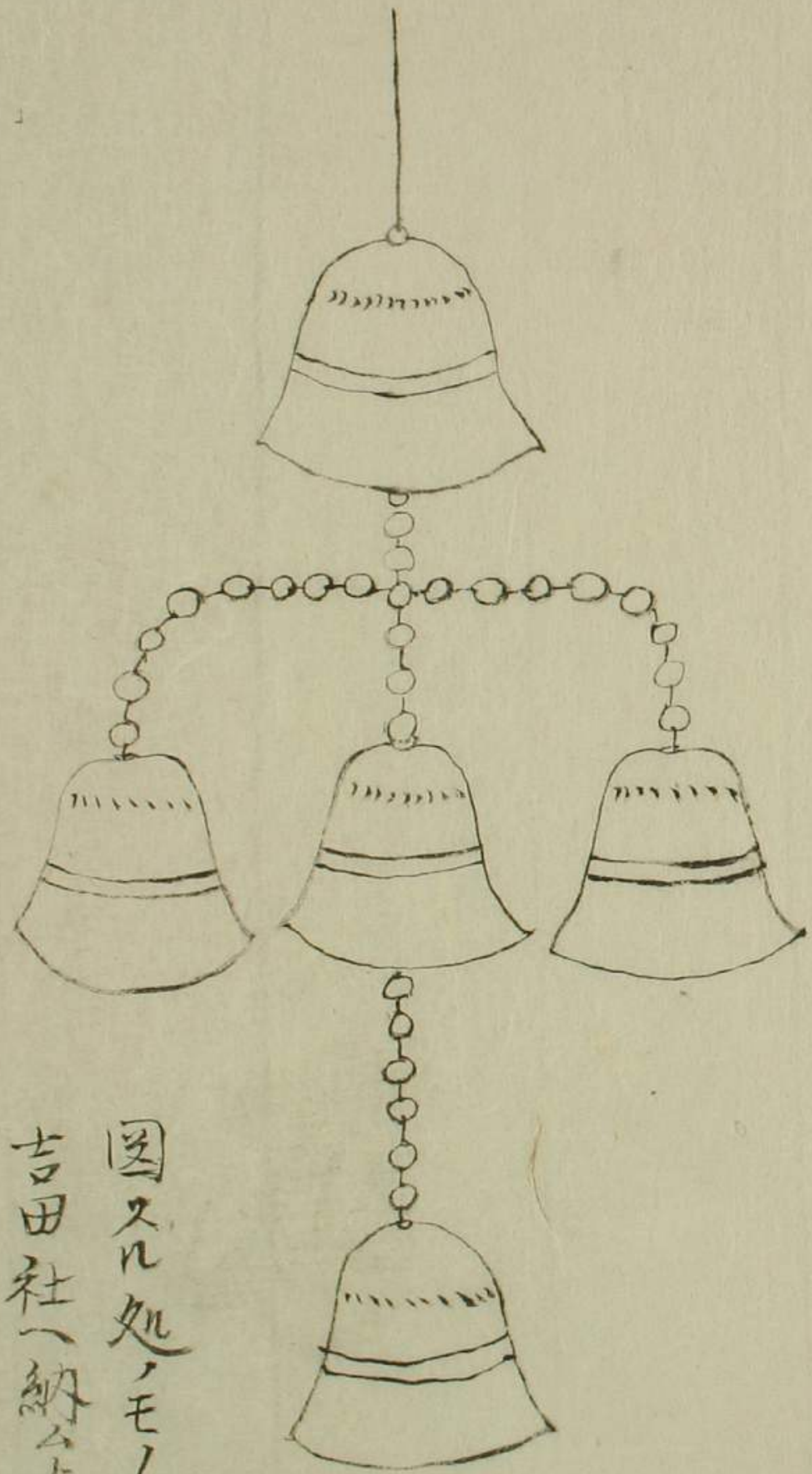
香取明神之寶物

觀音之像ハカノキハ如ク見ユ

表



江州蒲生郡鈴村
高岸八社大明神



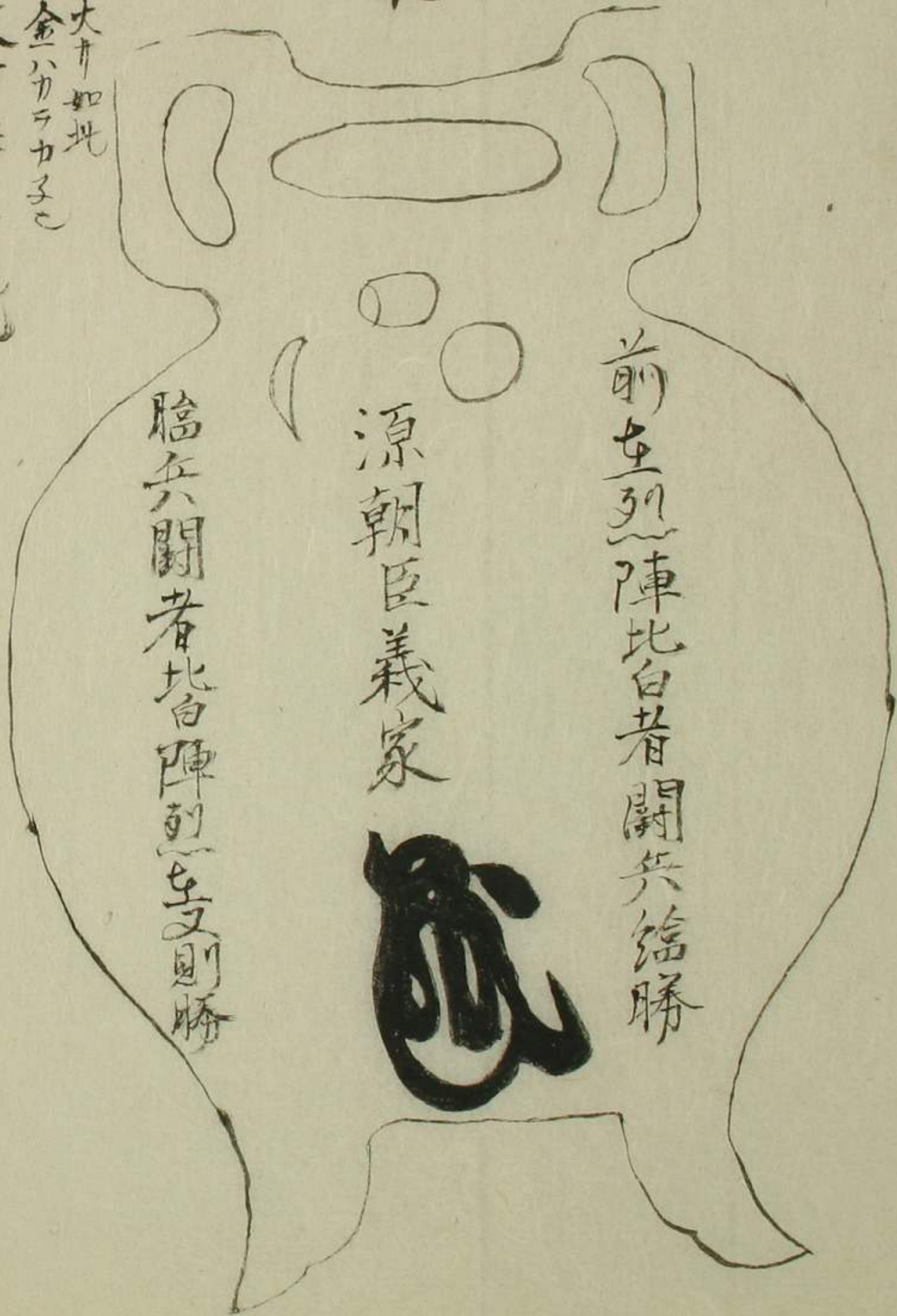
図又凡処ノモノ
吉田社一納公上云

鐸之圖

八幡殿所持之鏡也

大市如此
金ハカラカ子也

衰



臨兵闘者皆陣列在支則勝

源朝臣義家

義家

前在列陣比白者闘兵臨勝

方与集

祭神天目一箇命神宮幽尸之時鐸ヲ作レリト云
旧事紀去今天目一箇命為造雜刀斧及鐵鐸
社記云應仁年中一ノ鐸ヲ掘出ス其圖如右
或云天鈿賣命鑿烏刀之鈴也又云其村往古モ鉄ヲ
掘出シテ林中一ノサウ故ニ鈴村ト云ト云

手ノ長ク短ク不長ク不短クハ何ハカ知ラズ
ハケリト云

天明四年八月上旬至彼地久節寫筆

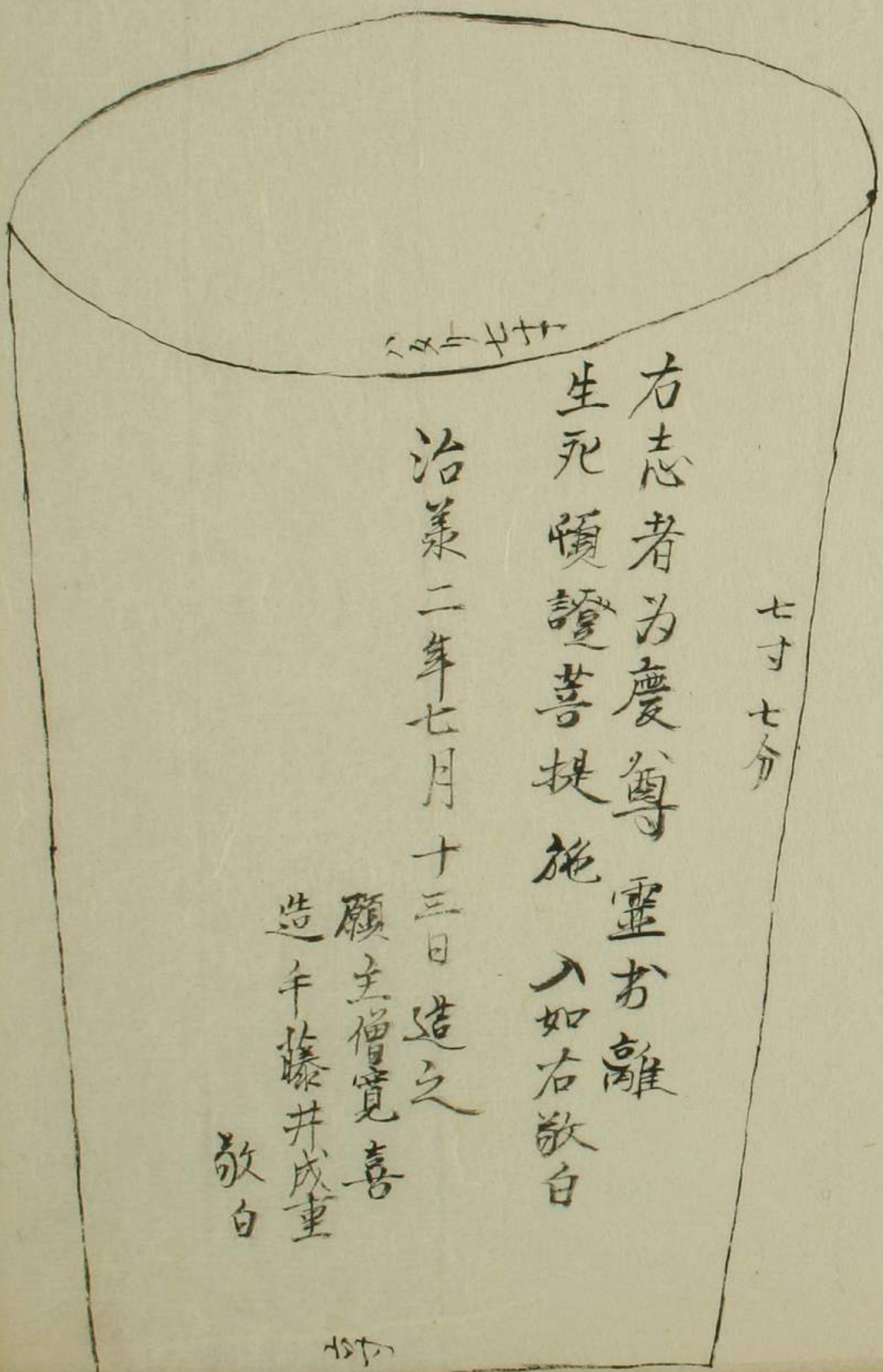
合五年九月上旬寫畢

勤思堂村井敬多藏
渡邊望石

天明五年乙巳十二月廿四日於京出水奧君之御館ニテ寫之望石
世義寺經壺之圖

ニツアリ一ツハ文字ナシ焼モ
又カ一リ

七寸七分

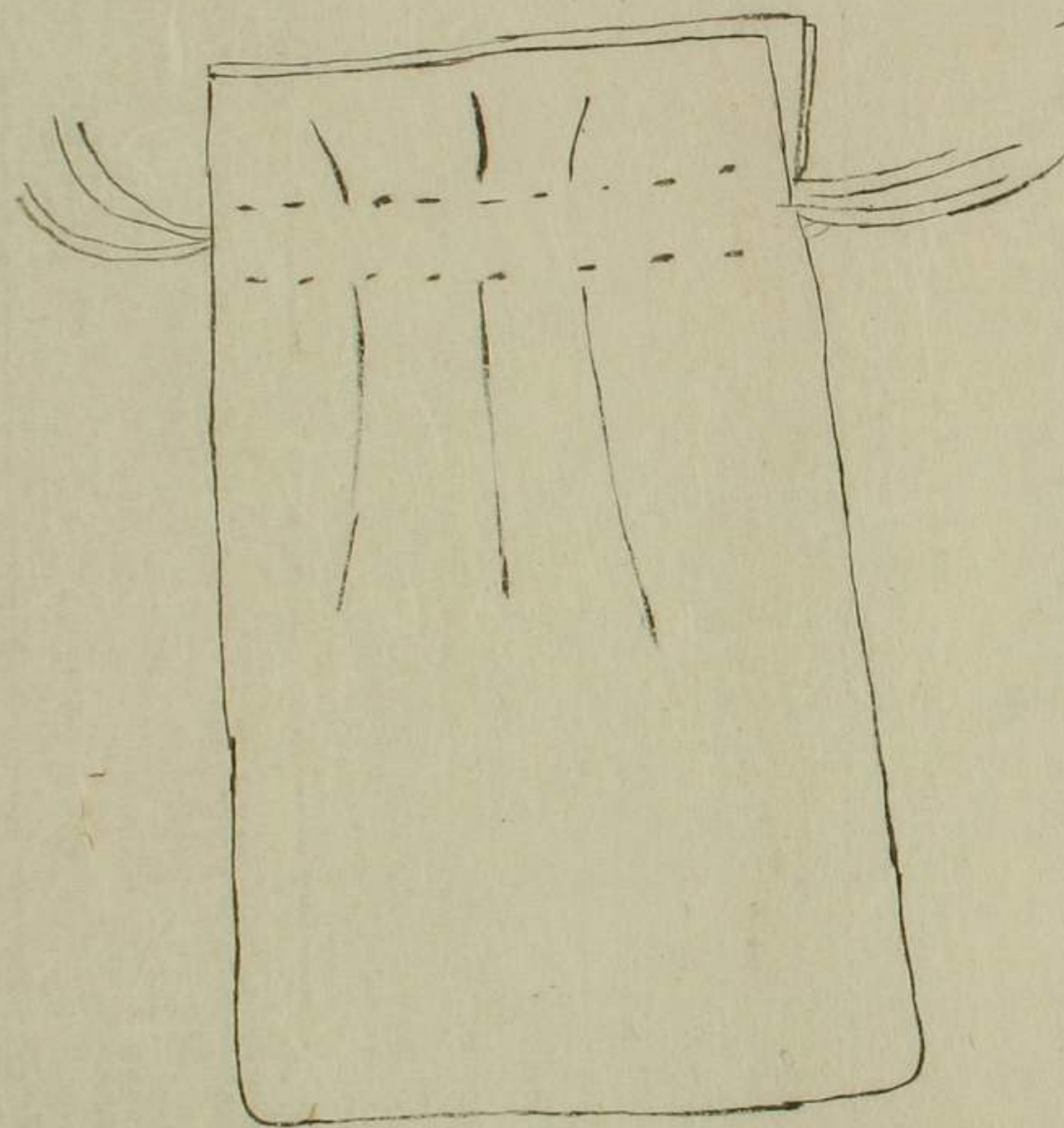


右志者為慶尊靈方離
生死頓證菩提施入如右敬白

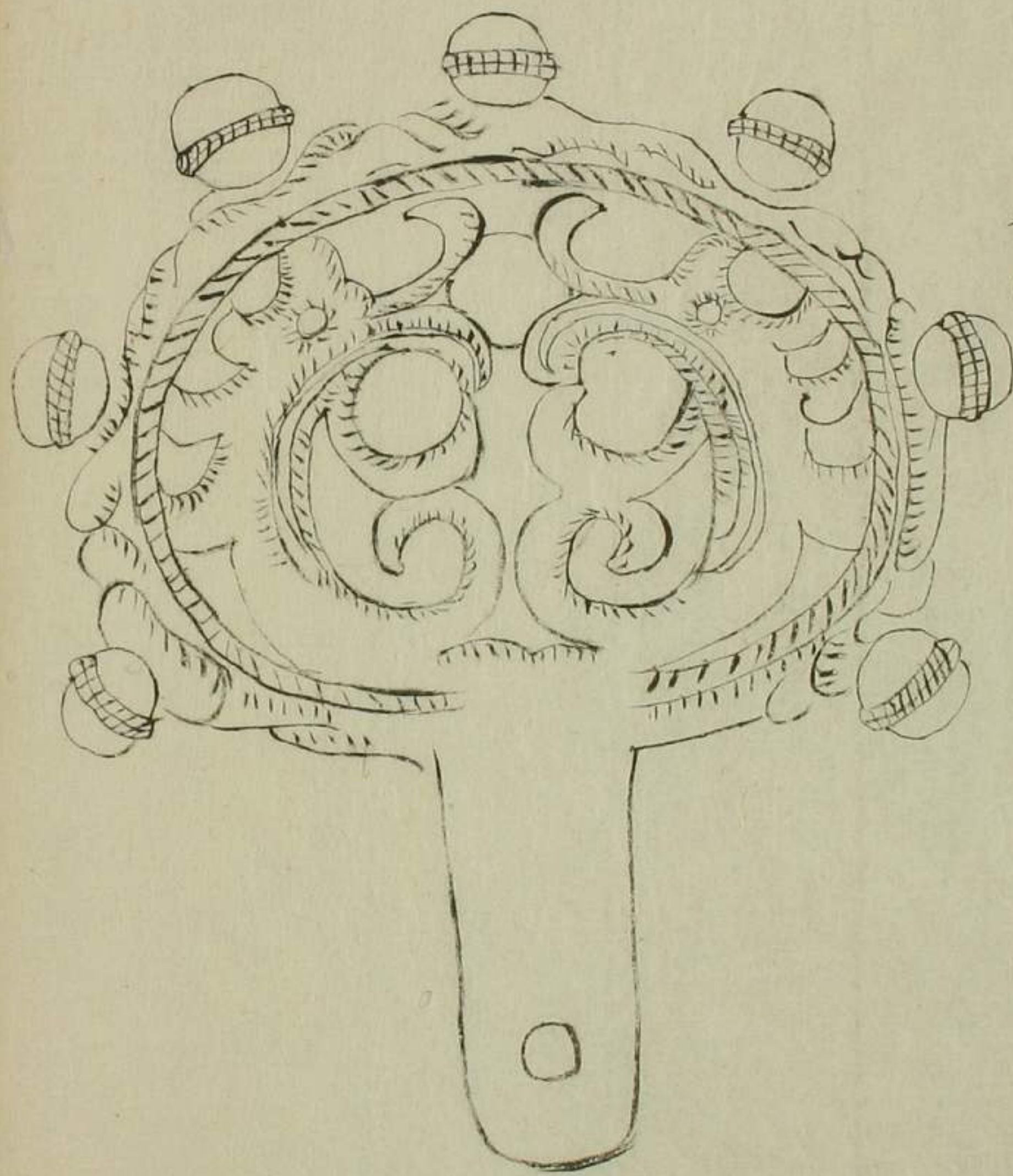
治業二年七月十三日造之

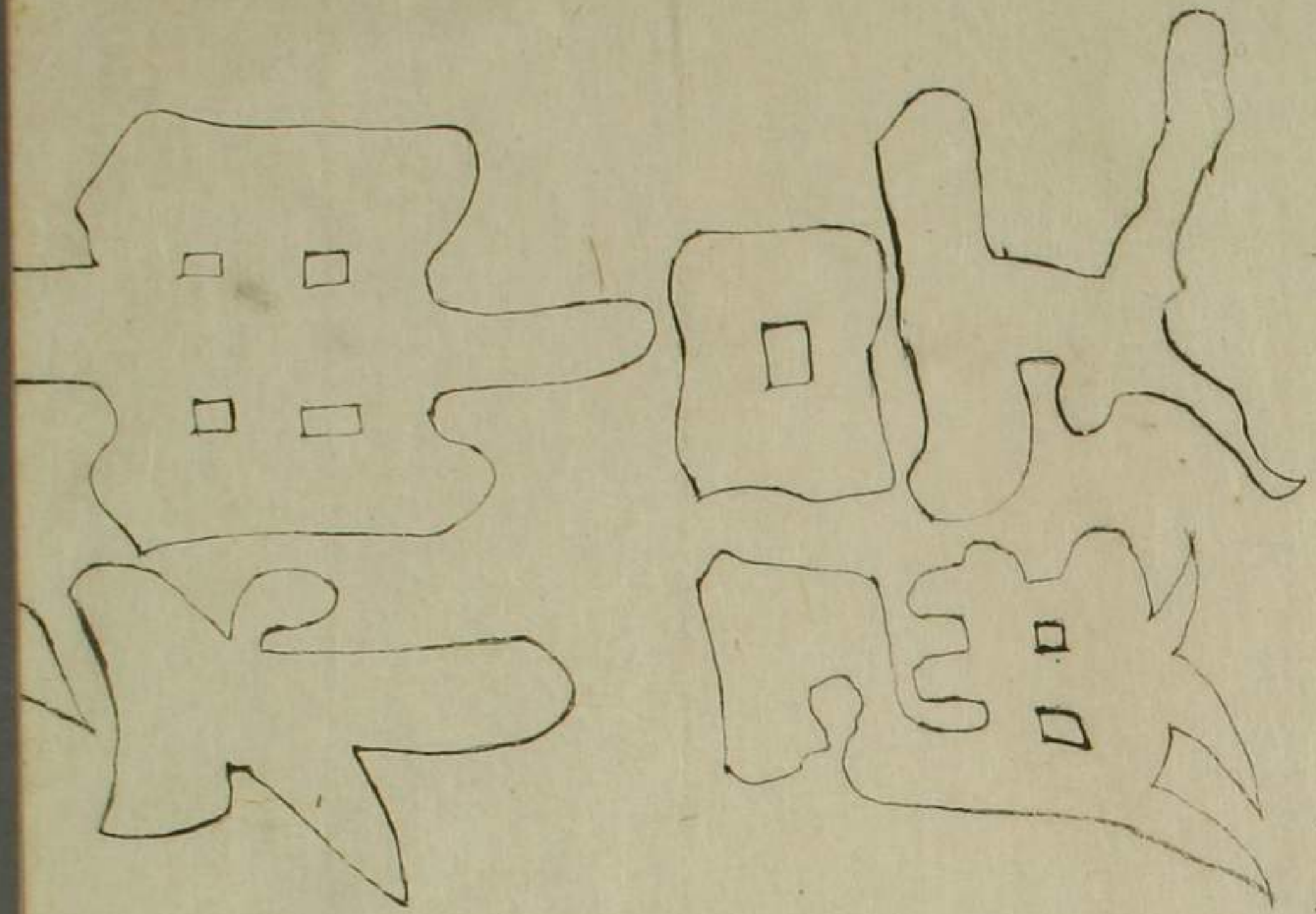
願主僧寬喜
造年藤井成重
敬白

琴挂袋



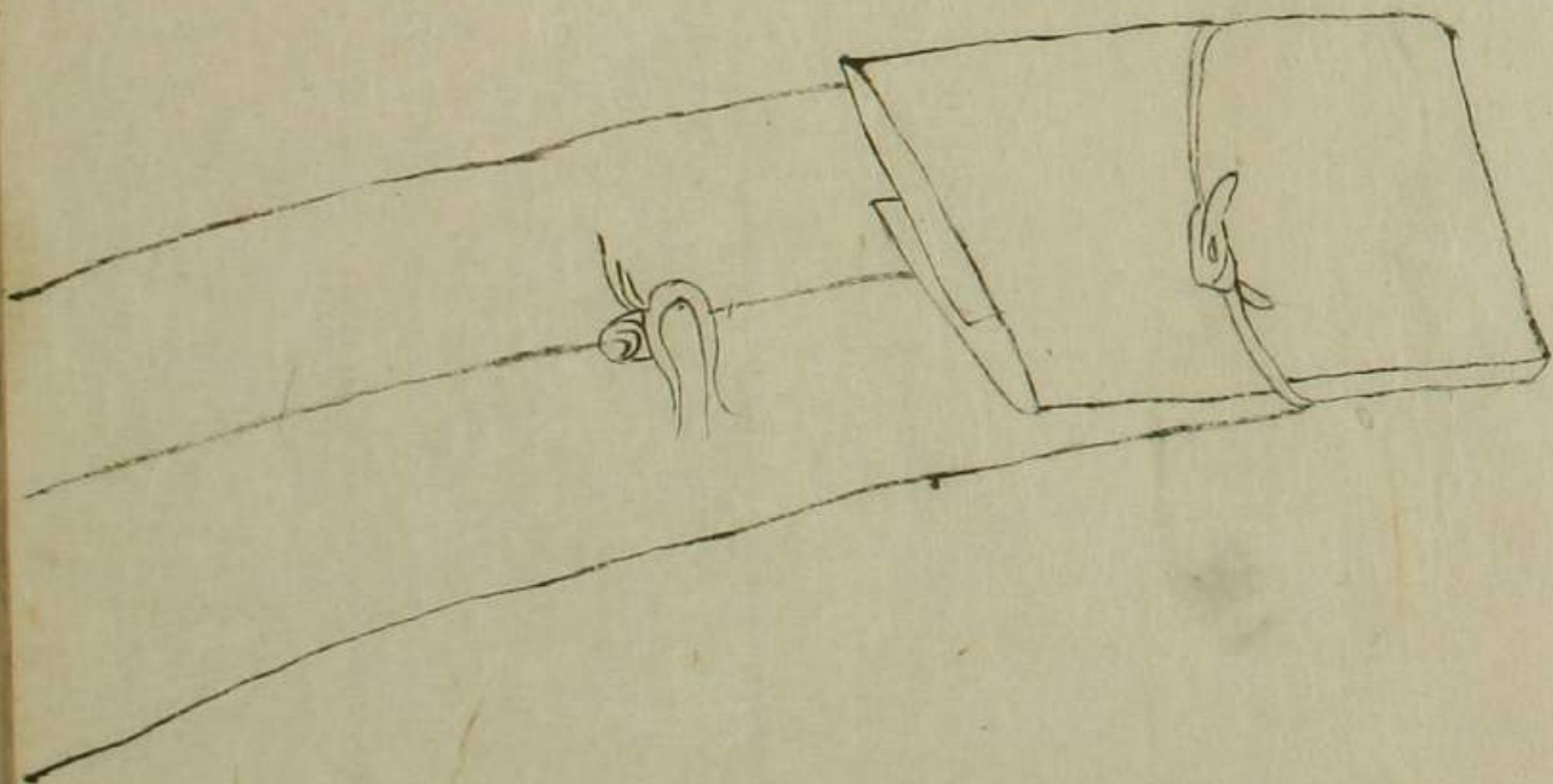
重九拾五文
惣長四寸五分 横四寸一分
惣金焼付 地唐金



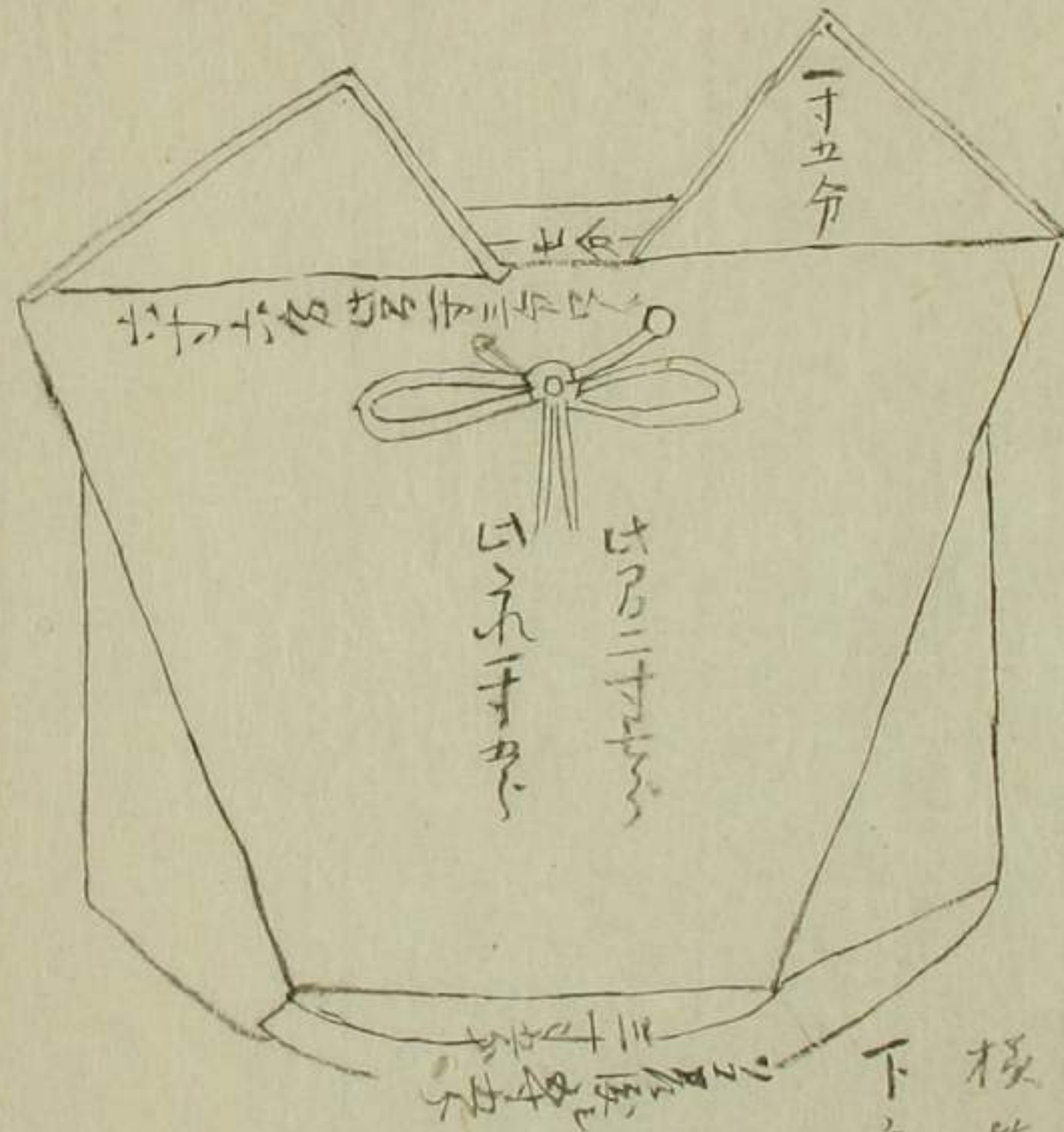


筆袋

後土御門



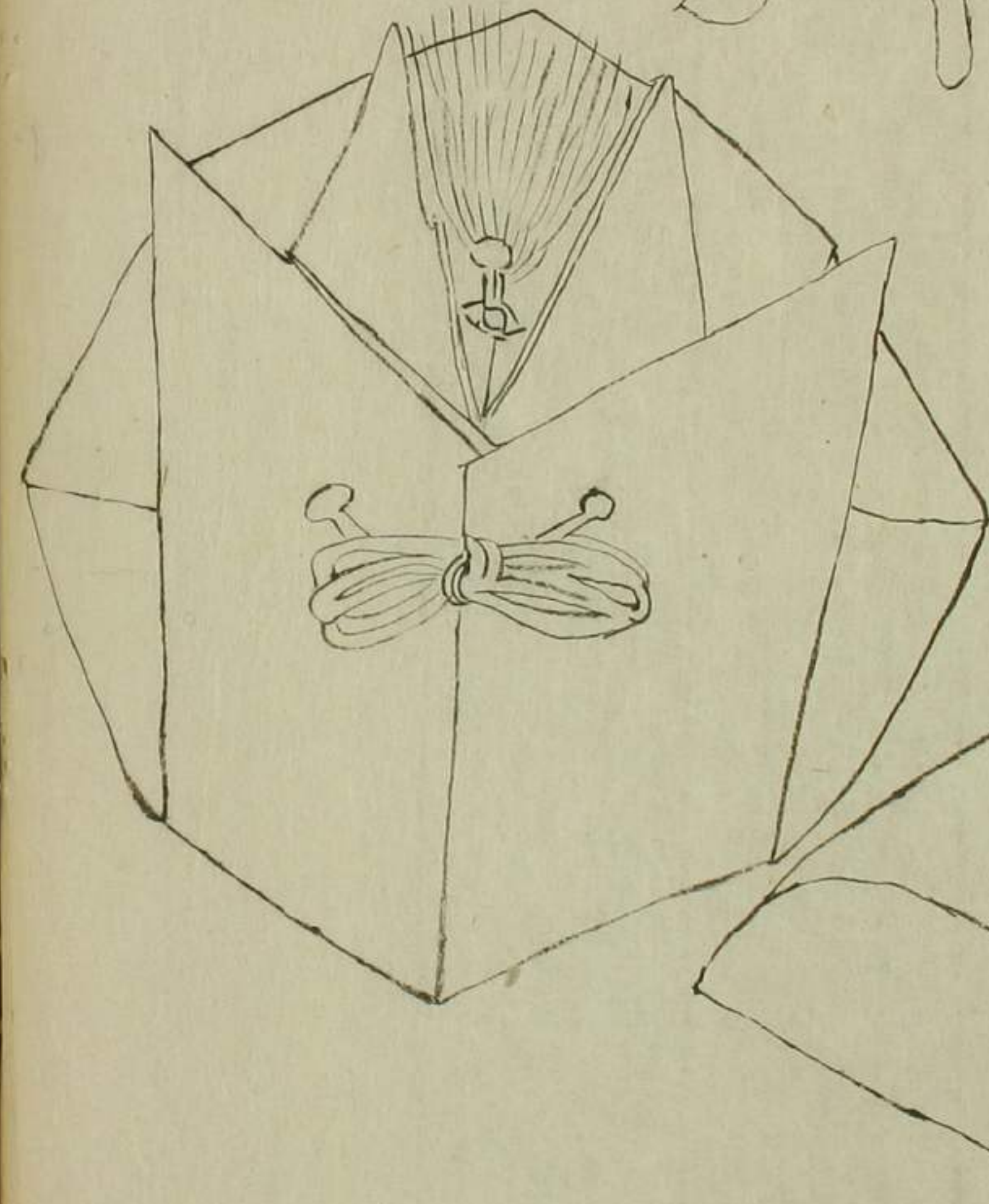
琴柱袋



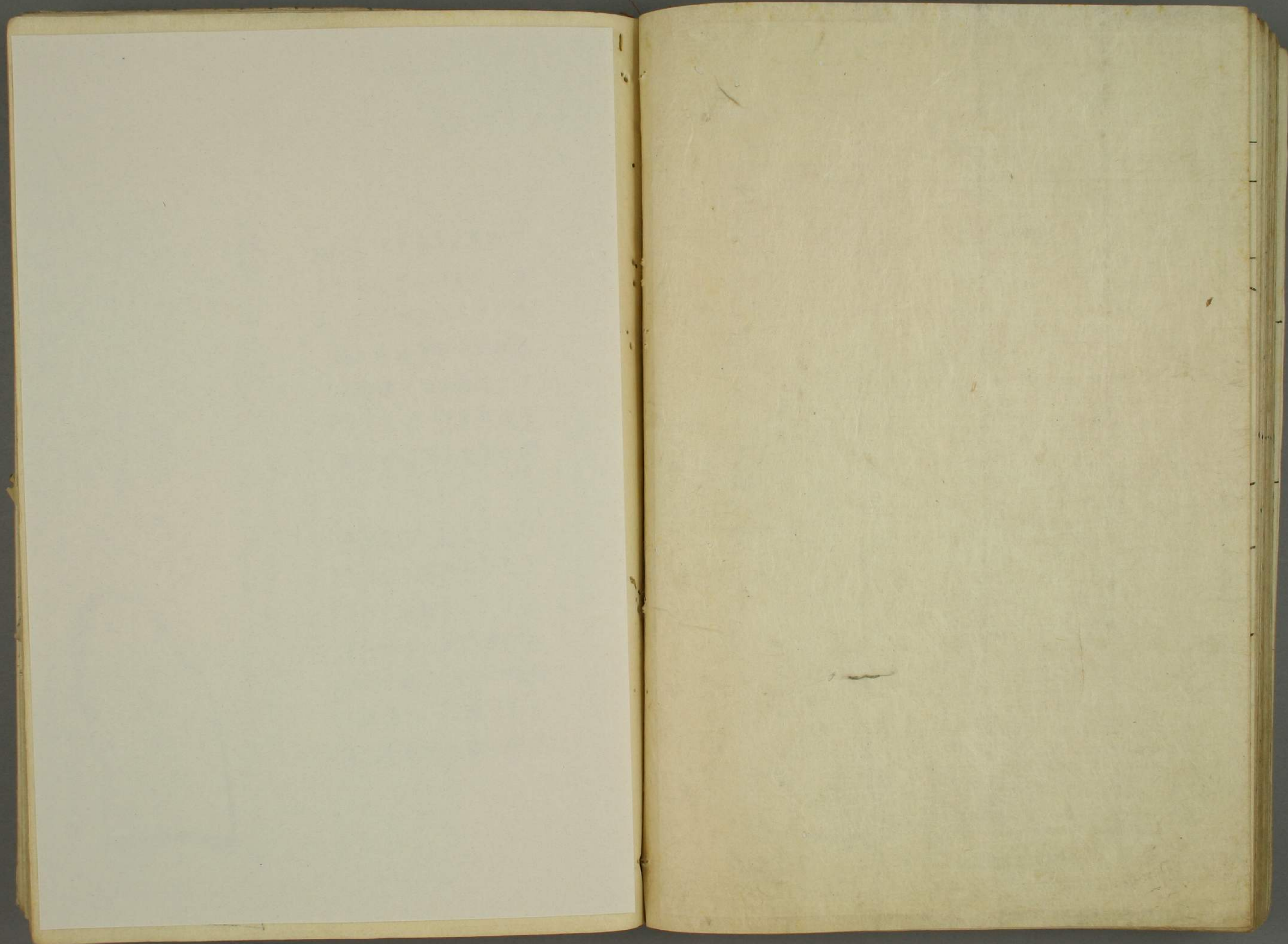
古製ノヨシトテハ其傳々シカラス

按此袋何ヲ以テ製
スルヲシラス 緋或薄
板等ヲ以テ作之反折形
下之圖ヲ以テ考ヘモ

六 琴



琴柱袋



敏達天皇御尊號

上太子領葉室村三有リ
中尾之陵ト稱スルナリ

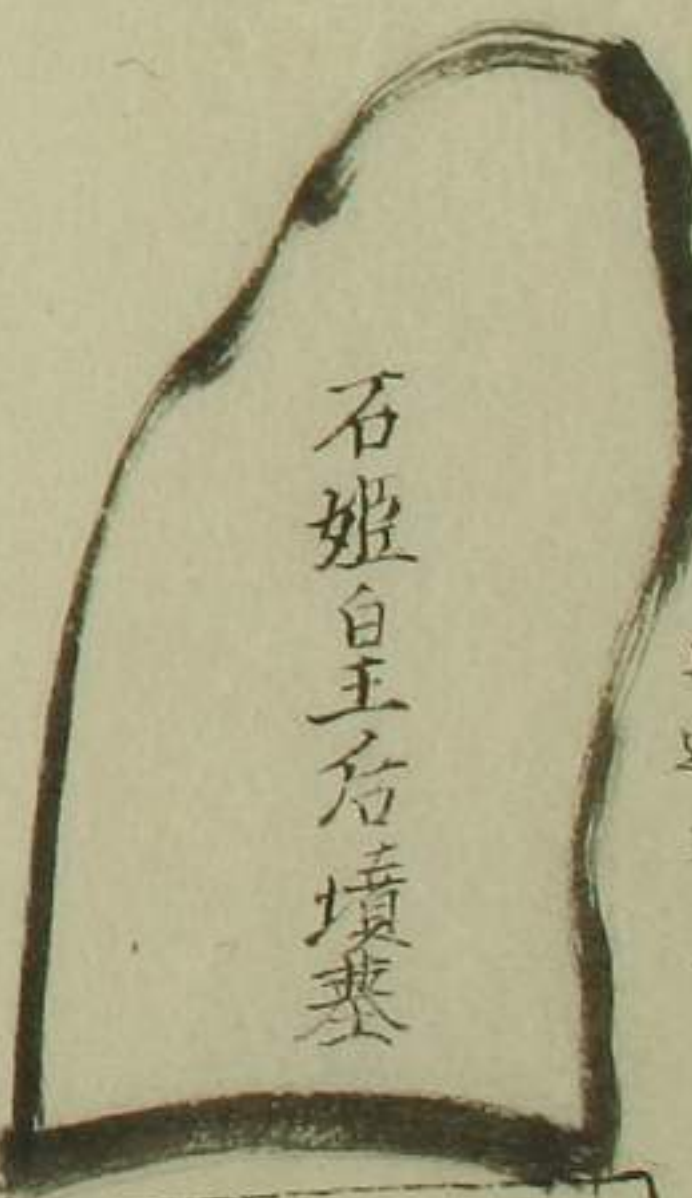
日所。有リ宜化皇女欽明天皇皇后
敏達天皇ノ御母也

推古十四年秋八月朔己亥
日本帝主淳中倉大珠敷天皇 尊

大臣馬子建

廟中二十句碑文

御所。有リ宜化皇女欽明天皇皇后
敏達天皇ノ御母也



石姬皇太后墳墓

碑文曰
大慈大悲本誓願
是身救世觀世音
我身救世觀世音
生身救世觀世音
真如實本一體
片域綠亦已盡
遺留地此廟窟
過去佛法轉趣
一 度參詣離惡趣

慈念眾生如子
誕生於此大興正法
定惠契女大興正法
西現教主彌陀尊
一 體方三問淨身
還母歸西竹血肉
父骨一一生廟三尊
三 乘相應功德地
大 定往生極樂界
决 定往生極樂界

人白王九十六代光嚴院ト是リ奉ル天野山ノ御陵ト云

日本帝主光嚴院

靈尊

甲明天皇之陵 橋豐日天皇 第四子也母ハ 於各云白池邊 大臣是允葉室 癸丑天皇山明 改葬橋豐日	上太子領內春日村 天國津ヲ開テ 天皇信佛之 曾我馬子宿禰 南淵坂田寺ノ 千能名余池之上 陵足也推古ノ 天皇元年九月	用明帝主也 堅鹽媛ト云也 雙槻之宮以 始也時二天皇 千大殿七月葬 天皇於河内 磯長之陵也	廣公之天皇 法ヲ尊神道 ヲ為大臣物部 守屋大連為 守屋大連為 守屋大連為 守屋大連為	欽明之御筆 即位儀般名余 獲得甚薩是也 天皇元年九月
日本之	帝主	尊靈	河内國	磯長

河内國天野山金剛寺三寢具院什物南方記後村上帝御筆也

南朝系傳

後醍醐天皇
人白王九十九代御尊治
後宇多院分三皇子正應元年
十二月二日誕生嘉元二年十一月廿日御元服同日三位
德治三年九月十九日太子立文保二年二月廿六日踐祚御年三十一
同三月御即位延元三年八月十六日山明又吉野如志輪寺三寢奉

尊良親王 一品中督御
世贈從二位皇子

善宮 一品號奧州宮
又号宇津守善宮上云

宗良親王 征夷將軍中督御
母同上号妙法院門跡尊證還俗

與良親王 遠州宮
天北國守善宮

護良親王 征夷大將軍兵部卿初本門跡還俗
号大塔宮貞守善宮兵部卿三位左師親女

隆良親王 征夷將軍母准后親房女
於在龍被誅

世良親王 大宰卿上野大守早世
母宰相實俊女

女

恒良親王 東宮前坊
母河野中將公廉女初侍實門院

成良親王 上野大守
征夷將軍

後村上院 御漢義良母新持實門院阿波中將公廉女
初一品法皇大守兵部卿

忠尊法親王 聖德太子孫相實俊女
初号靜尊

懷良親王 征西征軍式部卿
明史記良懷

大覺寺宮 少國配流流名越

無文和尚 遠州與山法興寺開山也
入唐人

一品公主 北間六人中皇

後龜山院 御諱照成法名金剛心又號小倉殿母嘉吉門院勝子
近衛左大臣蓮宗女

南朝代 北間四又累

長慶院 御諱寬成於山門自害
法名覺理

觀心寺官符曰

寺壹院 左河内國錦部郡石川郡兩郡南山中

合山地千五百町

錦部郡以山中一千町

四至 東限横岑限
西限記伊通川公田

石川郡以南山中五百町

四至 東限國見岑
西限岑

南限上龍
北限石川家井堰限

兼和三年閏三月十三日 官符

高向磨之 碑部郡之入難波之新名是也

難波朝廷刑部尚書大花上國忍之子大寶二年
從四位上政事參議令 慶雲元年中納言任之和銅元年
從三位任攝津大夫任八月薨也

禮一專後寔始 有住寢四降右
 之本佛世是被聖所斯中万臨當
 美尊法未下至以地神更之寺寺
 功率紹資皇山貴哉一異模靈者記
 蓋隆等道地吾勝印之月山先曰
 勇先之宜潛寺地頭山固也師
 猛師計兼術勅神純證嶽達峯法弘
 殺和略知之施秀妙云僅地聲和
 丹尚者此加官御以改厥都業經
 之大仍音藍符願如雲塚下自行
 至阿勤袖上符願如雲塚下自行
 精闡錄朝乘以道斯心三腥表之
 造耶起安密富臻則辨觀念塚連北
 作廟如全之寺義弘觀念塚連北
 之一件之精舍永明天寺成獨谷七
 尊刻精舍永明天寺成獨谷七
 客三祈也格時長良甄為行星

必頌
 補正行書
 十二月一日
 觀心寺
 正行別

馬牙寺
 十月廿六日
 遊覽所房
 補正成書
 正成別

天國也觀
 正氣司人早可乞下知寺家給者依
 正平十五年四月八日
 進上
 東寺長者信正所房
 時長頭首津惠

批聖化五初願長日法事
 正平十五年二月十八日
 觀心寺
 法中修尊

也柳對伽藍者當京師之南峙王畿之內於此
地安置特寶金剛之靈像奉所金輪聖主寶祚
之於金堂前有一石座是先師在日之時拜堂
禮佛之所也和尚滅後之今定為日之影向
之禮石者梨帝母之事柳當社神體者昆首羯
一之鐫守詞龍相傳之形像也先師和尙大元
之彫刻之龍相傳之形像也先師和尙大元
年歸朝之日奉納之由尚城歸朝奇異思尋
式訪傳末鎮守之因由尚城歸朝奇異思尋
浪之乳水涌地海上路中起井是役尋
彼源山名爲巖洞有卓之阿伽井是役尋
卜斯地而今爲除災與樂之鎮得靈所之故
一人之福田而巳爲除災與樂之鎮得靈所之故
尚穿社頭東南有一阿伽井是號獨古玉井和
華沈之三玉垢須史持之類必六情之深
可不信矣少之族不可疑甚深切佛化奇持不
傳來也仍爲佛法護持僧寶不所安置當伽
一藍也性塔事秘密真言道野教代祖兼靈寶也
深密子細不能洩紙夫道野教代祖兼靈寶也
一和程尚以真金自治鑄七體尊客報酬四恩廣

德無二懇志巧妙造作也密納寶庫不可出外
戶矢勤錄大慨如件
右兼和四年三月三日

太上天皇奎璽有之

真雅
實慧
以寺記弘法大師の上是真雅實慧兩
上人の勸錄ニシテ後小松院の
宸翰有り則仰書判あり

此一書俗美真書云云被深
匪事後後代龜鏡殆不撤明時風流也平
慮承矣已估洗中辨

関白經嗣 判

心儀書
親心寺住侶等申當寺在至織事申狀書具謹
進上之細載狀免以此方可者行披多務作
急進三月三日
左衛門尉正侍判

進上 御奉行所

正時書
河内國田左内岩願壹所親心寺地領得分任
先例可被被管領也仍犯違如件

正平五年四月十三日

二時 別

觀心寺の傍の中

此外南朝國室及楠氏高山等書經堂庫小満里後南あり川く
ありはれをくくありあり其一二と岸仔而已

坊中植本院器品

茶壺

二銘 特實 十六枚
豊臣大國 御所持

太刀

二腰 銘一、行平一、正宗 楠公所持
行平ハ 南朝天子より相預

坊中中院什器

坊舎に楠氏一族の宿所也
昔に後醍醐天皇

青貝糸鞍

緋織腹巻

何れも楠公所持當時に其跡を今も古
各物多し

觀心寺西門再興ハ 江州志賀郡膳所城主本多後次公也

楠正成誕生所 水分村領内山之井ト云所之水分神社に成意方之
三斗り有り四圃之内大の軍社有り 今方三圃の古社とのこり

和雨池 善志村に有 慶廿九百流 日本記に徳天白王十三年六月十日迄
石橋當郡一石川約年不村にあり平石方す 東、登り事十八丁葛城山頂

東之方有り 河内國石和國國界も東に下り下り休哉呼ヲカキ
此の傍形ハ又月ハ古叢而幅三人余長廿八尺余西南之方ありけり

昔役行者が葛城山を全之御殿へ通し流しを石橋と成候也
是ヲ葛城ノ一言主カキトシト云ク役行者カキトシト云ク
是也 坊中本願寺ハ後公カキトシ一言主ト呼縛而深谷ニ押籠置候也
石不動石橋之上吾等斗り有り 軒立石之井或斗り石橋分山下四町有り
鍋釜岩斗りト形ヲ以テ名付之是も石橋分西出可也 胎内湖同古殿
而頭をわく山の中ありは子而人足と云々西本願寺カキトシト云ク
南に金剛山之以多近き是也 東に方如くは山三峰之形成纏向
樽原天之吾久山ありありありあり西之方ハ河内之國中接陽の
村色花江十思の海ハ浦あり初ハ昔を里ハ尾崎流ハ浦あり
河内一國の風景也

神下山高貴寺 平石村に有り 宗旨ハ云々云々

後鳥羽院
之塔金堂者有り
十三重之石之塔也



櫻町院
 桃園院
 後鳥羽院
 後桃園院
 開明門院
 神牌

弘法大師 辛酉之對室之
 山中入お花之給ヲ重徳王
 尚山々下下り東山々下り地居也
 今之東山々下り師高貴徳王意隨
 其の跡を刻テ高貴寺ト改メテ
 以舎性ニ於テ密法修練之時法
 の以テ佛法傳ト云々の變給テ
 待と傳り也

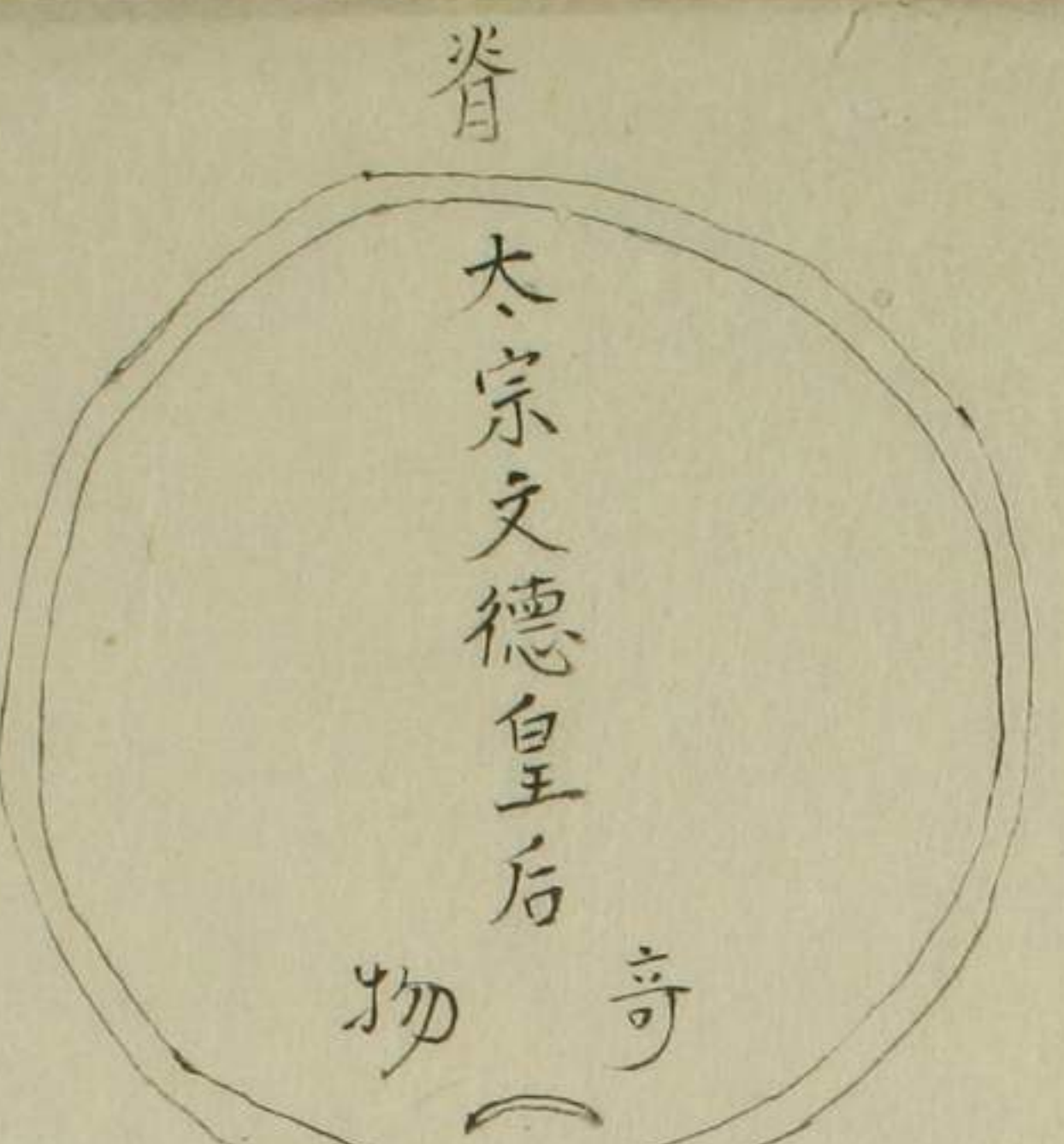
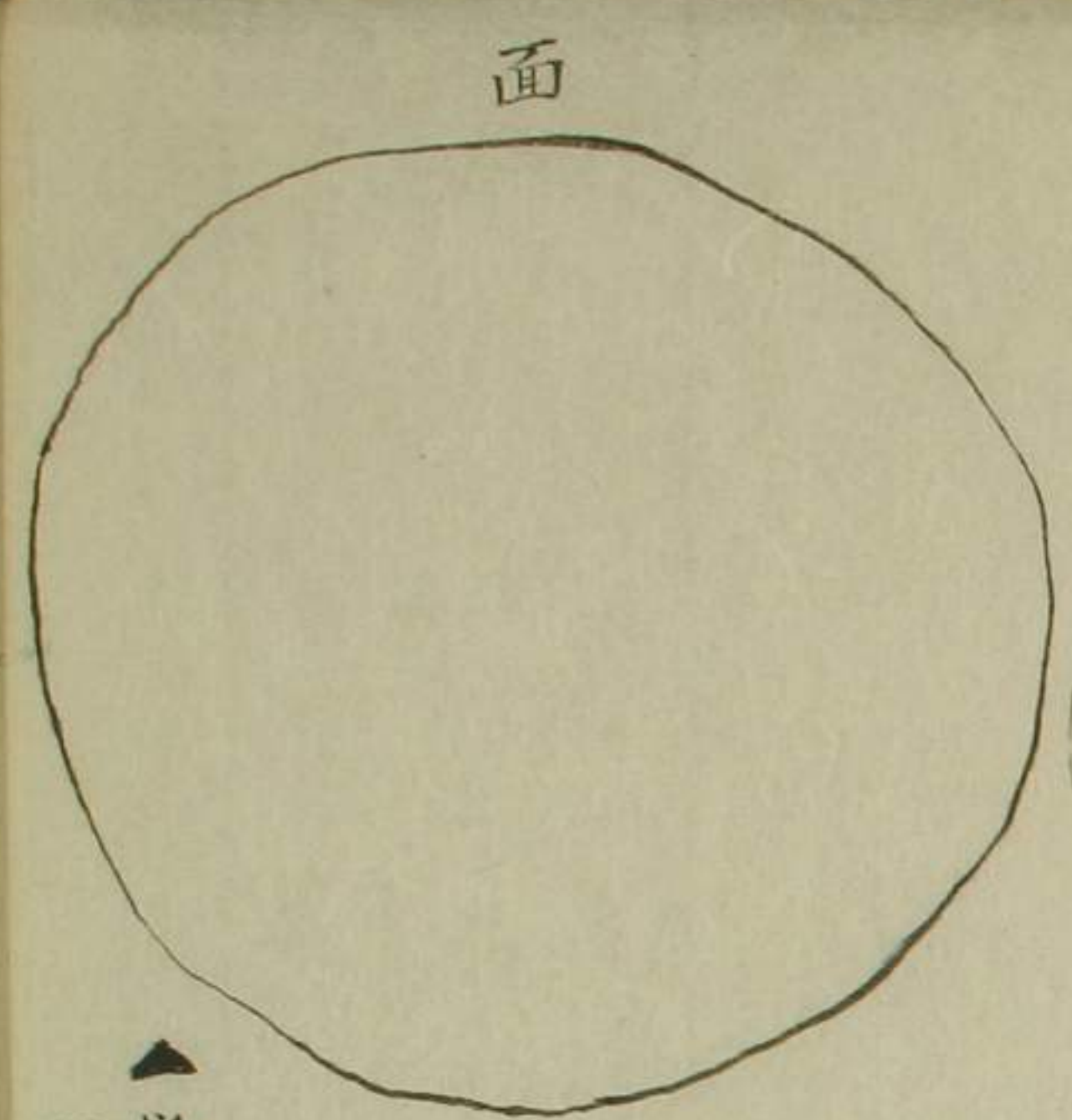
其文曰ク

閑林獨坐草堂曉三寶聲聞
 一鳥有聲人有心聲、雲水俱
 了、空海

平石家重品之唐鏡
 同平石古城之来由

平石在田門耐為也、平石村、古唐傳云云、方寸可之、版、而僧正四位
 城、平石村、古唐傳云云、方寸可之、版、而僧正四位
 平石在田門耐為也、平石村、古唐傳云云、方寸可之、版、而僧正四位
 城、平石村、古唐傳云云、方寸可之、版、而僧正四位
 平石在田門耐為也、平石村、古唐傳云云、方寸可之、版、而僧正四位
 城、平石村、古唐傳云云、方寸可之、版、而僧正四位

堂之関、平石村、古唐傳云云、方寸可之、版、而僧正四位
 明玉集、我思心、平石村、古唐傳云云、方寸可之、版、而僧正四位



天長五年天下大カシス淳和帝の詔ヲ請テ六月朔ヨリ一七の石
 祈禱之沙汰ニ給ニ念善女龍王大竜神現而之雨カヅク
 仁和二年四月十四日管相無道ノ事致給時尚社ニ奉祀之神童
 一人社壇ニ現ル寶劍ヲ授給テ今無業ノ事ナリ
 後冷泉院之御宇示現者テ御宇前ノ宮殿ヲ南ニ移シテ所ナリ
 毎年十二月吉日と云レテ諸乃山陵口御宇前ノ宮殿ヲ奉テ
 延喜式公事根元等云レテナリ
 新小建宮ニ神領方四指町ノ定給也北條大代足利十五代お徳
 五年子夏廿日征次大將軍大長兼右近衛右衛門足利義教公
 年之而画ハ士佐ノ覺光信之天正の比平之信長四十町之御領志
 山年貞守ノ御領ナリ今ノ境内方五所ノ代ノ將軍御朱印之社領
 ナリ

興言田宮神寶

當社傳記 銅書足利六代ノ軍 普光院義教公爲ニ云佐ノ覺光信
 人五百十三代帝 後西院 御時内裏ニ於テ散覽御終補ノ命セラレナリ
 寛文六年ノ軍 坂の上覺之 後板倉重知侯台命ヲ蒙リ 別卷 狩野探幽 賦ニ

画書セ給之鳳冠

長刀 日御 奇物 三條ノ 古物 宗廟ノ 他ナリ 神馬鞍 御宇

御弓御矢御釵御鐙 玳瑁琵琶神鏡 靴子 以上從古ノ御物ナリ

太刀 粟田口 越馬 利釵 大原 納曾利面 御宇 大大教庭 幡龍頭

足利十代 義植公 御書狀 數通 豐后 秀吉公 御下 知快 御

右永年 八月十四日 山姥面 日公 散午 二舞 面 貴徳 一面 眞

雲月花一軸 御宇 光公 退宿徳 四面 内ニ 律師 海真 他 陵王 一面

信美山 天童 一面 勸進 僧 退宿徳 四面 内ニ 律師 海真 他 陵王 一面

行圓之冠 城樂 一面 眞徳 公羽 面乙 御前面 三日月 面 眞徳 公羽

退走徳 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽

眞身繪 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽

明相國 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽

應神 天皇 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽

号 明花生 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽

号 屈輪 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽

揚茂 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽 眞徳 公羽

大自在王菩薩影 靈海自由佛舍利 青色一粒八祖相傳 弘法大師當山納之 五結三結

獨結 獨浮壇金如意輪 此等

盤着經 結紙金泥法華經 天高為受深明王 弘法大師不動明王 靈

三尊種子曼陀羅 中乃所攝也 西曼陀羅 釋迦羅漢 靈

自運 涅槃後 弘法大師影 真如法親王 袈裟衣 鳥屋城主

多摩之奥院寶高自在王菩薩影 佛舍利一粒 新

十六善神 弘法大師 與正菩薩影 十六羅漢 教也 書翰二通

尊氏公御駒塚 若乃神馬也 小野道風故居 不動石の 與田 田

足利之河内守松浦入道 定 居 南朝 補正義 也 弘法大師 是也 弘法

向原山西琳寺 古寺村 者 初 弘法大師 弘法大師 弘法大師

本尊釋迦佛 弘法大師 弘法大師 弘法大師

作高古 弘法大師 弘法大師 弘法大師

監真和尚安 弘法大師 弘法大師 弘法大師

弘安四年乃大政官 弘法大師 弘法大師 弘法大師

出 弘法大師 弘法大師 弘法大師

十六山金剛輔寺 弘法大師 弘法大師 弘法大師

本尊釋迦佛 弘法大師 弘法大師 弘法大師

十二面觀世音 弘法大師 弘法大師 弘法大師

楠正成塔 弘法大師 弘法大師 弘法大師

一 弘法大師 弘法大師 弘法大師

別 弘法大師 弘法大師 弘法大師

不 弘法大師 弘法大師 弘法大師

城外 弘法大師 弘法大師 弘法大師

文明 弘法大師 弘法大師 弘法大師

御 弘法大師 弘法大師 弘法大師

為 弘法大師 弘法大師 弘法大師

中 弘法大師 弘法大師 弘法大師

以 弘法大師 弘法大師 弘法大師

者 弘法大師 弘法大師 弘法大師

共 弘法大師 弘法大師 弘法大師

同 弘法大師 弘法大師 弘法大師

為 弘法大師 弘法大師 弘法大師

者 弘法大師 弘法大師 弘法大師

共 弘法大師 弘法大師 弘法大師

同 弘法大師 弘法大師 弘法大師

有難くはる程流る

七月三日

安土院才丈

お燈

白毫 然

日谷 壺井 八幡宮 例祭 之内 三石 放火 會 八月 十九日 本社 三座 仲長 天白王 神后 皇切

日谷 壺井 八幡宮 例祭 之内 三石 放火 會 八月 十九日 本社 三座 仲長 天白王 神后 皇切

日谷 壺井 八幡宮 例祭 之内 三石 放火 會 八月 十九日 本社 三座 仲長 天白王 神后 皇切

日谷 壺井 八幡宮 例祭 之内 三石 放火 會 八月 十九日 本社 三座 仲長 天白王 神后 皇切

日谷 壺井 八幡宮 例祭 之内 三石 放火 會 八月 十九日 本社 三座 仲長 天白王 神后 皇切

諸軍の... 壺井之神寶

無指鎧 九木寺

天光九太刀 初棟之鎧

新羅三郎 初棟之鎧

同輪旨數通 信村上 天皇 輪旨 楠家 菊水 旗 同太刀

石丸山通寶 寶土寺

常憲殿 院御 高侍 觀立 百葉

頼義公 頼朝公 頼信公 頼朝公 頼信公

諸舍也 長子 頼義公 相諱 而 安土院 才丈

年也其谷光明サセリ養義公再諡大慈之靈為一之又一則長久四年九月威得シ城中一宇精舎ヲ立テ通法寺ト號又北所ニ於テ八幡郎義家公賀茂治郎新羅三神ヲ奉安ニ生誕有期其後平相圖人清盛卿世出テ源家衰廢而只草菴ニ大慈之尊像ニセリヲ年ヲ八元錄十三年辰之春 大樹常憲院敎尊君 台命ヲ下而今之如ク建立ニ及ビ諸堂新造有テ 源家之宗廟ト也
 五午山安福寺 五午村ニ在リ 本尊阿彌陀佛 阿彌陀佛 他長サ丈六之 眼士球波ニテモ有リ
 南眼尾州公神碑 ヲ安置ス

瑞龍院敎二品前亞相天蓮社頌譽源正大居士

御二代 尾張大納言先友郷也

善山元ハ古寺ヲ行基大弁ノ草創之中興阿儀大和尚ニ
 善州の産而里見義勝ト云婦ヲ賜國皇女ニ圍居ハ元和
 元年四月泉及櫻井ニ移死又國皇女ノ母ハ紀及難智ノ故主
 鈴木源市ハ娘也寛文年中此地ニ阿儀未テ寺ヲ創ル
 尾州公信作有テ寺田ヲ并附有テ代々御菩提所ト也

七里渡古名ハ間遠ニ渡リ天武天皇尾州勢田遷幸之時此渡
 海長キヨリ間遠故ト云々 此所の名之
 古城跡是ヲ柳乃城ト云 此所の名之
 西富田三光寺之時田相模守墓有テ女治三年一院御領テ勢田
 ハ其時守護人也 訪諏之神社 此所の名之 長田川 此所の名之
 赤坂家重寶田原左大臣乃 此所の名之
 後花園院勅願所 北曾大納言光雅公建立 神戶 此所の名之
 金井林光寺 此所の名之 御願所 淡海公天平勝室年中建立ナリ
 白子觀音 此所の名之 聖武天皇御願所 淡海公天平勝室年中建立ナリ
 不斷橋 此所の名之 聖武天皇御願所 淡海公天平勝室年中建立ナリ
 所立所 此所の名之 聖武天皇御願所 淡海公天平勝室年中建立ナリ
 筆所 此所の名之 聖武天皇御願所 淡海公天平勝室年中建立ナリ
 塔世山四天王寺又護國殿ト云 此所の名之 本尊大日如來左右ニハ
 阿彌陀釋迦四天王太子堂續日本記 聖武天皇御願所 淡海公天平勝室年中建立ナリ
 之勅ヲ下給 就中此寺帝都近キ 賴先達諸國建云此寺早傳

上大宮之方也曰景行天皇廿五年...

白王大神へ系スル足... 九月廿一日... 天皇二十五年... 御女祥子内親王...

ツギ九日阿湯宮... 大佛... 有尔... 豐受... 行宮... 延曆十六年八月三日... 移此時水難頼... 奉スル也其内一家上田久夫...

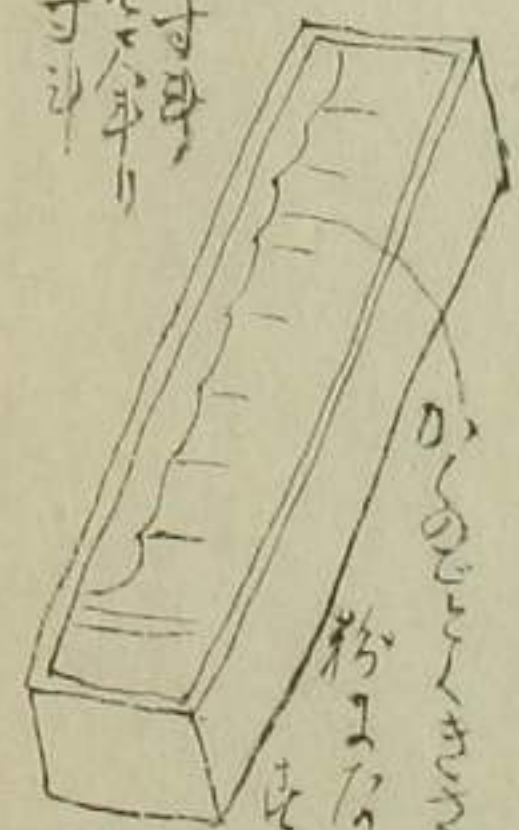
伊勢各所
宮川之堤

任成四堤元正天皇... 貞觀... 度く供水大風セシ事ハ
記録... 宗徳院大治三年... 勅而大宮... 度及大河内之神社
ヲ河水ノ守護ニ祭給也此時平清成... 下総守長秀同孫二郎頼澄... 俗三好ツカト云此兩人ハ三好... 此川傍之神領古法... 六尺有慶長四年大坂... 朝日殿云女子高附セテ... 己心火屋殿... 伊勢各所宮川之堤

批把木を用六角式八角
錐の圖



檜木
廣廿四寸
長廿五寸
厚三寸



此の... 伊勢各所宮川之堤

東照山... 御由緒之地也... 古市場... 平家當田國ヲ領セシ時大官ヲ... 菅原山神宮寺... 兼和元年三月十日... 空海刻之... 大同二年... 空海之刻

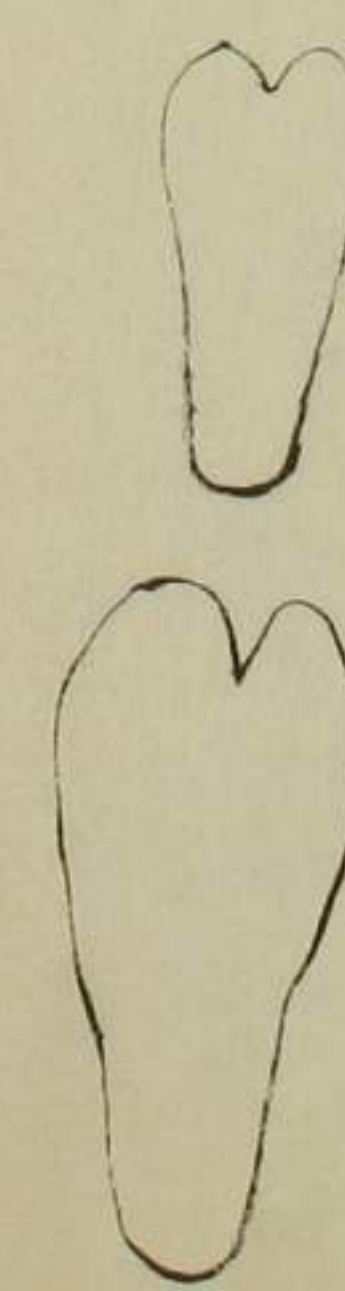


日曼陀羅... 諸佛依般若波羅密多故... 是大神咒是大明咒是無... 般若波羅密多咒神咒咒... 誦般若心經卷... 四言字之御所近延... 兼和四年... 月六日

兼和四年... 月六日... 伊勢各所宮川之堤

白皇女... 伊勢... 兼和四年... 月六日... 伊勢各所宮川之堤

以前地主神成伊勢郡一津波村明神也奉也御神道
 伊勢上人の中御宗也御宗家尾寺也世々上人位を三伊勢上人被
 寺号云称不元八山田西河原所有り天正年中宮に上りて化主神
 遊佛堂鐘磬平本尊何云至無真傳奏而此宗衣官家御宗也
 西行谷神照寺此所也又西行院也而自後有り於此
 御座八島丸大納言光廣郷奇所也又西行院也而自後有り於此
 法樂舎八幡山神也此所也又西行院也而自後有り於此
 不動堂明王院云此所也又西行院也而自後有り於此
 一徳院の御宗長頼三位下云貞言宗之九八百年次廿イナキ達
 宇治橋宇治郷有バ名宮八五十徳川之御宗也此所也又西行院也
 前後二鳥居有柱大末口三丈高廿二丈三丈五丈六丈金冠木ハ
 長廿三丈之裕二鳥井云北橋是ノ十所余下派中村曾渡河原アリ
 板橋御宗の御宗永吉子三年普光院將軍義教公御宗官時今ノ
 如キ大橋成之五十徳川又此所也又西行院也而自後有り於此
 儀禮村ノ邊り谷ノ分出一流ハ宇治山ノ谷ノ分出一流ハ中村
 楠部兼海村ヲスキテ二見ノ海至止也鏡石ノ谷ノ分出一流ハ中村
 斗リノ谷川ノ分出一流ハ鏡石ノ谷ノ分出一流ハ中村
 山上有り五徳川ノ川上ニ神足石有リ近年此所也鏡石ノ社
 山中明海之御宗是ヲ題而荒木田氏ノ長官他哥有リ
 云トモコレヲ畧ス北石ニテ斗リ大少斗リ有リ
 伊勢郡三元ノ備ニテ有リ



子良鑑子良鑑物忌父子宿願之子細外官曰
 附言子良鑑物忌父子宿願之子細外官曰
 神代子良鑑物忌父子宿願之子細外官曰
 のは子良鑑物忌父子宿願之子細外官曰
 仙院子良鑑物忌父子宿願之子細外官曰
 のは子良鑑物忌父子宿願之子細外官曰
 伊勢國三元の備ニテ有リ
 良怒親王慮于勅書

五十徳川橋五十徳川橋俗小此之宮橋也
 僧尼祥所僧尼祥所河原所
 守武神主守武神主八太承天寺ノ宮長官荒木田氏
 初ル獨吟初ル獨吟子句世の中百首
 神代山神代山初耳
 朝熊山朝熊山獄内宮
 天正十八年八月九日
 守武

万金丹... 秋田城之助實季... 下飛... 勝峯山金剛證寺... 佛牙舍利塔... 聖德太子天竺不傳... 秋田城之助實季... 石城山永松庵... 秋田城之助實季...

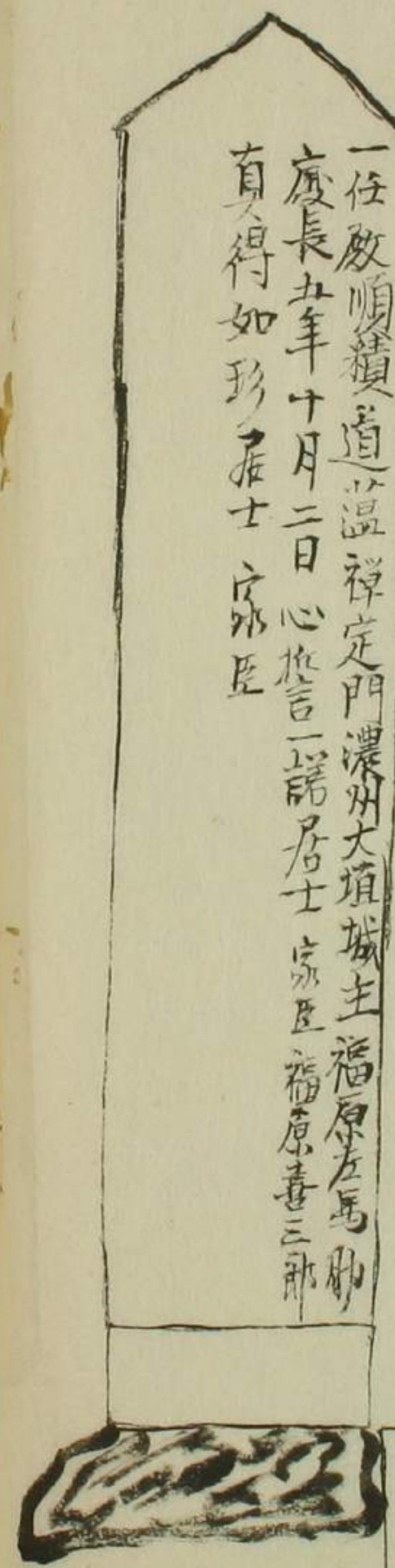
高乾院殿前持從空嚴梁空大居士

万治二年己亥 十一月廿九日

秋田城之助實季

同寺、福原右馬助之墓有り、高四尺余、横二尺余、

一任殿順續道温禪定門深州大垣城主福原左馬助 慶長九年十月二日心誓一諾居士 宗臣 福原喜三郎 貞得如形在士宗臣



八幡宮... 社家清原氏西宮の互記... 御遷宮此武八天武天皇... 御用我木出又山入... 小工三十六人... 外宮方... 棟梁... 尾州公御寄附... 出是是... 常為... 其門... 外宮方... 天... 長... 成... 司...

日吉山王祠... 古記云天智天皇御宇御鎮座有頃武之延曆七年
二諸堂建立之後三徐院延久三年御行同四年神事...
立治之五年... 四月... 神事... 延曆七年...
也公... 三... 延... 山... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
神... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
下... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
廿... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
本地... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
二宮... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
聖... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
八... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
八... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
唐... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
本... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
子... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
王... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
大... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
本... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
彌... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
岩... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
天... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...

延曆年中... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
知月七日... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
勅而十... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
圓融院... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
冷人廿... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
フ... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
朝... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
以後之... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
祭... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
第... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
役者... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
日吉御祭禮惣政所
延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
也平野明神之神
延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
前... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...



